

官報

號外

昭和九年三月七日

○第六十五回衆議院議事速記第十九號

帝國議會

昭和九年三月六日(火曜日)

午後一時十九分開議

議事日程 第十八號

昭和九年三月六日

午後一時開議

質問

一 國政運用ニ關スル質問(小池四郎君提出)

二 鬼怒川上流堰堤工事中止ニ關スル質問(風見章君提出)

三 對蘇關係ニ關スル質問(畑桃作君提出)

四 航空ニ關スル質問(永田良吉君提出)

五 漁業組合ト其ノ地先漁業ニ關スル質問(武富濟君提出)

第一 河川法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二 播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第三 製鐵所特別會計法廢止法律案(政府提出)

第四 原蠶種管理法(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 農業倉庫業法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 昭和三十七年度第一豫備金支出ノ件
昭和三十七年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和三十七年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和三十七年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件
昭和八年度第二豫備金支出ノ件
昭和八年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

第七 計理士法中改正法律案(世耕弘一君外二名提出) 第一讀會

第八 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(栗原彦三郎君外十二名提出) 第一讀會

第九 百貨店法案(野田文一郎君外二名提出) 第一讀會

第十 大正十五年法律第二十四號中改正法律案(地方稅ニ關スル件)(野田文一郎君外二名提出) 第一讀會

第十一 司法代書人法中改正法律案(立川平君外二名提出) 第一讀會

第十二 司法代書人法中改正法律案 第一讀會

(野田文一郎君提出) 第一讀會
第十三 司法代書人法中改正法律案(斯波貞吉君外一名提出) 第一讀會
第十四 蠶絲業組合法中改正法律案(風見章君提出) 第一讀會

第十五 郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案(寺田市正君外四名提出) 第一讀會
第十六 行政執行法中改正法律案(一松定吉君外六名提出) 第一讀會

第十七 速記士法案(內藤正剛君外一名提出) 第一讀會
第十八 地租法中改正法律案(山田助作君外九名提出) 第一讀會

第十九 建築士法案(星島二郎君外三名提出) 第一讀會
第二十 建築士法案(多田滿長君外三名提出) 第一讀會

第二十一 史蹟名勝天然紀念物保存法中改正法律案(天辰正守君外一名提出) 第一讀會
第二十二 農業保險法案(高田耘平君外五名提出) 第一讀會

第二十三 簡易森林火災保險法案(小山邦太郎君外十七名提出) 第一讀會
第二十四 漁船保險法案(工藤鐵男君外三名提出) 第一讀會

第二十五 刑事訴訟法中改正法律案(原夫次郎君外十三名提出) 第一讀會
第二十六 刑法中改正法律案(作田高太郎君外十三名提出) 第一讀會

第二十七 借地借家調停法中改正法律案(牧野賤男君外十三名提出) 第一讀會
第二十八 小作調停法中改正法律案 第一讀會

(牧野賤男君外十三名提出) 第一讀會
第二十九 民事訴訟法中改正法律案(牧野賤男君外十三名提出) 第一讀會
第三十 陪審法中改正法律案(牧野賤男君外十三名提出) 第一讀會

第三十一 產業組合法中改正法律案(風見章君提出) 第一讀會
第三十二 百貨店ノ小賣制限ニ關スル法律案(眞鍋儀十君外三名提出) 第一讀會

第三十三 水利組合法中改正法律案(熊谷五右衛門君提出) 第一讀會
第三十四 北海道土功組合法中改正法律案(林路一君外十三名提出) 第一讀會

第三十五 地方財政調整法案(勝正憲君外九名提出) 第一讀會
第三十六 所得稅法中改正法律案(大口喜六君外一名提出) 第一讀會

第三十七 地租法中改正法律案(松岡俊三君外四十二名提出) 第一讀會
第三十八 地租法中改正法律案(內ヶ崎作三郎君外十名提出) 第一讀會

第三十九 地租法中改正法律案(金井正夫君外四名提出) 第一讀會
第四十 地租法中改正法律案(熊谷五右衛門君外二十三名提出) 第一讀會

第四十一 決議案(南滿洲鐵道株式會社改造ノ件)(小池四郎君提出)
第四十二 決議案(內閣不信任ノ件)(安達謙藏君外二名提出)

官報號外

昭和九年三月七日

衆議院議事速記第十九號

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

○議長(秋田清君) 諸般ノ報告ヲ致サセマ
ス

〔書記官朗讀〕

一 政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ
衆議院議員小池四郎君提出國政運用ニ關
スル質問ニ對スル答辯書
(以上三月六日受領)

國政運用ニ關スル質問主意書

右成規ニ依リ提出候也

昭和九年二月六日

提出者 小池 四郎

國政運用ニ關スル質問主意書

去ル一月二十六日本員ハ國政運用ニ關シ
齋藤總理大臣並陸軍、海軍、拓務、農林
各大臣ニ其ノ所信ヲ質シタルニ其ノ答辯
ニ意ヲ得サルモノ多キヲ遺憾トセリ依テ
茲ニ左ノ諸點ニ關シ更メテ政府ノ所信ヲ
問フ

一 一月二十三日床次竹二郎氏ノ質問並

一月二十四日安藤正純氏ノ質問ニ對ス
ル總理大臣ノ答辯ハ陸海軍大臣ヲ含メ
タル内閣全體ノ意見ヲ代表シタルモノ
ナリヤ否ヤ

二 若總理大臣一個ノ所見ナリトセハ更
メテ陸軍大臣並海軍大臣ノ所信ヲ問フ

三 國政運用ニ關スル床次竹二郎氏ノ質
問主旨ト安藤正純氏ノソレトハ自ラ異
ルモノアリト認ム即チ前者ハ政黨ノ大
同團結ヲ基調トシタル政黨政治ヲ主張
シタルニ反シ後者ハ政黨對立下ニ於ケ
ル政黨政治ヲ主張シタリ然ルニ總理大
臣ハ其ノ何レニモ同感ノ意ヲ表明シタ
リ總理大臣ハ果シテ其ノ何レニ同感ナ

ルヤ更メテ其ノ所信ヲ問フ
右及質問候也

昭和九年三月六日

内閣總理大臣 子爵齋藤 實

衆議院議長 秋田清君

衆議院議員小池四郎君提出國政運用ニ關
スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員小池四郎君提出國政運用ニ
關スル質問ニ對スル答辯書

一、一月二十三日ノ床次竹二郎君ノ御質
疑同二十四日安藤正純君ノ御質疑ニ對
シテ答辯シタルハ内閣總理大臣トシテ

内閣全體ノ意見ナルコト勿論ナリ
三、國政運用ニ關シテノ所信ニ就キ其ノ
節及小池君ノ一月二十六日ノ御質疑ノ
際ニ述ベタルハ憲法ノ條章ニ循ヒ議會
制度ノ圓滿ナル運用ニ依リ憲政ノ發達
ヲ希望シ、立憲政治有終ノ美ヲ濟スコ
トニ努力シツツアリトノ趣旨ナリ

右及答辯候

昭和九年三月六日

内閣總理大臣 子爵齋藤 實

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲
茲ニ掲載ス〕

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ
對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
(以上三月五日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
盲人保護法案
提出者 風見 章君
(以上三月三日提出)

獸疫調査所擴充ニ關スル建議案
提出者 三善 信房君 寺田 市正君

溫泉法制定ニ關スル建議案 岸 衛君

富士國立公園指定促進ニ關スル建議案 提出者 岸 衛君

國道八號線改修速成ニ關スル建議案 提出者 岸 衛君

大崎 清作君 胎中楠右衛門君
田邊 七六君 竹内友治郎君
福田 虎龜君 川手 甫雄君

關東州ニ工業學校設置ニ關スル建議案 提出者 仙波 久良君

朝鮮ニ裁判所構成法及辯護士法實施ニ關
スル建議案 提出者 依 孫一君 橫山金太郎君

一松 定吉君 牧山 耕藏君
原 夫次郎君 藤田 若水君
武富 濟君 牧野 賤男君
磯部 尙君 上野 基三君
宮崎 一君 篠原 義政君

人造バタ―取締ニ關スル建議案 提出者 林 路一君

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ
如シ
日英會商ニ關スル質問主意書 提出者 鷲澤與四二君

大演習時ノ御警衛其ノ他ニ關スル質問主
意書 提出者 中山 福藏君

移植民政策確立ニ關スル質問主意書 豐田 豐吉君
(以上三月三日提出)

一 去三日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
第一部選出 杉山元治郎君(龜井貫一郎
君補闕)

豫算委員 小山 谷藏君(野中徹也君
補闕)

第六部選出 決算委員 中村 繼男君(加藤鯛一君
補闕)

第七部選出 去三日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任
委員左ノ如シ

第二部選出懲罰委員 佐藤 啓君
第六部選出懲罰委員 井上 剛一君
去三日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如
シ

石油業法案(政府提出)委員 堀江正三郎君
鈴木 英雄君 山田 又司君
杉本國太郎君 田中 貞二君
青山 憲三君 小谷 節夫君
長田 桃藏君 永田 良吉君
上原平太郎君 綾部健太郎君
志賀和多利君 田島勝太郎君
佐藤 正君 池田 秀雄君
佐藤 與一君 高橋壽太郎君
眞鍋 勝君

一 去三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
刑法中改正法律案(一松定吉君外五名提
出)外二件委員
辭任手代木隆吉君 補闕内藤 正剛君
一 昨五日齋藤内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令
アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

提出者 中山 福藏君

陸軍少將 永田 鐵山
第六十五回帝國議會陸軍省所管事務政府委員被仰付

一昨五日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ

一三 岡本 一巳君
一四 江藤源九郎君
一二 西方 利馬君
二三 津雲 國利君

一昨五日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第二部選出 野田文二郎君 (佐藤啓君補闕)

第六部選出 懲罰委員 清瀬 一郎君 (井上剛一君委員左ノ如シ)

一昨五日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第一部選出豫算委員 杉山元治郎君
第一部選出決算委員 矢野 晋也君
第八部選出決算委員 眞鍋 勝君

一昨五日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

石油業法案(政府提出)委員 青山 憲三君
理事 永田 良吉君 小谷 節夫君
眞鍋 勝君

一昨五日特別委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

農業倉庫業法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員 岡田喜久治君 (理事原淳一郎君理事)

二月十七日委員辭任ニ付其ノ補闕

一昨五日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)委員

辭任 一瀬 一二君 補闕 瀨川 嘉助君
辭任 野田 俊作君 補闕 世耕 弘一君

農業倉庫業法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員

辭任 高橋 守平君 補闕 吉川 吉郎兵衛君
衆議院議員選舉法中改正法律案(政府提出)委員

辭任 伊禮 肇君 補闕 伊豆 富人君
辭任 丸山 浪彌君 補闕 三上 英雄君

○議長(秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致シマス、第六部選出懲罰委員

天辰正守君、第七部選出懲罰委員望月圭介君ヨリ、常任委員辭任ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ガナケレバ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補闕選舉ヲ行ヒ、御届アラシコトヲ望ミマス——是ヨリ日程ニ入りマス

○青木雷三郎君 議事日程變更ノ緊急勸議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第一乃至第六ヲ繰上上程シ、逐次其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシク——日程

第一、河川法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——内務參與官勝田水吉君

第一 河川法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

河川法中左ノ通改正ス

第六十六條 北海道ニ付テハ本法中府縣ニ關スル規定ハ道ニ關シ、水利組合ニ關スル規定ハ土功組合ニ關シ之ヲ適用ス

第六十七條 北海道ノ河川中主務大臣ノ指定スルモノニ關シテハ當分ノ内第二十四條第一項及第四十二條第二項ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設タルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員勝田水吉君登壇〕

○政府委員(勝田水吉君) 只今議題トナリマシタ河川法中改正法律案提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、近時北海道ニ於ケル拓殖事業ノ進捗、諸般産業ノ發達ニ伴ヒマシテ、河川ノ重要性ガ頓ニ増大シテ參リマシタノデ、此際府縣ト同様ニ、北海道ノ河川ニモ河川法ヲ適用致シ、一層其保護取締ヲ適切ニスルノ必要ヲ認ムルノデアリマス、尙又最近ノ北海道ニ於キマスル頻々タル水害ニ鑑ミマシテ、政府ハ本議會ニ石狩川上流外五河川ノ治水事業計畫ヲ提案致シマシタ關係モアリ、工事ノ執行上ヨリ考ヘマシテモ其必要ヲ認メマシテ、茲ニ河川法中所要ノ改正ヲ施シ、北海道河川ニ河川法ヲ適用セントスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラシコトヲ望ミマス(拍手)

○議長(秋田清君) 本案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○青木雷三郎君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシク——日程第二、播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——鐵道政務次官名川侃市君

第二 播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

政府ハ播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員名川侃市君登壇〕

○政府委員(名川侃市君) 只今上程ニナリマシタ法律案ノ提案ノ理由ヲ簡單ニ說明致シマス、今回提案致シマシタ法律案ハ、播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ營業廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スルモノデアリマス、播電鐵道ハ兵庫縣ノ神宮町ト網干港間ニアル地方鐵道デアリマスガ、國有鐵道姫津線ガ之ニ接近並行シテ敷設セラレマシタ結果、其影響ヲ受ケマシテ營業ヲ繼續スル

○議長(秋田清君) 本案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシク——日程第二、播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——鐵道政務次官名川侃市君

第二 播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

政府ハ播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員名川侃市君登壇〕

○政府委員(名川侃市君) 只今上程ニナリマシタ法律案ノ提案ノ理由ヲ簡單ニ說明致シマス、今回提案致シマシタ法律案ハ、播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ營業廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スルモノデアリマス、播電鐵道ハ兵庫縣ノ神宮町ト網干港間ニアル地方鐵道デアリマスガ、國有鐵道姫津線ガ之ニ接近並行シテ敷設セラレマシタ結果、其影響ヲ受ケマシテ營業ヲ繼續スル

コトガ出来ナクナリマシタノデ、其營業廢止ニ依ッテ生ズル損失ヲ補償セントスル次第デアリマス、何卒御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(秋田清君) 質疑ヲ許シマス——戸田由美君——戸田君ハ居ラレマセヌ、戸田君ハ在席ナキ模様デアリマスカラ、質疑ヲ拋棄シタルモノト認メテ進行致シマス、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○青木雷三郎君 本案ハ政府提出、鐵道敷設法中改正法律案委員ニ合セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三、製鐵所特別會計法廢止法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——加藤鏖五郎君

第三 製鐵所特別會計法廢止法律案 (政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書 一製鐵所特別會計法廢止法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也 昭和九年三月三日 委員長 加藤鏖五郎 衆議院議長秋田清殿 (加藤鏖五郎君登壇)

○加藤鏖五郎君 只今議題トナリマシタル

製鐵所特別會計法廢止法律案ノ委員會ノ經過ニ結果ヲ御報告致シマス、日本製鐵株式會社ガ成立サレマシタガ爲ニ、八幡ノ製鐵所特別會計法ガ、必要ガナクナリマシタガ故ニ、八年度限りノ廢止致シマシテ、其現金及ビ權利義務ハ一般會計ニ之ヲ歸屬セシムルト云フノデアリマシテ、是ハ當然ナコトデゴザイマスルガ故ニ、委員會ニ於テハ彼此レノ議論ナクシテ、原案ヲ其儘認メタ次第デゴザイマス、唯此製鐵所特別會計法廢止ニ關聯致シマシテ、昨今我ガ衆議院ノ本會議ニ於キマシテモ、貴族院ニ於キマシテモ、世間ニ於キマシテモ、此資産見積ニ對シテ疑惑ノ眼ヲ以テ彼此レ議論シテ居リマスガ故ニ、本委員會ニ於キマシテハ之ヲ明ニスル爲ニ、政府ニ對シテ色々數字ノ參考書類ヲ要求シテ、之ニ對シテ質疑應答ガ行ハレタノデアリマス、ソレデ本日此席ニ於テ、政友會モ民政黨モ、別ニ討論ハセナイカラ、私カラ其經過ヲ報告シテ貰ヒタイト云フコトデゴザイマスルガ故ニ、ソレニ對シテ極ク荒マシ、御報告ヲ簡單ニ致シタイト存ジマス、今回ノ製鐵合同ニナリマシタコトニ對シテノ非難ノ點ハ、所謂民間ノ五社ガ、資産ヲ過大ニ見積ツタモノデアアル、殊ニ政府ハ前議會ニ於テ聲明シタト違ッタル基礎ニ於テ、率ヲ勝手ニ變更ラシテ、民間ノ資産ヲ過大ニ見積ツタモノデアアル、斯様ニ致シタル結果、製鐵會社ニハ重クナッテ、製鐵會社ニハ是ガ薄クナッタノデアアル、隨テ今回出来タル製鐵會社ハ、資産ガ水膨レヲシタルガ爲ニ、生産費ハ前議會ニ言ツタヤウニ安クナラヌノデアアル、是ガ非難ノ骨子デアアルノデアリマス、之ニ對シテ委員會ニ於テハ、細カイ數字ノ要求ヲ政府ニ求メマシ

テ、質疑應答ヲ致シタノデアリマシタ 先ノ議會ニ於キマシテ、政府ハ此資産ノ見積ノ複成式評價、ソレカラ稼高式評價ト云フ、二ツノ評價基準ヲ出シタノデアリマシタガ、此複成式評價法ト申シマスノハ、今會社ノ設備ヲ其儘造ツタラバ、ドレダケ掛ルデアラウカト云フノデアリマシテ、稼高式評價法ト云フノハ、會社ノ總收入カラ總支出ヲ差引イタ所謂稼高利分ハ、ドレダケデアアルカト云フノデアリマシテ、其利分ニ對シテ、或ル率ヲ以テ除シテ、サウシテ資本ニ還元スル、是ガ稼高式評價法デアリマシテ、前議會ノ當時ニ於テ、政府ハ複成式評價法ヲ一トシ、ソレカラ稼高式評價法ト二トシテ、此一ト二トヲ加ヘテ、之ヲ三デ割ツテ、ソレカラ更ニソレデハ資本ガ大キクナルガ故ニ、之ニ三分ノ二ト云フモノヲ乘ジテ、資本ヲ壓縮シテ、ソレヲ査定評價ト致シタノデアリマシタ、然ルニ今回ハ政府ハ複成式評價ハ前ノ一ト致シマシテ、稼高式評價ハ前ノ二ト一トシテ、サウシテ之ヲ一ツノ同ジ重サニ見テ、三デ割ルノ二デ割ツタノデアリマス、サウシテ之ニ前ハ三分ノ二ヲ乘ジタノラ、今度ハ四分ノ三ヲ乘ジテ査定評價ヲ見出シタノデアリマシタガ爲ニ——何故左様ナ變更ヲ政府ガ勝手ニヤルノデアアルカト云フノガ世間ノ非難デ、委員會ニ於テモ之ニ對シテ、質疑應答ヲ重ネタ次第デアリマス、之ニ對シテ政府ハ次ノヤウニ申シタノデアリマス、複成式評價ハ、前ノ通りデ宜シイガ、稼高式評價法ハ、前ノ通りニシタナラバ、經濟界ノ變化ノ爲ニ鐵ノ代價ガ上ツテ、生産額ガ多クナッタガ故ニ、之ヲ前ノ通り二トスルナラバ、徒ニ資本ガ大キクナルガ故ニ、之ヲ少クスル爲ニ、

稼高ノ方ノ二ト云フモノヲ一トシテ、サウシテ一トヲ寄セタモノヲ二デ割ツテ、或ル一ツノ査定額ヲ出シ、サウシテ之ニ前通り三分ノ二ヲ乘ジマス云フト、餘リ又資本ガ少クナルガ故ニ、今度ハ之ヲ四分ノ三ニ變ヘタカト云ヘバ、前ノ議會ノ當時ニ於テ、適當ノ設備費ハ六十一圓見當デヤリタイト云フコトヲ言ツタガ故ニ、三分ノ二ニスルト、ソレヨリ餘リ少クナリ過ギルガ爲ニ、四分ノ三ニシテ、六十二圓四ツ錢ト云フ、前ノ聲明ノ見當ニ之ヲ持ッテ來タノデアアルト云フノデアリマシテ、色々數字ニ依ッテ參考資料ヲ見タ結果、委員會ニ於テハ尤デアアルト云フノデ承認致シタ次第デアリマス

又製鐵會社ニ初メ非常ニ重クナリ過ギテ、製鐵會社ニ薄クナッタデハナイカト云フノニ對シマシテ、色々ノ數字ノ結果左様デナイコトガ明確ニナリマシタガ、是等ノ比率ノ數字ハ之ヲ略スル次第デアリマス、生産費ガ高クナリ過ギハシナイカト云フノニ對シマシテ、政府ハ數字ヲ以テ示スコトハ、對外的ニ困ルノデアアルガ、事實事業ノ合理化ニ依ッテ、或ハ原料ノ大量購入ニ依リ、輸送ノ點ニ於テモ、總テニ於テ統制ヲ行ヒ、合理化スルガ故ニ安クナルト云フコトヲ説明致シマシテ、委員會ニ於テモ之ヲ諒致シタ次第デアリマス

最後ニ此委員會ニ於テハ、今回ノ製鐵合同ニ對シテ世間ガ驚々ト非難致スノハ、非難スル論者ガ詳細ナル數字ノ上ニ立ッテ、斯クノ數字ガ斯クノナルガ故ニ、此合同ハ斯様ナ不合理ノ資産ノ見積ヲシタノデアアルト云フコトヲ、數字ニ依ッテ示サ

テ、製鐵會社ニハ是ガ薄クナッタノデアアル、隨テ今回出来タル製鐵會社ハ、資産ガ水膨レヲシタルガ爲ニ、生産費ハ前議會ニ言ツタヤウニ安クナラヌノデアアル、是ガ非難ノ骨子デアアルノデアリマス、之ニ對シテ委員會ニ於テハ、細カイ數字ノ要求ヲ政府ニ求メマシ

テ、質疑應答ヲ致シタノデアリマシタ 先ノ議會ニ於キマシテ、政府ハ此資産ノ見積ノ複成式評價、ソレカラ稼高式評價ト云フ、二ツノ評價基準ヲ出シタノデアリマシタガ、此複成式評價法ト申シマスノハ、今會社ノ設備ヲ其儘造ツタラバ、ドレダケ掛ルデアラウカト云フノデアリマシテ、稼高式評價法ト云フノハ、會社ノ總收入カラ總支出ヲ差引イタ所謂稼高利分ハ、ドレダケデアアルカト云フノデアリマシテ、其利分ニ對シテ、或ル率ヲ以テ除シテ、サウシテ資本ニ還元スル、是ガ稼高式評價法デアリマシテ、前議會ノ當時ニ於テ、政府ハ複成式評價法ヲ一トシ、ソレカラ稼高式評價法ト二トシテ、此一ト二トヲ加ヘテ、之ヲ三デ割ツテ、ソレカラ更ニソレデハ資本ガ大キクナルガ故ニ、之ニ三分ノ二ト云フモノヲ乘ジテ、資本ヲ壓縮シテ、ソレヲ査定評價ト致シタノデアリマシタ、然ルニ今回ハ政府ハ複成式評價ハ前ノ一ト致シマシテ、稼高式評價ハ前ノ二ト一トシテ、サウシテ之ヲ一ツノ同ジ重サニ見テ、三デ割ルノ二デ割ツタノデアリマス、サウシテ之ニ前ハ三分ノ二ヲ乘ジタノラ、今度ハ四分ノ三ヲ乘ジテ査定評價ヲ見出シタノデアリマシタガ爲ニ——何故左様ナ變更ヲ政府ガ勝手ニヤルノデアアルカト云フノガ世間ノ非難デ、委員會ニ於テモ之ニ對シテ、質疑應答ヲ重ネタ次第デアリマス、之ニ對シテ政府ハ次ノヤウニ申シタノデアリマス、複成式評價ハ、前ノ通りデ宜シイガ、稼高式評價法ハ、前ノ通りニシタナラバ、經濟界ノ變化ノ爲ニ鐵ノ代價ガ上ツテ、生産額ガ多クナッタガ故ニ、之ヲ前ノ通り二トスルナラバ、徒ニ資本ガ大キクナルガ故ニ、之ヲ少クスル爲ニ、

稼高ノ方ノ二ト云フモノヲ一トシテ、サウシテ一トヲ寄セタモノヲ二デ割ツテ、或ル一ツノ査定額ヲ出シ、サウシテ之ニ前通り三分ノ二ヲ乘ジマス云フト、餘リ又資本ガ少クナルガ故ニ、今度ハ之ヲ四分ノ三ニ變ヘタカト云ヘバ、前ノ議會ノ當時ニ於テ、適當ノ設備費ハ六十一圓見當デヤリタイト云フコトヲ言ツタガ故ニ、三分ノ二ニスルト、ソレヨリ餘リ少クナリ過ギルガ爲ニ、四分ノ三ニシテ、六十二圓四ツ錢ト云フ、前ノ聲明ノ見當ニ之ヲ持ッテ來タノデアアルト云フノデアリマシテ、色々數字ニ依ッテ參考資料ヲ見タ結果、委員會ニ於テハ尤デアアルト云フノデ承認致シタ次第デアリマス

又製鐵會社ニ初メ非常ニ重クナリ過ギテ、製鐵會社ニ薄クナッタデハナイカト云フノニ對シマシテ、色々ノ數字ノ結果左様デナイコトガ明確ニナリマシタガ、是等ノ比率ノ數字ハ之ヲ略スル次第デアリマス、生産費ガ高クナリ過ギハシナイカト云フノニ對シマシテ、政府ハ數字ヲ以テ示スコトハ、對外的ニ困ルノデアアルガ、事實事業ノ合理化ニ依ッテ、或ハ原料ノ大量購入ニ依リ、輸送ノ點ニ於テモ、總テニ於テ統制ヲ行ヒ、合理化スルガ故ニ安クナルト云フコトヲ説明致シマシテ、委員會ニ於テモ之ヲ諒致シタ次第デアリマス

レルガ故ニ、世間モ信用ヲシ、又左様デア
ルカノヤウニモ思フノデアアルガ、論者ガ示
ス所ノ數字ニ對シテ、政府ハ如何ナル所見
ヲ有スルカト云フノニ對シテハ、政府ハ極
メテ率直大膽ニ、次ノヤウナ答辯ヲ致シタ
ノデアリマス、論者ガ此合同ノ資産見積ニ
對シテ、詳細ナル數字ヲ示サレルケレド
モ、此數字ト云フモノハ架空ノ數字デア
ル、出所不明ノ架空ノ數字デアアル、而モ是
ハ想像モ及バザル數字デアアル、想像モ及バ
ザルト斯ウ申ス、非常識ナル術違ヒノ數字
ヲ示シテ、斯様デアアルガ故ニ斯ウダト言ハ
レルケレドモ、非常識架空ナ、言葉ハ過ギ
ルケレドモ、出タラ目ナ數字ヲ基礎トシテ
論議サレルガ故ニ、迷惑千萬ヲ感ズルノデ
アル、政府ノ數字ハ極メテ根據アリ、正シ
イ數字デアアルケレドモ、自己製造ノ出タラ
目架空ノ數字ヲ根據トシテ、眞シヤカニ論
ゼラレルコトハ、政府モ洵ニ遺憾トスル所
デアツテ、斯様ナ質疑ニ對シテ、斯様ナ答
辯ヲスル機會ヲ與ヘラレタルコトヲ幸トス
ルト云フ、大臣ガ率直大膽ナル答辯ヲ爲サ
レタノデアリマシテ、吾々モ數字ニ付テ之
ヲ見テ諒承ヲ致シタ次第デアリマス

斯クテ討論ニ入りマシテ、政友會ヲ代表
シテ横川重次君ヨリ原案ヲ贊成シ、又合同
ニ依ル所ノ疑惑ハ、之ヲ大體一掃シタト云
フ討論ガゴザイマシタ、民政黨ヲ代表シテ
濱野徹太郎君ヨリ、同様ノ御意見ノ開陳ガ
アリ、國民同盟ヲ代表シテ高橋壽太郎君ヨ
リ、又原案ヲ認メルト云フ贊成意見ガアリ
マシテ、是ニハ製鐵事業確立ニ關スル一ツ
ノ希望ノ御意見ガゴザイマシタガ、是ハ高
橋君ガ後刻討論ノ場合ニ述ベラレマスルガ
故ニ、私ハ省略シマス、其他色々有益ナ

ル質疑應答ガゴザイマシタガ、數字ニ涉ル
コトデアリマスルガ故ニ、速記録ニ就テ御
覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、何卒委員會決定
ノ通りニ、御贊成ヲ希望致シマス(拍手)
○議長(秋田清君) 討論ノ通告ガアリマ
ス、之ヲ許シマス——高橋壽太郎君

〔高橋壽太郎君登壇〕
○高橋壽太郎君 製鐵所特別會計廢止法案
ニ對シマシテ、次ノ如キ希望條件ヲ附シ
テ、之ニ贊成ヲスル者デアリマス、即チ「平
戰兩時ニ於ケル製鐵事業ノ確立ヲ期スル爲
速ニ内地製鐵業資源ノ開發ヲ行フヘシ」是
ガ希望條件デアリマス、是カラ希望條件ヲ
附スル理由ニ付テ、簡單ニ申上ゲテ見タイ
ト思ヒマス

日本製鐵株式會社法ノ第一條ヲ見マスル
ト「日本製鐵株式會社ハ本邦ニ於ケル製
鐵事業ノ確立ヲ圖ル爲政府其ノ他ノ製鐵
事業者ノ製鐵事業ヲ基礎トシテ之ヲ設立
スルモノトス」トシテアリマス、洵ニ堂々
タル宣言デアリマス、之ヲ讀ミマスルト、
日鐵會社ノ成立ハ、我國ニ於ケル製鐵事業
ノ確立ヲ見ルニ至リタカノ如クニモ見エ
ルデアリマスガ、併シ委員會ニ於テ商工當
局ト質疑應答ノ結果ハ、必シモ然ラザルニ
非ズヤトノ感ヲ與ヘタノデアリマス、又製
鐵株式會社法ノ第二條ノ成文ヲ見マスルト
「日本製鐵株式會社ハ製鋼ノ製造及販賣ニ
關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會
社トス」ト斯ウゴザイマス、前ノ宣言ハ如何
ニモ堂々トシテ居リマスルガ、第二條ノ條
文ヲ狹義ニ解シマスルト、單ナル製造販賣
ノ會社ニ過ギザルニ非ズヤト思ハシムルノ
デアリマス、ダガ併シ同上第九條ニアル條
文ハ、此算整勘定ニ墮スルコトヲ避ケル爲

ニ、必要ナル條文ダト考ヘラレマス、即チ
「主務大臣ハ日本製鐵株式會社ノ業務ニ關
シ軍事上其ノ他公益上必要ナル命令ヲ爲ス
コトヲ得」ト斯ウゴザイマスガ、此條文ノ
發動ニ依ッテ、製鐵株式會社ガ、果シテ本邦
ニ於ケル製鐵事業ノ確立ヲ圖リ得ルヤ否ヤ
ト云フコトニ相成ルト存ズルノデアリマ
ス、仍テ商工大臣ニ、主務大臣ハ軍事上其
他公益上必要ナル事ニ關シテ、他ノ大臣ヨ
リ如何ナル交渉照會ニ接シタカト云フコト
ヲ尋ネマシタ所ガ、未ダ何モ公式ノ照會ニ
ハ接シテ居ラナイ、唯非公式ニハ寄々話ガ
アルト云フコトデアッタノデアリマス、私ハ
此答辯ヲ得マシテ、少カラズ驚イタノデア
リマス、此非常時ノ際ニ、此製鐵會社ノ設
立ヲ既ニ見タニモ拘ラズ、未ダ軍事上其他
ノ事柄ノ如キ、主務大臣ガ何等ノ交渉ニ與
ラスト云フノハ、甚ダ緩急ニ過ギルヂヤナ
イカト思フノデアリマス、御承知ノ如ク我
ガ海軍ノ如キハ、三年ニ一度シカ催サナカッ
タ海軍大演習ヲ、昨年モ今年モ之ヲ舉行ス
ルコトニナリ、今年ノ如キハ六百數十方圓
ノ豫算ガ計上サレテ居ル、ソレ程常例ヲ破ッ
テマデモ、夜ヲ日ニ繼イデ、軍事的ノ施設
ヲ完了セントスル時ニ當ッテ、此軍事上重大
ナル關係ノアル日鐵會社ノ成立ニ對シテ
モ、未ダ何等軍事上ノ交渉ヲ開始シナイト
云フコトハ、甚ダ私共ノ怪訝ニ堪ヘナイ所
デアリマス(拍手)固ヨリ軍部大臣ハ、商工
大臣ヲ信賴サレテ、表向ノ交渉ハセナクテ
モ、自ら趨ク所ニ趨クモノデアルト云フ、
悠長ナル考ヲ持タレテ居ルノダラウト思ヒ
マスガ、固ヨリ國務大臣ガ國務大臣ヲ信賴
スルコトハ、決シテ惡イ事デアリマセス、
併ナガラ商工大臣ハ矢張算整勘定ヲ主トス

ル方デアリ、軍部大臣ハ算整ヲ超越シテ、
更ニ大ナル點ニ著眼サレル方デアリマスル
カラ、其間自ラ柄鑿相容レナイ一點ガ存ス
ルダラウト思フノデアリマス、其一例ヲ此
處デ申上ゲマスルナラバ、八幡製鐵所ハ、
從來戰時ノ際ノ應急用トシテ、二百五十万
觔ノ鐵鑛石ヲ貯ヘテ居ッタノデアリマス、是
ハ昨年帝國議會ニ於テ、前商工大臣ノ言明
シタ所デアリマスガ、其鐵鑛石ガ今日ハ二
百二十二万觔ニ減少シテ居ルノデアリマス、
正ニ三十万觔ノ減少デアリマス、此非常時
ニ鐵鑛石ガ増シコソスレ、減ラシテハナラ
ナイモノデアアルニ拘ラズ、一年シカ經タナ
イ間ニ、三十万觔ノ赤字ヲ見ルト云フコト
ハ、甚ダ怪シカラズコトダト思フノデアリ
マス、何故ニ軍部大臣ガ、是等ニ對シテノ監
視ヲシナカッタノデアアルカ、何故是等ニ對シ
テ十分ナル警告ヲ發シナカッタノデアアルカ、
私ハ此一事ヲ以テ見ルト云フト、軍事上ノ
施設ニ可ナリ無理ガアルト云フコトヲ、概
嘆セザルヲ得ナイノデアリマス、先ヅ戰時
ニドレダケノ鐵、鋼ガ必要デアアルカト云フ
コトハ、中々是ハ算定ノ困難ナ事項デアリ
マス、中島前商工大臣ノ言ニ依レバ、戰時
一人當リノ一年ノ所要額ハ三觔、殊ニ科學
兵器ヲ使用スル裝備ノ整ウタ軍隊ハ、一年
一人當リ四觔ノ鐵鋼ヲ必要トスルト云フコ
トデアリマス、サウ致シマス、假ニ陸軍
ガ百万人ヲ動員致シマス、一年ニ三百万
觔、事ニ依リマス、恐ラク一人當リ
ト云フコトニ相成リマス、恐ラク一人當リ
一年四觔ノ鐵鋼ヲ必要トスルト云フコト
ハ、決シテ多キニ過ギルノヂヤナカラウト
思ヒマス、何時デモ前ノ戰役ノ統計カラ推
定致シマシテ、次ノ戰役ニハ凡ソ此位ノ器

備ナガラ商工大臣ハ矢張算整勘定ヲ主トス

備ナガラ商工大臣ハ矢張算整勘定ヲ主トス

備ナガラ商工大臣ハ矢張算整勘定ヲ主トス

備ナガラ商工大臣ハ矢張算整勘定ヲ主トス

備ナガラ商工大臣ハ矢張算整勘定ヲ主トス

備ナガラ商工大臣ハ矢張算整勘定ヲ主トス

材ハ必要デアラウト云フ算定ハ、屢、行ハレタノデアリマスガ、何時デモソレガ桁外レニ少イノデアリマス、例ヘバ日露戰爭ノ際ニ、旅順攻圍ノ前ニ行ハレタ南山ノ戰鬪ノ如キハ、アノ戰鬪デ、日清戰爭デ使用致シマシタ彈藥ノ大半ニ當ル分ヲ消費シテシマツタ、又世界大戰ノ際ニハ、佛蘭西ノ如キハ開戦後一箇月足ラズニ「マルヌ」ノ開戦マデニ、其準備シテ居ッ彈藥ノ全部ヲ消費シタト云フ實例ガアリマス、ソレニ依ッテ見マス、決シテ一年一人當リ四艘ノ鋼鐵ヲ使用スルト云フコトハ、多キニ過ギタモノデナイト申シテ宜カラウト思ヒマス、假ニサウ云フ風ナ數字ヲ當嵌メテ考ヘテ見マス、戰時ニ於ケル我國ノ一般用及ビ軍事用ノ鋼鐵ノ量ト云フモノハ莫大ナモノデ、恐ラク戰鬪二箇年ノ間ニハ、一千万噸以上ノ鋼鐵ヲ必要トスルダラウト思フノデアリマス

楮テ其鋼鐵ヲ戰時如何ニシテ求メ得ルカト云フ問題ニナツテ來マス云フト、中々是ハ大變ナ事ニ相成ルト思ハレルノデアリマス、先ヅ政府ハ之ニ對スル對策トシテ、政府ノ言明スル所ニ依リマスレバ、先ヅ二百五十万噸ノ鑛石ノ貯ヘガアル、之ヲ消化スル間ニハ、ソレノ朝鮮、滿洲或ハ内地等カラ、色々ナ方法手段ニ依ッテ、漸次製鐵材料ノ供給ヲ仰イデ、何トカ間ニ合ハセテ行カウ、斯ウ云フコトヲ申サレルノデアリマス、恐ラク朝鮮、滿洲カラ持ッテ來ナケレバナラヌ鑛石ノ量ト云フモノハ、此二年間ニ少クトモ五六百万噸ヲ下ラザル巨額ナモノト相成ルト計算サレマス、此大量ノ鐵ダケデモ、數百万噸ニ上ル巨額ノ物資ヲ内地ニ移入スルト云フコトハ、戰時ニハ非常ナル困難ナ事業デアリマス、此事ニ對シテ海軍

大臣ハ、昨年ノ製鐵株式會社法案ノ委員會ニ於キマシテ、是等ノ我國ノ勢力範圍内ニ於ケル海上輸送ノコトヲ確保ハ、十分ニスル積リデアルト云フコトヲ言明サレテ居リマス、如何ニモ尤ナコトデアリマシテ、サウナケレバナラヌコトデアリマス、即チ國防ト云フコトハ、國土ノ防衛ト我國ノ生命線ノ確保ニアルノデアリマスカラ、ソレハ海軍ノ當然ノ任務トシテ然ルベキコト、考ヘマス、併シ専門的見地カラ、此日滿線ニ互ル間ノ海上輸送ノ關係ヲ考ヘテ見マス云フト、是ハ決シテ容易ナコトデハナイノデアリマス、試ミニ世界大戰當時ニ、地中海ニ於テ如何ナル海上輸送ガ行ハレタカ、ドレ位多數ノ艦船ガ之ニ使用セラレタカト云フ戰績ニ徴シテ見マスルト云フト、驚クベキモノガアルノデアリマス、此地中海ノ海路輸送ノ護送ニハ、我國カラモ第二特務艦隊ト稱セラレル驅逐艦十二艘ニ、巡洋艦一二隻ヲ加ヘタ一隊ガ派遣セラレテ、華々シキ功績ヲ擧ゲタノデアリマスガ、此地中海ニ於ケル聯合國ノ艦艇ト云フモノハ、隨分多イ數ニ上ツテ居リマス、専ラ潜水艦ヲ防グ方ノ、例ヘバ輸送船隊ヲ護送スルヤウナモノニ使ハレタ數ハ九百艘ニ上リ、其中驅逐艦ガ百十四隻ニモ達シテ居リマス、尙ホ此以外ノ、獨逸、埃地利ノ潜水艦ノ根據地カラ出サナイ爲ニ、ソレヲ封鎖スル爲ニ使用セラレタ船數ト云フモノハ「アドリヤ」海ダケデモ驅逐艦五十四隻、外ニ二百有餘隻ノ小サイ船ガ使用サレテ居リマス、是レ以外ニモ大キナ軍艦ガ相當多數ニ上ツテ居リマス、然ラバ其時ノ地中海ニ、ドレ位ノ敵潜水艦ガアツカト言ヒマス、獨逸潜水艦ガ三十六隻、埃地利ガ五隻、併セテ四十一

隻ノ潜水艦ガアツタノデアリマス、此潜水艦ガ暴レ廻リマシテ、大正六年ノ五月カラ七年ノ八月ニ互ル十數箇月ノ間ニ、聯合國ノ汽船ヲ沈メルコト百四十万噸ニ及ビ、非常ナ損害ヲ與ヘタノデアリマス、地中海ノ面積ハ、我が戰時輸送ノ重大任務ヲ引受ケラル、ト言ハレル黃海、及ビ朝鮮海峽附近ノ海面ヲ含ム面積カラ見マスルト云フト、正ニ十倍デアリマス、此處ニ四十一隻ノ船ガ暴レ廻ッテ、今申上ゲタヤウナ大損害ヲ生ゼシメタノデアリマスカラ、其十分ノ一ノ狭イ面積ニ持ッテ來マス、潜水艦ノ密度ハ僅ニ四艘デモ、相當ナ惡戯ガ出來ルト推定セラレルノデアリマス、隨テ此方面ニ使用セラレル我が護送艦隊其他ノ警備艦隊數ト云フモノハ、相當多數デナケレバナラナイ、果シテ我が海軍ニソレダケノ餘力アリヤ否ヤ、勿論兵力ヲ此方面ニ使用スルコトニ付テハ、相當ニ計畫モアルデアリマセウ、併シ元々我が海軍ノ兵力ハ十對七デアリ、勝ツカ敗ケルカ、一勝一敗、五分々々ノ勝負シカ出來ナイト云フ程、切詰メタ最小限度ノ兵力デアアル、サウ云フ時ニ多數ノ艦艇ヲ、此黃海方面、朝鮮海峽方面ニ割キ得ルヤ否ヤ、縦シ割キ得ルトシテモ、是ハ勝チ易キニ勝ツト云フ、モット重大ナ本作戰ノ方面ニ兵力ヲ使用スル關係カラ申シマス云フト、餘リ此方面ニ兵力ハ割キ得ナイダラウト思フ、殊ニ重大ナル關係ノアリマスモノハ飛行機デアリマス、潜水艦ノ苦手ハ飛行機デアリマスガ、此飛行機ガ黃海方面ニ行動スルト云フコトニ付テハ、餘リ有利デナイト云フコトヲ吾々ハ考ヘナケレバナラヌ、黃海ハ御承知ノ如ク濁リニ濁ッタ海デアリマス、此處ニ潜水艦ガ埋没ヲ致シマス云フト、

飛行機ヲ以テシテモ甚ダ是ガ搜索ハ困難ナデアリマス、故ニ先ヅ黃海方面カラ物資ヲ取ルト云フコトハ、鐵バカリデハアリマセヌ、油モアリマセウ、其他ノ色々ナ物資モアリマセウガ、一通リノ困難デハ持來スコトハ出來ナイノデアリマス、殊ニ鐵、油、或ハ軍隊、斯ウ云フヤウナ重要ナ輸送物ニ對シテハ、澤山ノ警戒艦艇ヲ必要ト致シマス、地中海ノ例ニ依ッテ見マシテモ、運送船ノ如キニハ、一艘ニ三艘ノ驅逐艦ヲ附シタト云フ例モアリマス、旁々鐵其他ノ、戰時極メテ必要ナル物資ノ輸送ニ對シテハ、多數ノ艦艇ヲ必要トセザルヲ得ナイノデアリマス、日露戰爭中ニ浦鹽艦隊ガ暴レ廻リマシテ、三十七年ノ六月十五日デアリマシタカ、佐渡丸、常陸丸ガ遭難シタコトガアリマス、其爲ニ澤山ノ軍用資料ガ沈メラレタノデアリマスガ、是ガ爲ニ旅順ノ陥落ガ二箇月遅ラサレタト云フコトヲ申サレテ居リマス、若シ此黃海、朝鮮海峽ヲ渡ッテ來ル輸送ニ於テ、製鐵ノ材料其他ヲ、此方面カラ得ルコトニ、餘リ依存スルト云フコトニナツテ來マス、重大ナル手違ヒガ生ジヤセヌカト云フコトヲ慮レザルヲ得ナイノデアリマス、サウ致シマス、先ヅ餘リ此方面ニモ頼リ過ギテハナラヌト云フコトニナツテ來マス、サウスレバ現在ノ所ヲ以テシマスレバ、二百五十万噸ト云フ義務貯鑛石、更ニ數百万噸増シテ行カナケレバナラヌト云フ結果ニ相成リマス、所ガ數百噸ノ鑛石ヲ貯フルト云フコトニナリマス、一、一、一圓ト致シマシテモ、數千万圓ノ巨額ノ「ストック」ヲ死藏シナケレバナラヌ、此事ハ平時ト雖モ容易ナラザル負擔デアリマス、然ラバ如何ニシテ此巨額ノ「ストック」ヲ

此處ニ潜水艦ガ埋没ヲ致シマス云フト、

然ラバ如何ニシテ此巨額ノ「ストック」ヲ

減ラスコトガ出来ルカト云ヘバ、之ニハ自
ラニツノ途ガ開カレテ居ルと思ヒマス、ソ
レハ内地ニ於ケル製鐵用ノ原料ヲ使用スル
ト云フ考ヘ方デアリマス、唯内地ニ於キマ
ス製鐵用ノ礦石ハ、釜石ノ約四千万噸ヲ
筆頭ニ致シマシテ、其他ハ數百萬噸ニ過ギ
ナイ微々タルモノデアリマス、隨テ戰時内
地ニ製鐵原料ノ礦石ヲ求メルト云フコトニ
ナレバ、釜石ノ礦山ヲ當テニシナケレバナ
ラヌト云フコトニナリマス、商工大臣ノ言
明ニ依リマスレバ、政府ハ釜石ノ増産
ノ計畫ヲ立テ、居ルト云フコトデアリマ
ス、ソレハ結構ナコトダト云フコトデ、其
計畫ヲ示シテ實ヒタイト言ヒマシタガ、ソ
レハ機密ニ屬スルコトダカライケナイト申
サレタノデアリマス、併シ其増産計畫ガ、ド
ウ云フコトデアラウトモ、今日釜石ニ於テ
數百萬噸ノ鐵石、或ハ數千万噸ノ鐵鐵、或
ハ鋼等ヲ増産スルコトガ出来マシタニシテ
モ、今日ノ港灣、今日ノ鐵道ヲ以テシテハ、
之ヲ搬出スルコトガ出来ナイ、跋ナノデア
リマス、専門家ノ言ニ依ッテ見マスト云フ
ト、今日釜石ノ港ノ設備ハ無理ヲシテ、漸
ク鐵礦石ヲ百萬噸足ラス出スダケノ力シカ
ナイ、此上數百萬噸ノモノヲ出サウトスル
ニハ、更ニ大キナ築港計畫ヲ樹テ、ソレ
ニ三四年ノ歳月ヲ要スルト云フコトデアリ
マスカラ、是デハ此非常時ノ場合ニ處スル
途ハ開ケテ居ラナイ、若シ其釜石ノ増産計
畫ヲ、政府ガ考ヘテ居ル如ク十分ニ行フト
云フコトニナリマスレバ、此輸送計畫ニ對
シテ、又十分ナ計畫ヲ進メナケレバナラヌ
ト思フノデアリマス、此點ニ對シテ政府ノ
遣方ハ、甚ダ空疎ナルモノアリト認メザル
ヲ得ナイノデアリマス、モウ一ツハ、我國

ハ並鐵石ノ製鐵材料ニハ極メテ乏シイノデ
アリマスガ、是ト反對ニ砂鐵ト云フモノ
ハ、非常ニ多量ニ上ツテ居ルノデアリマス、
恐ラク世界有數ノ豐富ナル鐵量ヲ包藏シテ
居ルト申シテ宜イデアリマセウ、所ガ此砂
鐵ノ精鍊ト云フコトハ、大正七八年頃カラ
色々ト著手ヲサレタノデアリマスルガ、未
ダ是ノ精鍊ノ成功ヲ見ルニ至ラナイノデア
リマス、其主ナル原因ト云フモノハ、砂鐵
ニ含レテ居ル「チタニウム」ノ除去ノ困難ナ
事デアリマス、併ナガラ此砂鐵ニハ「チタニ
ウム」以外ニ「パラチウム」「イリヂウム」等
ノ、非常ニ高價ナ元素ヲ含ンデ居リマスガ
爲ニ、此「チタニウム」ヲ除キマシタ砂鐵カ
ラ精鍊サレマシタ鋼ト云フモノハ、非常
ナル銳利ナモノニナルノデアリマス、是
ハ皆様ガ既ニ新聞デ御覽ニナツカト思
ヒマスルガ、今年ノ二月二十五日ノ朝日
新聞ニ載ッテ居リマスル、塚電話トシテ、
「妻伊昭和正宗」ト云フコトノ見出シデ揭
ゲラレテアリマス、是ハ砂鐵カラ白粉ノ
原料デアアル「チタニウム」ヲ除イタ殘リ
ノ鐵分ヲ以テ精鍊シタ鋼デ作ツタ日本刀ガ
非常ナ切レ味デ、恰モ小刀デ木ヲ削ル如ク、
其日本刀ヲ以テスレバ鐵デモ削レルンダト
云フコトガ書イテアリマス、此事ハ其方ノ
専門家ノ大學ノ教授ニ聽イテ見マシタ所ガ、
ソレハ實際アリ得ルコトデアアル、斯ウ云フ
コトデアリマス、ソレデ此「チタニウム」ト云
フ厭ヤナ元素ヲ、巧イ工合ニ精鍊ス製鐵ノ
際ニ除キ得サヘスレバ、砂鐵ト云フモノハ
非常ナ日本ノ將來ノ製鐵事業ノ確立ノ上ニ
於テモ、亦日本ノ重工業ノ上ニ於テモ、或
ハ又精密工業ノ發展ノ上カラ言ヒマシテモ、
非常ナ重要性ヲ帯ビタモノト言ハナケレバ

ナリマセヌ、恐ラク此砂鐵精鍊ノ必要ダト
云フコトノ研究ノ必要ヲ認ムルコトハ、日
本程切ナルモノハ世界ニハナカラウト思フ、
並鐵石ガ足リナクテ、砂鐵ガ豐富デアルト
云フノデアリマスカラ、是ハ日本ガ先ヅ率
先シテ、此砂鐵ノ精鍊ノ解決ヲ圖ラナケレ
バナラヌト思ヒマス、所ガ最近ニ聞キマス
所ニ依リマスルト、東京ノ帝國大學ノ工學
部ノ砂鐵研究所ニ於キマシテ、主任ノ教授
デアリマスル梅津博士ガ、砂鐵精鍊ニ關ス
ル一大發見ヲサレマシテ、從來ノ如キ普通
ノ熔鑪ヲ以テスレバ砂鐵精鍊ハ困難デア
ルガ、特殊ノ熔鑪ヲ以テスレバ「チタニ
ウム」ヲ除キ得ルノデアアル、是ハ不日學會ニ
於テ發表スルト云フ御話ヲ申シテ居リマシ
タカラ、追々此砂鐵精鍊ニ關スル事情ガ、
目鼻ガ付イテ行クコト、思ヒマス、政府モ
是マデ相當砂鐵研究ニ對シテハ努力サレタ
ノデアリマスルガ、併シ其使用シタル金額
ト云フモノハ、五六十万圓ニ過ギナイノデ
アリマス、又八幡ノ製鐵所ニ於テ、二三千
噸ノ砂鐵精鍊ノ精鍊ヲ試ミタノデアリマスル
ガ、是トテモ大正年代デ打切ツテ、其後ニハ
手ヲ著ケナイト云フ有様ニナツテ居リマス、
斯ウ云フヤウナコトデハ、中々此砂鐵精鍊ノ
精鍊ノ成功ヲ見ルト云フコトハ困難ダト思
ヒマスルカラ、ドウシテモ此際政府ハ、砂
鐵精鍊ニ關スル積極的ナ方策ヲ講ジテ、速
ニ是ガ解決ヲ圖ラナケレバナラヌト思ヒマ
ス、商工大臣ハ貴族院ニ於キマシテ、石油
事業ノ獎勵ノ爲ニ石油礦ノ試掘費、其他色
色ナ保護獎勵ノ方法ヲ採ルト云フコトヲ、
考ヘテ居ルト云フコトヲ述ベラレタノデア
リマスガ、之ニ優ルトモ劣ラズ、矢張鐵ニ
對スル本當ノ、日本ノ戰時平時ニ互ル製鐵

事業ノ確立ト云フコトニ付テ、考慮ヲ廻ラ
サナケレバナラヌト思ヒマス、私共ハ、石
油ノ一滴ガ若シ血ノ一滴ニ價スルノデア
ラバ、鐵ノ一片ハ又肉ノ一片ニ價スルモ
ノダト云フコトヲ考ヘマス、此點カラ申シ
マシテモ、國防上ノ關係ヨリシテモ、十分
ニ此砂鐵精鍊ノ方策ヲ講ジナケレバナラヌ
ト云フコトニナリマス、又此結果、幸ニ砂
鐵精鍊ノ成功ヲ見ルニ至リマシタナラバ、
極メテ良質ナル鐵ガ求メラレテ、之ニ依ッテ
日本ノ機械工業、精密工業ト云フモノガ發
展シ、日本ノ産業ニ一大革新ヲ齎シテ來ル
ト云フコトハ疑ナイノデアリマス、仍テ以
上ノ見地カラ、私ハ平戰兩時ニ於ケル製鐵
事業ノ確立ヲ期スル爲ニハ、先ヅ内地ニ於
ケル製鐵業資源ヲ開發シテ、軍事並ニ我ガ
産業上ノ一大進歩ヲ來ス如ク努力スルノ必
要アリト認ムルノデアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 討論ハ終局致シマシタ、
本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌ
カ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、
本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○青木三郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ
開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通
リ可決サレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議
アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス
仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議
題ト致シマス

製鐵所特別會計法廢止法律案

第二讀會(確定議)

○議長(秋田清君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマス(拍手) 日程第四、原蠶種管理法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長生田和平君

第四 原蠶種管理法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一原蠶種管理法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和九年三月五日

委員長 生田 和平

衆議院議長秋田清殿

附帶決議

政府ハ蠶絲業ノ現狀ニ鑑ミ速ニ產繭ノ合理的處理並ニ生絲ノ販賣統制ノ方策ヲ樹立シ之ヲ實現ヲ圖ルヘシ

(生田和平君登壇)

○生田和平君 只今議題ニ相成ツテ居リマス

所ノ、原蠶種管理法案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ、極メテ要點ノミヲ御報告致シマス、政府提案ノ理由ニ依リマスト、雜駁ナル蠶品種ヲ整理シ、優良品ノ普及ニ依リ養蠶製絲ノ能率増進ヲ圖リ、以テ生産費ノ低下ト品質ノ改善ニ資スルト共ニ、蠶絲業ノ非常時ニ際シマシテ、蠶種ノ統制ヲ期シ得ベキ制度ヲ樹立セントスルト云フノデアリマス、本案ノ骨子トスル所ハ、次ノ三點ニアルト思ヒマス、第一點ハ、原原種ハ政府ニ於テ専ラ之ヲ製造シ、道府縣ニ配付シテ原種ノ製造ヲ爲シ、更ニ之ヲ一般蠶種製造

家ニ配付シテ、普通蠶種ヲ製造セシメルノデアリマス、隨テ蠶種製造家ハ、道府縣ノ配付シタル原種ヲ用ユルニ非ザルバ、普通蠶種ヲ製造スルコトハ出來ナイコトニナリ居ルノデアリマス、但シ農林大臣ノ許可ヲ得タル者ハ、道府縣ト同様ニ原原種ノ配付ヲ受ケ、自家用原種ヲ製造スルコトヲ得ルコトニナリ居ルノデアリマス、第二ノ點ハ、原原種ノ品種ハ、蠶品種審査會ノ議ヲ經テ、農林大臣ガ之ヲ定メルコトニナリ居ルノデアリマス、第三ノ點ハ、蠶絲ノ統制ニ關シ、當業者ノ自治ノ方法ニ依リ、十分ナル效果ヲ期シ得ザル非常時ニ際會致シマシタ時ニハ、之ニ對シ統制ヲ期シ得ベキ權限ヲ保留シテ居ルノデアリマス

委員會ニ於ケル質問應答ノ大要ヲ申上ゲ

マスレバ、蠶絲國策ニ對スル政府ノ指導精神ハ如何、又重點ハ何處ニ置イテ居ルカト云フコト、蠶種統制ノ根本觀念、生産形態ノ統制ハ、本案ノミニシテハ尙ホ不備デアルト云フ點、産繭ノ合理的處理ニ付キ政府ニ意見ヲ質シ、販賣統制立法ニ付テハ其決意ヲ促シ、米國機業家ノ要望セル絲條班ノ改良、市價安定、生絲宣傳等デアリマシタ、尙ホ事業遂行上ノ問題其他重要ナル點ニ付テ、種々ナル質疑應答ガ重ネラレタノデアリマスルガ、之ニ對シマシテ農林大臣ノ答辯ハ、蠶絲國策ハ複雜多岐ニ互リ、殊ニ國家財政ノ現狀ニ照シマシテ、立案頗ル困難ナ事情ニアルコトヲ述ベマシテ、先ヅ其苦衷ヲ懇ヘ、然ル後生絲ノ前途ハ樂觀ヲ許サ、ルモ、必シモ悲觀ノミヲ以テ見ルコトヲ要セズトノ見解ヲ述ベマシテ、人絹トノ競争ニ付キマシテハ、生産費ヲ低減シ、新用途ノ開拓ニ努力ヲ拂ヘバ、過去ノ盛況ヲ

再ビ夢ミルコトハ出來マスマイケレドモ、

尙ホ能ク相並ンデ進歩發達シテ行クモノデアルカラ、極力困難ト闘フ決意デアルト云フコトノ抱負ヲ述ベラレタノデアリマス、而シテ蠶絲國策ノ指導精神ト致シマシテハ、生産費ノ低下、ソレカラ販賣統制、需要ノ擴張、大體此三ツヲ以テ進ミタイト云フコトデアリマシタ、蠶種統制ノ根本觀念ニ付テハ、優良生絲ノ產出ノミニ止ラズ、場合ニ依リ數量統制ノ用意アルコトヲ述ベラレタノデアリマス、更ニ生産形態ノ統制ニ付キマシテハ、生繭販賣ノ禁止ハ主義ニ於テハ贊成デアアル、最モ理想的デアリマスルケレドモ、未ダ實行ノ域ニ達シテ居ラヌト云フ答辯デアリマシタ、生絲販賣統制立法ニ付キマシテハ、著々審議ヲ進メテ居リマスルカラ、成ベク本議會ニ提案スル運ビニナル考デアルト申シテ居リマシタ、米國機業家ノ要望セル絲條班ノ改良、又絲價ノ安定、生絲ノ宣傳ニ對シテモ、ソレト答辯スル所デアリマシタ

之ヲ要シマスルニ、政府ノ答辯ハ用意甚

ダ周到ナルモノガアッタノデアリマスルケレドモ、農林大臣ノ熱意ナルモノガ、果シテドノ程度デアルカ、此窮迫セル蠶絲業更生ノ大責任ヲ負フ所ノ農林大臣ト致シマシテハ、實ハ甚ダ物足りナイ點ガアッタノデアリマス 次ニ一言附加致シタイノハ、原蠶種管理法案ナルモノハ、第六十三議會ニ製絲業法ガ、本議會ニ政府案トシテ提案サレマシタ當時ヨリ、盛ニ論議セラレタノデアリマスルガ、遂ニ昨年即チ第六十四議會ニ於キマシテ、我黨ノ胎中楠右衛門君ヨリ提案トナリマシ

テ、全會一致ヲ以テ本議會ヲ通過致シマシ

タコトハ、諸君ノ御記憶ニ今尙ホ新ナルモノガアルト思フノデアリマス、然ルニ政府ハ優柔不斷ニシテ、貴族院ニ於テハ遂ニ審議未了トナリ、不成立トナッタノデアリマス、爾來政府ニ於キマシテモ、銳意本案ノ成立ニ努メマシテ、今回茲ニ提案ニナッタノデアリマス、其内容ニ於キマシテハ——胎中案ト大同小異ト申シテ差支ナイノデアリマス、本案ハ先ノ製絲業法ト共ニ蠶絲業統制立法ト致シマシテノ二大法案デアリマス、本案ノ實施ノ上ハ必ズヤ斯界ニ貢獻スルコト、大ナルモノガアルト固ク信ジテ居ルノデアリマス、討論ニ入りマシテ、政友會ヲ代表シテ横川重次君ヨリ、本案ニ對スル贊成ノ意見ヲ述ベラレ、尙ホ次ノ如キ附帶決議ヲ附スルコトヲ提議セラレタノデアリマス

附帶決議

政府ハ蠶絲業ノ現狀ニ鑑ミ速ニ產繭ノ合理的處理並ニ生絲販賣統制ノ方策ヲ樹立シ之ヲ實現ヲ圖ルヘシ

(山本慎平君登壇)

○議長(秋田清君) 討論ノ通告ガアリマス

——山本慎平君 (山本慎平君登壇) ○山本慎平君 私ハ本案ニ對シマシテ贊成ノ意見ヲ申述ベタイト思フノデアリマス、

元來個人的ニ言ヒマスレバ、一箇ノ經濟行爲ニ過ギナイ原蠶種ノ製造販賣ヲ國家ガ管理スル、此國家ガ管理スルト云フ、其指導精神ノ上ニ極メテ重大性ヲ感ズルモノデアリマス、問題ハ單純ナ原蠶種デアリマスケレドモ、農業政策上ニ國家統制ノ精神ヲ織込ミマシタ第一歩ノ現レトシテ、私ハ此案ニ國民ノ重大ナル視聽ガ集ツテ居ルト思フノデアリマス、元來農業政策ハ普通ノ商工業ノ立場ト違ヒマシテ、現在ノ資本主義制度下ニハ全ク繼子扱ヲ受ケテ居ルノデアリマス、即チ農業生産物ハ生産統制モ行ハレナイシ、販賣統制モ行ハレナイ、規格ノ統制モ行ハレナイ所ニ、何時デモ資本主義的商工業ノ生産品ニ壓倒セラレル、此點ニ於テ最近天然絹絲ガ痛切ナ刺戟ヲ受ケマシタノハ、資本主義制度ノ極度ノ發達ノ下ニ産出セラル、所ノ、人造絹絲ノ競争デアリマス、此人造絹絲ト云フ生産統制アリ、規格統制アリ、販賣統制アリ、極メテ資本主義組織ノ極度ノ發達ノ生産物デアアル、人造絹絲ノ爲ニ刺戟セラレテ、何等カ天然絹絲ノ上ニ、此資本主義制度ノ何モノカヲ織込ムニアラザレバ、到底匹敵スルコトガ出來ナイト云フ所ニ、現在ノ天然絹絲ガ大ナル惱ミヲ持ツテ居ルノデアリマス、此惱ミヲ如何ニシテ解決スルカ、其爲ニハ先ツ養蠶界ノ一番最初ノ出發點デアアル所ノ原種ノ上ニ、國家ガ之ヲ統制管理スルト云フコトハ——

モノハ、動モスレバ自力更生ヲ以テ農村ヲ復活シ得ルモノト考ヘテ居ル、農村ハ現在ノ社會機構ノ上カラ申シマシテ、ドウシテモ資本主義制度下ニハ、十分ノ發達ヲ遂ゲルコトガ出來ナイ運命ニ棄テ置カレルモノデアリマス、此資本主義制度ガ發達スレバスル程、農村ハ其運命ヲ縮メルモノデアリマス、隨テ古イ「オーソドックス」的ノ自由經濟主義ノ經濟學者、自由競争ニ委セテ、資本主義ノ個人的立場ノミヲ尊重スル人ニ取リマシテハ、農村問題ト云フモノハ自力更生主義ヲ以テ更生シ得ルモノト考ヘテ居ル、是ハ大ナル誤謬デアリマシテ、現在ノ資本主義制度下ニ於テ、其自由競争ニ委セレバ、農村ト云フモノハ次第ニ滅亡ノ棘ノ道ヲ走ラネバナラヌ運命ニ陥ツテ居ルノデアリマス、之ヲ農村問題自身ノ立場カラ申シマス、丁度國家生存ノ機構及ビ要素ノ上カラ、如何ニシテモ農村ガ無クテハナラヌト云フ立場カラ申シマスナラバ、陸海軍ヲ充實強化スルト同様ニ、農村ヲ補助發達セシメルト云フコトガ、同事ノ立場ニ於テ必要ナルデアリマス（拍手）之ヲ動モスレバ混同致シマシテ、何デモ自力更生デアアル、單純ナル自力更生ノ上ニハ、所謂古イ個人主義的自衛論ガ根ザシテ居リマシテ「アダム・スミス」以來ノ古イ思想ノ蟠リノ爲ニ、時代ノ變化ヲ知ラズシテ、依然トシテ其立場カラ自力更生ヲ主張サレルヤウデアリマスガ、丁度是ガ只今ノ立場カラ申シマスナラバ、學校ノ生徒ノ入學難——一例デアリマスガ、例ヘバ學校ガ二百人ノ生徒ヲ收容シ得ル機構シカ持タナイノニ、千人ノ希望者ガアリマス場合ニハ、ドンナニ此千人ノ人ガ自力更生ヲ致サウト致シマシテモ、アト

ノ八百人、即チ二百人ハ收容セラレマスガ、アトノ八百人ハドウシテモ收容セラレナイノデアリマス、現在ノ機構ガサウナツテ居ルノデアリマス、即チ此殘サレタル八百人ガ、資本主義制度下ニ於ケル農村ノ運命デアリマス、此八百人ヲ自由競争ニ委セテ、農村ノ行クガ儘ニ任ズルト云フナラバ卒ザ知ラズ、此八百人ノ人間ヲ國家ノ生産機構ノ上カラ、必然的ニ存在サセナケレバナラヌト云フ立場カラ考ヘマスルナラバ、陸海軍ヲ充實スルト同様ノ立場ニ於テ、國家トシテ農村ヲ發達助長サセナケレバナラヌト云フ立場ニ立ツノデアリマス、此指導精神ノ上ニ立チマシナラバ、農村問題ハ單純ナル個人的自力更生ニアラズシテ、國家ガ相當ノ犠牲ヲ拂ヒ、助力ヲ致シテ、之ヲ發達サセナケレバナラヌ、其立場ニ於テ本法ノ如キハ、先ヅ農業政策上ニ加ヘラレタル第一歩ノ國家統制ノ實例トシテ、吾々ハ喜ンデ迎ヘナケレバナラヌノデアリマス（拍手）不幸ニシテ本案ハ昭和九年ヨリ十三年ニ互ル五箇年計畫ニシテ、五箇年ヲ過ギテ尙ホ地方ノ蠶種製造所ヲ發達サセナケレバナラヌト云フ、頗ル現内閣ノ特色ヲ發揮致シマシテ、「スロー・モーシヨ」デアリマス（拍手）此「スロー・モーシヨ」ヲドウニカシテ、モウ少シ早イ「スピード」ヲ出サセヤウト思ツテモ、初カラ「スロー」ノ性格ヲ持ツテ居ルノデ、其性格ハ改メルニ由ナイ、併ナガラ無キニ勝ルガ爲ニ吾々ハ之ニ賛成致シマシタ、併シ其精神ニ於テ、所謂國家管理ノ精神ニ於テ、先ヅ一步ヲ之ニ著ケタコトヲ喜ブモノデアリマス、而シテ本案ノ通過ト共ニ、政府ハ必ズ次イデ來ルベキ所ノ產繭處理法、延テハ販賣統制、次第ヲ追ウテ農産物、殊ニ人造絹

絲ニ壓迫セラレテ居リマス所ノ天然絹絲ニ對スル所ノ、國家管理ノ方法ヲ實現スルト云フコトヲ豫期致シマシテ、左様ナコトヲ希望シテ本案ニ對シテ賛成ヲ致ス者デアリマス（拍手）

○議長（秋田清君） 小山邦太郎君

○小山邦太郎君登壇

○小山邦太郎君 私人本案ニ賛成ノ意見ヲ申述ベントスルモノデアリマス、我國重要産業タル蠶絲業ハ、今ヤ山本君ノ述ベラレタルガ如ク、驚クベキ人造絹絲ノ躍進的進出ト、世界財界ノ深刻ナル不況ノ重壓ヲ受ケマシテ、動モスレバ或ハ後退的情勢ヲサヘモ示スニ至リマシタルコトハ、國家國民經濟ノ上ニ洵ニ遺憾ニ堪ヘザル次第デアリマス、而モ吾々ハ其蠶絲業ガ不況ヲ重ヌルニ至リマシタ原因ヲ、當ニ人絹進出、若クハ財界不況ト云フガ如キ外部のナル、蠶絲業外ノ理由ニノミ理由付ケルコトハ出來マセヌ、寧ロ蠶絲業ガ從來餘リニ無統制デアリ、餘リニ不秩序デアリ、不統一デアリマスコトガ、今日蠶絲業自體ノ不況不振ノ深刻化ニ、拍車ヲ加フルニ至ラシメタル重大原因デアアルト云フコトヲ信ズルノデアリマス（拍手）即チ蠶種其物ニ見マシテモ、六百餘種類ニ互ルモノガ雜然トシテ市場ニ配付サレル、又ソレカラ出來マシタル繭ノ雜駁、其產繭處理ノ不統一、昔ナガラノ生繭賣買ノ形式ガ其大部分ヲ占メテ居ツテ、依然トシテ不合理不便ナル處理法ニ任セテ居ル、更ニ輸出生絲ノ問題ニ至リマシテモ、其販賣機關並ニ機構ノ上ニ、改善是正ヲ加フベキモノガ數多イト思フノデアリマス、左様ナ狀態ニ置カレテ居リマスルカラ、其製品ハ不統一、不齊一

デアリ、生産費ハ動モスレバ割高トナリ、價格ハ漸ニ致シマシテモ、生絲ニシテモ、暴騰暴落ヲ防グトガ出来ナク、事業經營ハ益、投機化ヲ加ヘテ、不安ノ度ヲ増スノミデアリマス、斯ウ云フ状態デアリマスルカラ、其機會ヲ付ケ込シテ人造絹絲ハ進出スル、需要ハ減ツテ來ル、生産ハ過剩トナル、隨テ好マザルコトデアルニモ拘ラズ、曩ニ當業者ノ間ニ決議サレマシタル、輸出生絲三割ノ生産制限ノ如キヲ敢テ行フニアラザレバ、現状ヲ保持スルコトサヘモ出来ナイト云フヤウナ、惱ミニ置カレテ居ルノデアリマス、今ニシテ之レガ打開ノ途ヲ講ゼザレバ、將來洵ニ憂フベキモノアリト信ジテ疑ハヌノデアアル、此時ニ於テ政府ハ前議會ニ於ケル吾等ノ要望ヲ容レテ、蠶絲業各部

ヲシテ第三者ニ委セルコト、即チ當業者自身ノ自治的検査制度ノ如キハ、當然撤廢スルノガ當リ前デアルト思フノニ、尙ホ蠶絲業法第五十條ハ之ヲ存続シテ居ル、斯ノ如キコトハ公益ヲ目的トスル検査ノ性質ヨリ致シマシテ、利害關係ヲ有ツテ居ル當業者ニ之ヲ委スルト云フコトハ、當然改ムベキデアルト思ヒマスルガ、政府ニ於テモ其實績ニ鑑ミテ、是ガ改廢ノ意思アリト承知致シマシタノデアリマス、而モ是等ノ問題アリトスルモ尙、本法案ノ全部ノ效果ヲ没却スルモノデアリマセヌカラ、吾々ハ進ンデ此精神ヲ取ツテ、贊成ヲ致シ次第デアリマス

原蠶種管理法ニ付キマシテハ、只今同僚山本、小山兩君カラ、色々御議論ヲ含ンダル御贊成ノ意ガ表明セラレマシテ、私共モ悉ク同感デアリマスルガ故ニ、本案ニ贊成スル理由ニ付キマシテハ、諄ク申ス必要モナイト思フノデアリマスガ、併シ原蠶種管理法ヲ吾々ガ協贊ヲ致シ、政府ガ之ヲ提案ヲサレト云フコトニ付キマシテハ、何故ニ政府ガ提案ヲ致シ、吾々ガ贊成ヲスルカト云フ根本ノ精神ニ立チマシテ、議論ヲスル必要ガアルト思フノデアリマス、只今兩君カラ申サレマシタ通りニ、我國ノ蠶絲業ガ國家ノ爲ニモ、農村農民ノ生活ノ爲ニモ、亦地方、中央ノ關係カラ申シマシテモ、日本ニ於ケル最重要ナル地位ヲ占メテ居ルコトハ、申スマデモナイ次第デアリマシテ、之ニ對シテ國家ハ最善ノ方策ヲ講ジナケレバナラナイ必要モアリ、義務モアルト云フコトハ申スマデモナイデアリマス、併ナガラ此蠶絲業ノ非常時局ニ直面致シマシテ、會テハ千四百五十圓モ致シマシタ絲價ガ、現在辛ジテ六百圓ヲ維持スルト云フヤウナ、急轉直下ノ絲價暴落、隨テ繭一貫目ガ會テハ十三圓、十四圓致シタモノガ、今日三圓ヲ維持スルコトガ出来ルカ出来ナイカト云フヤウナ、非常ナル局面ニ當リマシテ、最も責任アル農林當局ノ之ニ對スル態度處置ヲ見マスレバ、果シテ農林當局ガ我國ノ蠶絲業ノ重要性ヲ理解シテ居ルヤ否ヤ、隨テ農林當局トシテノ職責ヲ自覺致シテ居ルヤ否ヤ、疑ハザルヲ得ナイヤウナ態度デアリマス、先程山本君、小山君、共ニ現内閣ハ「スローモーション」ノ特質ヲ有ツテ居ルガ故ニ、ト云フヤウナ御話ガアリ

マシタガ、私ハ斯様ナコトヲ以テ現内閣ノ職責怠慢ヲ看過スルコトハ、斷ジテ出来ナイト思フノデアリマス、何故ニ國家ト致シマシテモ、地方ト致シマシテモ、農村農民即チ國民ノ全體カラ見マシテモ、一日モ看過致シテ置クコトノ出来ナイ此蠶絲業ノ問題ニ對シマシテ、政府ハ僅ニ原蠶種管理法ノ一問題ダケヲ議會ニ提案セラレマシテ、是デ當面ノ蠶絲業對策ニ對スル責任ヲ、果シテ居ルト御考ニナツテ居ルカ、私ハ原蠶種國家管理法モ、勿論種々ナル意義效果ヲ有ツモノトハ思ヒマスルガ、唯是ダケヲ實行致シマシタノデアリ、今日ノ絲價ノ維持安定、隨テ養蠶農民ノ生活ノ安定ト云フモノハ、絕對ニ出来ナト思フノデアリマス、是ニ於テカ政友會ノ御提案ニナリマシテ、吾々ノ贊成ヲ致シマシタ産繭ノ合理的ノ處置ニ販賣統制、更ニ進ンデ生産統制ト云フヤウナ、根本ノ問題ヲ同時ニ提案實行スルニ非ズンバ、原蠶種管理法ノ意義モ没却セラレルト云フコトヲ、私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、然ルニ此販賣統制、生産統制、若クハ生繭取扱ノ問題ニ對シマシテハ、今日急ニ起ツタ問題デハナイ、兩君ガ既ニ申上ゲタ通りニ、此蠶絲業ノ根本對策ニ對シマシテハ、一昨々年来議會ノ問題トナリ、當業者ノ問題トナリ、政府當局モ亦之ニ對シテ考慮ヲ費シテ居ツタデアリマス、然ルニ今日議會ハ僅ニ二句ヲ餘スノミノ會期ニ迫リマシタ場合ニ、此刻下重大ナル蠶絲業ノ對策ト致シマシテ、單ニ是ノミヲ以テ致シマシテハ、殆ド效果ナキ原蠶種管理法ヲ提案セラレマシテ、他ノ販賣統制モ、或ハ又生産統制モ、將ニ春蠶ガ掃立期ヲ控ヘマシタ今日ニ於キマシテ、産繭ノ處理ニ付

門ニ對スル統制改善ノ一步ヲ進メル第一トシテ、蠶種ニ對スル國家管理ノ法案ヲ提出サレマシテ、其目的トスル所ハ、先程委員長カラ御報告ノアリマシタ通り、優良品種ノ普及徹底ニ原價引下、即チ低原價策ノ貫徹ニ向ツテ、努力セラル、ト云フノデアリマスルカラ、此法案コソ時ニ取ツテ洵ニ機宜ニ適シタル處置ナリトシテ、吾々ハ其協贊ニ各ナラザルモノデアリマス併ナガラ此法案實施ニ當リマシテハ、尙ホ幾多ノ希望ガアリマス、即チ山本君ヨリ言ハレタルガ如ク、斯ル重要性ヲ有ツタル法律ヲ、其全面的效果ヲ收ムル爲ニハ、尙ホ數年ヲ要スルト云フガ如キコトハ、如何ニモ悠長ニ過ギタルコトデ、假令國家財政不如意ノ場合ト申シナガラ、何トカ工夫緩和ヲ致シマシテ、是ガ短縮ヲ圖ルヤウニ、特ニ政府ニ要望スル次第デアリマス、尙又斯ル統制案ガ制定セラレマシタ以上ハ、當業者ノ蠶種検査

尙ホ先程ヨリ御話ノアリマシタ通り、此法案ハ僅ニ蠶絲業統制ニ對スル一步ヲ進メタルノミデアリマス、既ニ昨年ハ製絲業法ノ改正ガアリ、本年又蠶種ニ對スル此法案ガ出来マシタ以上ハ、殘ル所ハ二百萬戸養蠶家ニ最モ重大ナル利害關係ヲ有スル、産繭ノ處理ニ對スル合理的の方策ヲ樹立シ、更ニ生絲ノ販賣統制ニ對シマシテモ、徹底案ヲ樹立シテ、是ガ實現ノ速カナランコトヲ切ニ強く希望シテ、此法案ニ贊成致ス次第デアリマス(拍手)

戸田由美君 簡單デアリマスカラ、此席ヲ汚ス必要モナイト思フノデアリマスガ私ハ聊カ政府當局ニ對シマシテ小言ヲ申上ゲ、更ニ一步進ミマシテ、失禮デハアリマ

シマシテハ、一昨々年来議會ノ問題トナリ、當業者ノ問題トナリ、政府當局モ亦之ニ對シテ考慮ヲ費シテ居ツタデアリマス、然ルニ今日議會ハ僅ニ二句ヲ餘スノミノ會期ニ迫リマシタ場合ニ、此刻下重大ナル蠶絲業ノ對策ト致シマシテ、單ニ是ノミヲ以テ致シマシテハ、殆ド效果ナキ原蠶種管理法ヲ提案セラレマシテ、他ノ販賣統制モ、或ハ又生産統制モ、將ニ春蠶ガ掃立期ヲ控ヘマシタ今日ニ於キマシテ、産繭ノ處理ニ付

○議長(秋田清君) 戸田由美君 (戸田由美君登壇)

○戸田由美君 簡單デアリマスカラ、此席ヲ汚ス必要モナイト思フノデアリマスガ私ハ聊カ政府當局ニ對シマシテ小言ヲ申上ゲ、更ニ一步進ミマシテ、失禮デハアリマ

シマシテハ、一昨々年来議會ノ問題トナリ、當業者ノ問題トナリ、政府當局モ亦之ニ對シテ考慮ヲ費シテ居ツタデアリマス、然ルニ今日議會ハ僅ニ二句ヲ餘スノミノ會期ニ迫リマシタ場合ニ、此刻下重大ナル蠶絲業ノ對策ト致シマシテ、單ニ是ノミヲ以テ致シマシテハ、殆ド效果ナキ原蠶種管理法ヲ提案セラレマシテ、他ノ販賣統制モ、或ハ又生産統制モ、將ニ春蠶ガ掃立期ヲ控ヘマシタ今日ニ於キマシテ、産繭ノ處理ニ付

定セラレマシタ以上ハ、當業者ノ蠶種検査

シマシテハ、一昨々年来議會ノ問題トナリ、當業者ノ問題トナリ、政府當局モ亦之ニ對シテ考慮ヲ費シテ居ツタデアリマス、然ルニ今日議會ハ僅ニ二句ヲ餘スノミノ會期ニ迫リマシタ場合ニ、此刻下重大ナル蠶絲業ノ對策ト致シマシテ、單ニ是ノミヲ以テ致シマシテハ、殆ド效果ナキ原蠶種管理法ヲ提案セラレマシテ、他ノ販賣統制モ、或ハ又生産統制モ、將ニ春蠶ガ掃立期ヲ控ヘマシタ今日ニ於キマシテ、産繭ノ處理ニ付

シマシテハ、一昨々年来議會ノ問題トナリ、當業者ノ問題トナリ、政府當局モ亦之ニ對シテ考慮ヲ費シテ居ツタデアリマス、然ルニ今日議會ハ僅ニ二句ヲ餘スノミノ會期ニ迫リマシタ場合ニ、此刻下重大ナル蠶絲業ノ對策ト致シマシテ、單ニ是ノミヲ以テ致シマシテハ、殆ド效果ナキ原蠶種管理法ヲ提案セラレマシテ、他ノ販賣統制モ、或ハ又生産統制モ、將ニ春蠶ガ掃立期ヲ控ヘマシタ今日ニ於キマシテ、産繭ノ處理ニ付

シマシテハ、一昨々年来議會ノ問題トナリ、當業者ノ問題トナリ、政府當局モ亦之ニ對シテ考慮ヲ費シテ居ツタデアリマス、然ルニ今日議會ハ僅ニ二句ヲ餘スノミノ會期ニ迫リマシタ場合ニ、此刻下重大ナル蠶絲業ノ對策ト致シマシテ、單ニ是ノミヲ以テ致シマシテハ、殆ド效果ナキ原蠶種管理法ヲ提案セラレマシテ、他ノ販賣統制モ、或ハ又生産統制モ、將ニ春蠶ガ掃立期ヲ控ヘマシタ今日ニ於キマシテ、産繭ノ處理ニ付

キマシテモ、何等ノ考慮、御提案ガナイト云フコトハ、私ハ農林大臣及ビ農林當局ノ此蠶絲業ニ對スル根本精神ト、其誠意トヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

斯様ノ跋行ノ一問題ヲ捉ヘマシテ、政友會ノ諸君モ、民政黨ノ諸君モ、現内閣ガ國家統制主義ノ産業政策ニ一歩ヲ進メタモノデアルトカ、或ハ農民ノ生活機構ニ對スル國家ノ發動デアルトシテ、謳歌ナサレルヤウナ口吻ヲ御漏シニナルト云フコトハ、

諸君ノ御立場カラ云ヘバ御尤デアリマスルガ、廣ク全體ニ此蠶絲業ノ問題ヲ考ヘテ居リナガラ、他ノ問題ニ考フ及ボサズ、考ヘテ居リナガラ實現ニ之ヲ現サナイト云フ政府ノ怠慢ト、熱意ナキ點ニ於テ、十分ナル不滿ヲ天下ノ農民ト共ニ、表明シテ置カナケレバナラナイノデアリマス、諸君、本議會ニ提出セラレマシタ本豫算、竝ニ目下審議中ナル追加豫算ノ全體ヲ見マシテモ、農林當局ノ提案ト致シマシテ、此蠶絲業問題ノ豫算ニ計上サレタモノガ、僅ニ三百万圓ニ過ギナイノデアリマス、而モ其大部分ハ、

生繭ノ取引ヲ禁止シタイト云フ多少ノ考カラシテ、乾繭貯藏ノ補助費ヲ計上致シタルモノガ其大部分デアリマス、併ナガラ我國ノ年額産繭ハ約一億萬貫ニ達シテ居ル、春繭ダケヲ見マシテモ、約五千万貫以上ニ達シテ居ル、之ニ對シテ乾繭貯藏ノ費用ヲ二百萬圓ヤ三百万圓計上セラレテ見タ所デ、恰モ二階カラ目録ノ程度ニ過ギナイノデアリマス、一貫目當リノ補助金ハ十五錢カ若クハ二十錢ニ過ギナイノデアリマス、斯様ナ少額ノ、而モ全體ノナ豫算ヲ以テ、目下窮迫セル農民ノ生活ヲ救ヒ、我國ノ貿易ノ逆

勢ヲ挽回シ得ル此蠶絲業ノ問題ニ對シテ、政府當局ガ國民全體ノ、此悲痛ナル農民窮苦ノ聲ヲ聞キナガラ、是レ以上ノ政府ノ政策ガ實行ガ出來ナイト云フコトハ、洵ニ私ハ國政ニ對スル現内閣ノ誠意、農林當局ノ蠶絲業、竝ニ農村問題ニ對スル熱意トヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)宜シク政府ハ原蠶種管理法ガ本日通過スル此勢ニ、更ニ刺戟ヲ持タレマシテ、速ニ吾々ガ附帶決議トシテ政府ニ要望致シマスル生繭ノ處理法、竝ニ販賣統制ニ對シマシテ、忽チニ成案ヲ得テ、本議場ニ提案ヲサレマシテ、少クトモ今期議會中ニ貴衆兩院ノ協賛ヲ經テ、本年ノ春繭ヨリ其效果ヲ實現セラレルヤウニ、誠意ヲ以テ努力セラレンコトヲ切望致シマシテ、本案ニ國民同盟ト致シテ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 討論ハ終局致シマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○青木雷三郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告通リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

勢ヲ挽回シ得ル此蠶絲業ノ問題ニ對シテ、政府當局ガ國民全體ノ、此悲痛ナル農民窮苦ノ聲ヲ聞キナガラ、是レ以上ノ政府ノ政策ガ實行ガ出來ナイト云フコトハ、洵ニ私ハ國政ニ對スル現内閣ノ誠意、農林當局ノ蠶絲業、竝ニ農村問題ニ對スル熱意トヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)宜シク政府ハ原蠶種管理法ガ本日通過スル此勢ニ、更ニ刺戟ヲ持タレマシテ、速ニ吾々ガ附帶決議トシテ政府ニ要望致シマスル生繭ノ處理法、竝ニ販賣統制ニ對シマシテ、忽チニ成案ヲ得テ、本議場ニ提案ヲサレマシテ、少クトモ今期議會中ニ貴衆兩院ノ協賛ヲ經テ、本年ノ春繭ヨリ其效果ヲ實現セラレルヤウニ、誠意ヲ以テ努力セラレンコトヲ切望致シマシテ、本案ニ國民同盟ト致シテ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

大藏政務次官堀切善兵衛君

ケルモノハ、保管スルノ途ヲ開イテハドウカト云フ、此質疑ニ對シマシテハ、ソレハ勅令ヲ以テモヤルコトガ出來ルノデアアルケレドモ、規格ノ統一ガ出來ナイモノ、若クハ規格ノ統一ハ出來テモ、是ガ全國的ナラザルモノヲ保管スルト云フコトハ、混雜ヲ來ス虞ガアルカラ考物デアアル、斯ウ云フ答ガアリマシタ、其他種々ノ質疑應答ガアツタノデアアリマスルガ、詳細ノコトハ速記録ニ依リテ御諒承ヲ願フコト、致シマス、而シテ討論ノ結果、全員一致原案ヲ可決致シマシタ、何卒適當ノ決定ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス(拍手)

○議長(秋田清君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス——本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○青木雷三郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

農業倉庫業法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(秋田清君) 別ニ御發議モアリマセヌ、即チ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)——日程第六、政府提出、昭和七年度第一豫備金支出ノ件外六件、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シ

大藏政務次官堀切善兵衛君

昭和七年度第一豫備金支出ノ件
昭和七年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和七年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和七年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件
昭和八年度第二豫備金支出ノ件

昭和八年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和八年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

○政府委員(堀切善兵衛君) 只今議題トナリマシタ昭和七年度第一豫備金支出外六件ニ關スル事後承諾ヲ求ムル件ニ付キ、其大體ノ説明ヲ致サウト存ジマス

昭和七年度第一豫備金ノ豫算額ハ六百萬圓デアリマスガ、昭和七年度勅令第二百九十四號ニ依リ、第一豫備金ヨリ補充致シマシタル主ナル事項ハ、外國在勤俸其他臨時増給、軍事救護費、警察費連帶支辨金、刑務所收容費、家畜傳染病豫防費等デアリマシテ、其總額ハ五百七十九萬八千六百二十圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其第一豫備金ヨリ豫算超過ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス

次ニ昭和七年度滿洲事件第一豫備金支出ニ付キ申上ゲマス、昭和七年度滿洲事件第一豫備金ノ豫算額ハ二千萬圓デアリマスガ、昭和七年度勅令第二百九十四號ニ依リ、滿洲事件費ニ補充致シマシタル金額ハ、千九百九十七萬五千八百一十一圓デアリマス

次ニ昭和八年度第二豫備金支出ニ付キ申上ゲマス、昭和八年度第二豫備金ノ豫算額ハ八百萬圓デアリマシテ、其支出ノ主ナル事項ヲ舉ゲマスレバ、國際經濟會議參列費「ジュネーヴ」一般軍縮會議參列費、旱害救濟事業助成金、及ビ各省所管ニ互ル火災、風水害、其他ニ因ル復舊費等デアリマシテ、其總額ハ三百九十六萬四千四百九十九圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其第二豫備金及ビ豫備金外ニ於テ、其歲計剩餘金或ハ歲入金ヲ以テ、豫算超過及ビ豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス、何卒御審議ノ上、承諾ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 議題ノ七件ニ付キ、其審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○青木雷三郎君 本案ハ議長指名、十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第三十七乃至第四十同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異

上ゲマス、昭和八年度第二豫備金ノ豫算額ハ八百萬圓デアリマシテ、其支出ノ主ナル事項ヲ舉ゲマスレバ、國際經濟會議參列費「ジュネーヴ」一般軍縮會議參列費、旱害救濟事業助成金、及ビ各省所管ニ互ル火災、風水害、其他ニ因ル復舊費等デアリマシテ、其總額ハ三百九十六萬四千四百九十九圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其第二豫備金及ビ豫備金外ニ於テ、其歲計剩餘金或ハ歲入金ヲ以テ、豫算超過及ビ豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス、何卒御審議ノ上、承諾ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 議題ノ七件ニ付キ、其審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○青木雷三郎君 本案ハ議長指名、十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○青木雷三郎君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第三十七乃至第四十ノ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第三十七乃至第四十同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異

議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、日程第三十七、松岡俊三君外四十二名提出、地租法中改正法律案、日程第三十八、内ヶ崎作三郎君外十名提出、地租法中改正法律案、日程第三十九、金井正夫君外四名提出、地租法中改正法律案、日程第四十、熊谷五右衛門君外二十三名提出、地租法中改正法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長熊谷直太君

第三十七 地租法中改正法律案(松岡俊三君外四十二名提出)

第三十八 地租法中改正法律案(内ヶ崎作三郎君外十名提出)

第三十九 地租法中改正法律案(金井正夫君外四名提出)

第四十 地租法中改正法律案(熊谷五右衛門君外二十三名提出)

報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段
及報告候也

昭和九年三月一日

委員長 熊谷 直太

衆議院議長秋田清殿

〔別紙〕

地租法中左ノ通改正ス

第十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ青森縣、岩手縣、宮城縣、秋田縣、
山形縣、福島縣、北海道、福井縣、石
川縣、富山縣、新潟縣、長野縣、鹿兒島
縣、大島郡及沖繩縣ハ百分ノ二・六トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔熊谷直太君登壇〕

○熊谷直太君 只今議題ニ供セラレテ居リ
マス地租法中改正法律案、委員會ノ經過及
ビ結果ヲ御報告致シマス、委員會ニ於テ付
議セラレマシタ所ノ地租法中改正法律案
ハ、只今議長ヨリ御示シニ相成リマシタ通
リニ、四件アツタノデアリマス、即チ松岡
俊三君外四十二名提出ノ法案、内ヶ崎作三
郎君外十名提出ノ法案、金井正夫君外四名
提出ノ法案、竝ニ熊谷五右衛門君外二十三
名提出ノ法案、デアリマス、此内熊谷五右衛
門君外二十三名提出ノ法案ヲ除クノ外ハ、
前議會ニ於キマシテハ、滿場一致ヲ以テ可
決セラレタル所ノ法案デアリマス、委員會
ニ於キマシテ先ヅ委員長、理事ノ選舉ヲ行
ヒマシタ所、委員長ニハ不肖私、理事ニハ
守屋榮夫君、林路一君、清水徳太郎君ガ當
選セラレタノデアリマス、議事ニ入りマシ
テ、各法案ノ提出者諸君ヨリ提案ノ理由ノ
説明ヲ求メタノデアリマス、更ニ進ンデ質
疑應答ヲ重ネマシタ、其提出ノ理由及ビ質

疑應答ノ詳細ナルコトハ、委員會ノ速記録
ヲ御覽ヲ願フコトニ致シマシテ、其大要ヲ
申上ゲテ見マスルト云フト、先ヅ東北地方
ノ方面ニ於キマシテハ、明治維新以來、政
費ノ配付ト云フモノガ甚ダ薄カッタコト、或
ハ交通機關、或ハ通信機關、ソレ等ノモノ
ニ對シテハ、甚ダ薄カリシ點ガナカリシヤ
否ヤ、斯ウ云フ點、東北ノ地方ノ人民ハ、
生活ノ上ニ於テモ非常ニ困難デアアル、併シ
田畑ニ依ツテ生ズル所ノ收入ノ外、他ノ産業
ト云フモノガ全ク起ツテ居ラヌノデアアッテ、
生活ノ資料ヲ得ル爲ニハ、東北ノ人民ハ非
常ナル困難ヲ經ナケレバナラヌト云フ點、

テモ、之ヲ運搬スルノニ非常ナ價格ヲ要ス
ルト云フヤウナコトデアアル、又移入スル所
ノモノモ、非常ニ高イモノデナケレバ買ウ
コトガ出来ヌト云フヤウナ状態デアッテ、困
迫ヲ極メテ居ル状態ハ、諸君ガ御承知ノ通
リデアアルノデアリマス、更ニ東北ノ地方ニ
於キマシテハ、今日ノ現行法ト致シマスル
所ノ地租法ハ、何ヲ根據トシテ居ルカト云
ヘバ、賃賃價格ヲ根據トシテ居ル、其賃賃
價格ノ根據トナツテ居ルモノハ、何デアアルカ
ト云フト、小作人ガ地主ニ納メル所ノ、其
小作料ヲ基本トシテ居ルノデアリマス、是
ハ大ニ考慮スベキ點デハナイカト思フノデ
アル、即チ東北地方ノ如キハ、前申上ゲマ
スル通りニ、收入ヲ得ル所ノモノハ土地シ
カナイ、田畑シカナイ、其田畑ヲ愛スルト云フ
コトハ、他ノ各縣ニ較ベマシテ非常ニ度ガ強
イノデアリマス、何故ナラバ、外ノ縣ニ於キマ
シテハ、色々ナ方法ニ依リマシテ收入ヲ得
ル途ガアリマスルケレドモ、東北各縣ノ人民ハ、
土地ヲ離レテハ全ク收入ヲ得ル途ガナイノ
デアリマスルカラ、隨テ他縣ニ比較シマシ
テ小作料ガ高イノデアアル、其高イ小作料ヲ
標準ト致シテ、サウシテ此賃賃價格ヲ定メ
ルト云フコトハ、不當モ甚シイノデアアルト
云フ議論ガアツタノデアリマス(拍手) 更ニ
只今申上ゲル現行ノ根本的精神ハ、賃賃價
格ヲ根據トシテ居ルモノデアアルト、斯ウ定
メテ見マシテモ、實際東北各縣ノ賃賃價格
ノ標準ガ不當デアアルト云フ御議論ガアツタ
ノデアリマス、是ハ詳細ナル統計ニ依ツテ、
提案者タル松岡君ヨリ細カニ説明ガアツタ
ノデアリマス、斯様ニ種々ナル質問應答ガ
アツタ結果、議員村松君ヨリ、右ノ四案ヲ一
括致シマシテ一案トナスノ修正案ガ出タノ

デアリマス、今修正案ヲ茲ニ讀上ゲマス、地
租法中左ノ通改正ス、第十條ニ左ノ但書ヲ
加フ、但シ青森縣、岩手縣、宮城縣、秋田
縣、山形縣、福島縣、北海道、福井縣、石
川縣、富山縣、新潟縣、長野縣、鹿兒島縣
大島郡及沖繩縣ハ百分ノ二・六トス、附則、
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム、斯
ウ云フ修正案ガ出來タノデアリマス(拍手)
此修正案ニ對シマシテ決ヲ採リマシタ所、
滿場一致ヲ以テ之ヲ可決シタノデアリマス、
ドウゾ本會議ニ於キマシテモ、滿場ノ御贊
成ヲ得ラレシコトヲ希望シマス(拍手)

○議長(秋田清君) 只今委員長ノ報告ハ、
四案ヲ併合シテ一案トナシ、修正議決シタ
モノデアリマス、四案ノ第二讀會ヲ開クニ
御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス
四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○青木雷三郎君 直チニ四案ノ第二讀會ヲ
開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通
リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議
アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、
直チニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ
議題ニ供シマス

地租法中改正法律案 第二讀會(確定議)
地租法中改正法律案 第二讀會(確定議)
地租法中改正法律案 第二讀會(確定議)

通り可決確定致シマシタ(拍手)

○青木雷三郎君 議事日程變更ノ緊急勸議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第三十五、地方財政調整法案ヲ繰上ラゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ希望致シマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第三十五、地方財政調整法案、第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ求メマス——勝正憲君

第三十五 地方財政調整法案(勝正憲君外九名提出) 第一讀會

地方財政調整法案

地方財政調整法

第一條 政府ハ地方財政調整ノ爲本法ニ依リ北海道、府縣及市町村ニ對シ交付金ヲ交付ス

第二條 交付金ノ總額ハ毎年度五千八百萬圓ヲ下ラサルモノトス

第三條 交付金ハ其ノ總額ノ百分ノ七十ヲ町村ニ、百分ノ十五ヲ市ニ、百分ノ十五ヲ道府縣ニ配分ス

第四條 町村ニ對スル交付金額ハ其ノ十分ノ三ヲ人口數ニ比例シ、其ノ十分ノ七ヨリ第八條ノ交付金額ヲ除キタル殘額ヲ第二項及第三項ニ依リ交付ス

前項後段ノ金額ハ之ヲ二分シ各左ノ標準ニ比例シテ道府縣ニ配分ス、

一 直接國稅及自作農地免租額ノ合計額ノ一人平均額カ全國市町村ノ一人平均額ニ達セサル市町村ニ於ケル其ノ不足額ニ人口數ヲ乘シテ得タル金

額

二 直接國稅附加稅及特別地稅ノ賦課制限額ノ一人平均額カ全國市町村ノ一人平均額ニ達セサル市町村ニ於ケル其ノ不足額ニ人口數ヲ乘シテ得タル金額

前項ノ規定ニ依リ道府縣ニ配分シタル交付金ハ其ノ總額ヲ二分シ各左ノ標準ニ比例シテ當該市町村ニ交付ス

一 直接國稅及北海道地方稅又ハ府縣稅並自作農地免租額ノ合計額ノ一人平均額カ當該道府縣ノ一人平均額ニ達セサル市町村ニ於ケル其ノ不足額ニ人口數ヲ乘シテ得タル金額

二 直接國稅及北海道地方稅又ハ府縣稅ニ對スル市町村ノ附加稅賦課制限額ノ一人平均額カ當該北海道又ハ府縣ノ一人平均額ニ達セサル市町村ニ於ケル其ノ不足額ニ人口數ヲ乘シテ得タル金額

第五條 市ニ對スル交付金額ハ前條ノ規定ニ準シテ之ヲ交付ス

第六條 道府縣ニ對スル交付金額ハ其ノ十分ノ三ヲ人口數ニ比例シ、十分ノ七ヨリ第八條ノ交付金額ヲ除キタル殘額ヲ二分シ各左ノ標準ニ比例シテ當該道府縣ニ交付ス

一 直接國稅及自作農地免租額ノ合計額ノ一人平均額カ全國一人平均額ニ達セサル道府縣ニ於ケル其ノ不足額ニ人口數ヲ乘シテ得タル金額

二 直接國稅附加稅及特別地稅ノ賦課制限額ノ一人平均額カ全國一人平均額ニ達セサル道府縣ニ於ケル其ノ不足額ニ人口數ヲ乘シテ得タル金額

第七條 地方財政上特別ノ事由アルトキハ勸令ノ定ムル所ニ依リ前三條ノ規定ニ依リ交付金額ノ全部又ハ一部ヲ減スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ剩餘ヲ生シタルトキハ其ノ額ハ各人口數ニ比例シテ一般ニ交付スルコトヲ得

第八條 政府ハ勸令ノ定ムル所ニ從ヒ資力其ノ他ノ事情ニ依リ必要アリト認ムルトキハ町村ニ在リテハ國庫支出金ノ千分ノ七十、市及道府縣ニ在リテハ各國庫支出金ノ千分ノ十五ヲ超エサル範圍内ニ於テ特ニ交付金額ヲ増加スルコトヲ得

第九條 本法ノ交付金ハ負擔過重ナル地方稅ノ輕減ニ充ツルモノトス

前項輕減スヘキ地方稅ノ種類ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方財政監督上必要アリト認ムルトキハ勸令ノ定ムル所ニ依リ交付金ノ使途ニ關シ必要ナル事項ヲ命令シ又ハ當該町村、市若ハ道府縣ニ對シ本法ノ交付金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ停止スルコトヲ得

第十一條 第四條第六條ノ人口數ハ前前年末現在ニ依リ、直接國稅及地方稅ハ前年度調定濟額ニ依ル其ノ調定濟額ニ依リ離キモノ及自作農地免租額ノ標準ニ付テハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 本法ニ於テ直接國稅トハ地租、第一種及第三種ノ所得ニ對スル所得稅、營業收益稅及乙種ノ資本利子稅ヲ謂フ

第十三條 交付金額ノ計算方法ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第十四條 本法ノ適用ニ付テハ町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル町村ニ準スヘキ公共團體ハ之ヲ町村ト看做ス

附則 本法施行ノ期日ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

○勝正憲君 只今議題トナリマシタ地方財政調整法案ノ提案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、農村ノ救済ハ目下ノ重大問題デゴザイマス、今ヤ農村ハ甚シク疲弊シ、甚シク困憊シテ居ルノデアリマス、其原因ハ色々アルデアリマセウガ、農村ノ生産品ノ價格ノ暴落デアルトカ、或ハ農村ノ住民ノ負債ノ増加シタコトデアルトカ、色々アリマス

ルガ、農村ニ於ケル租稅公課ノ負擔ガ著シク過重ニナツテ居ルト云フコトモ、亦農村疲弊ノ一大原因タルヲ失ハナイト信ズルモデアリマス(拍手)故ニ此農村ヲ救済致シマスニ付テ、效果的ナル一ツノ手段トシテ、農村負擔ノ輕減ト云フコトヲ考ヘテ見ナケレバナルマイト思フノデアリマス

農民ト商工業者トノ負擔ノ權衡ハドンナモノデアアルカト云フコトニ付キマシテハ、色々ノ方面ノ調査ガアリマス、調査ノ結果モ區々デアリマスケレドモ、大體カラ眺メテ見マシテ、農村ノ負擔ガ商工業者ノ負擔ヨリモ重イト云フコトハ、動カスベカラザル事實デアリマスガ、私ハ尙一步ヲ進メマシテ、農村地方ト市街地ノ地方トノ間ニ於ケル住民ノ租稅公課ノ負擔ノ狀態ガ、ドウナツテ居ルカト云フコトヲ、地方的ニ簡單ニ比較ヲ致シテ見タイト思フノデアリマス

先ヅ東京、大阪ト云フヤウナ大都市ヲ含ンデ居ル府ト、少シ邊鄙ナ地方ノ青森デアルトカ、鳥取デアルトカ、鹿兒島、沖繩ト

云フヤウナ縣トノ間ニ於ケル、租税ノ負擔
ガドウ云フヤウニナツテ居ルカト云フコト

テ居ルカト云フコトガ、分ルデアラウト思
フノデアリマス(拍手)

平ナ負擔ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ何
故ニ斯ウ云フコトニナツテ居ルカト云フコ

本案ニ依リマスレバ、其金額ハ五千八百萬
圓ト相成ツテ居リマス、或ハ金額ガ少キニ失

フ比較シテ見マスレバ、先ヅ直接國稅ガ、
是等ノ各府縣ニ於ケル直接國稅ノ人口一人

今其原因ヲ探ネテ見マスレバ、直接國稅
ハ、各人ノ所得デアルトカ、或ハ土地デア

トヲ申シマスレバ、大體ニ於テ是ハ富ノ分
布ガ市街地ニ偏ツテ、農村ニ地方ニ薄ク

此案ニ依リマスレバ、極メテ窮迫シテ
居ル地方ノ農村ニ、比較的多額ノ交付金

當リノ負擔ガドウナツテ居ルカト言ヒマス
レバ、東京ハ二十圓五十七錢、大阪ガ十四

ナル課稅標準ヲ取ラレテ課稅ヲシテ居ルモ
ノデアリマスカラ、各地ノ負擔ガ比較的公

即チ市街地ニ於キマシテハ非常ニ富ノ集積
ガ多イ、然ルニ農村ニ於テハ富ノ分布ガ極

テ、此案ヲ實行シマスレバ、全國一万二
千ノ市町村ノ中ノ、窮乏セル市町村ノ殆

圓五十一錢、青森ガ二圓四十八錢、鳥取ガ
三圓八錢、鹿兒島ガ一圓九十三錢、沖繩ガ

平ニ出來テ居ルノデアリマス、然ルニ地方
稅ニ參リマシテハ、各地トモソレノ教育

メテ稀薄ニナツテ居ルガ爲ニ、此富ノ分布ノ
薄イ所ノ農村ニ於キマシテモ、或ハ教育

下全部ヲ救フコトガ出來ル見込デア
ルデアリマス(拍手)

七十四錢ト云フヤウナ風ニ、段々先ヅ富力
ノ強イト思ハレル所ハ多クナツテ、富力ノ

ニ課稅資源ノ豐カナル町村ニ於キマシテ
ハ、比較的輕キ負擔ヲ以テ、此經費ヲ支辨

ムヲ得ザル所ノ出費ト云フモノハ澤山ア
ル、之ヲ支辨スルガ爲ニ、遂ニ只今申上ゲ

ヲ救フト云フノガ目的デアリマス、デアリ
マスルカラシテ、其分配ノ方法ガ良イカ悪

弱イト思ハレル所ハ、段々負擔ガ減ツテ參
テ居ルノデアリマス、而シテ是等ノ各府縣

ノ乏シイ邊鄙ナル町村ニ於キマシテハ、之
ヲ支辨スル稅源ガ乏シイ、其爲ニ著シキ過

ト信ズル者デアリマスガ故ニ、此不公平ナ
ル、此無理ナコトヲ救ヒマスルニハ、何ト

テモ、其分配ノ方法ガ巧ク行カナケレバ、
徒ニ地方ノ財政ヲ膨脹セシメ、國庫ノ負擔

ニ於キマシテ地方稅、即チ町村稅ノ合計ガ
ドウ云フ工合ニナツテ居ルカト云フコトヲ見

重ナル結果ヲ示シテ居ルノデアリマス、譬
ヘテ見マスレバ、町村ニ於ケル國稅タル地

方ノ負擔ヲ減ジテ參ルト云フコトヲ致サナ
ケレバナラヌモノデアラウト思フノデアリ

案ニ於キマシテハ、其煩ノ厭ハズ、法律ノ
中ニ其分配ノ方法ヲ詳細ニ定メ盡シマシテ、

マスレバ、其一人當リヲ申シマスレバ、東
京ガ十一圓六十一錢、大阪ガ十一圓七十七

租一圓ニ對スル附加稅ガ、ドウ云フ風ニ
區々ニナツテ居ルカト申シマスレバ、最モ重

マシ、即チ富ノ分布ノ多イ所ノ地方ノ負擔
ヲ増シテ、富ノ分布ノ少イ所ノ地方ノ負擔

之ヲ勅令等ノ規定ニ讓ラズ、政府當局者ノ
裁量ノ餘地少カラシムルヤウナ方法ヲ採ッ

九錢、鹿兒島ガ七圓八十八錢、沖繩縣ト雖
モ三圓六十八錢ト云フヤウナ風ニ、比較的

イ所ハ岐阜縣ノ或村ニ於キマシテ、國稅一
圓ニ對シテ二圓四十二錢、然ルニ最モ輕イ

バナラヌト思フノデアリマス、(簡單々々)
ト呼フ者アリ)ソレヲヤリマスルニハ只今

セヌコトハ、地方ノ財政ノ監督デアリマ
ス、若シ本案ニ依リマシテ交付金ヲ支給致

邊鄙ナ地方ノ府縣ニ於キマシテモ、其負擔
ガ著シク重クナツテ居ルト云フコトガ、數

テ居ナイ、又營業收益稅ニ於キマシテモ其
附加稅ガ、德島縣ニ於キマシテハ國稅一圓

云フモノニ依リマシテ、交付金ノ制度ヲ設
ケマシテ、此交付金ノ交付ニ依リマシテ、

シマシテモ、地方財政ノ監督ガ不十分デア
リマスナラバ、徒ニ地方ノ財政ヲ膨脹セシ

字ノ上ニ現ハレテ居ルノデアリマス、若シ
地方稅ガ公平ニ分布サレテ居リマスルナラ

ハ僅ニ二十錢ト云フヤウナ負擔ニナツテ居
ルノデアリマス、又戶數割ノ一戶當リノ負

メ、甚シキニ至リマシテハ不急ナル、不要
ナル事業マデモ起サセテ、負擔ノミヲ増加

シテ、何等農村ノ救濟トハナラナイト云フ
結果ヲ生ズル虞ガアルノデアリマス、故ニ

非常ナ區々ナル數字ヲ示シテ居リマス、若
シ直接國稅ノ一人當リト、地方稅ノ一人當

ニ付テ一圓九十八錢、岡山縣ニ於キマシテ
ハ僅ニ二十錢ト云フヤウナ負擔ニナツテ居

出ルモノデアラウト思フノデアリマス、
此不公平ヲ救濟シ、此窮乏ヲ救フベキモノ

府ニ強大ナル地方財政ノ權限ヲ與ヘマシ

テ、之ニ依リマシテ一定ノ交付金ノ使ヒ途ニ對シマシテハ一定ノ命令ヲ爲シ、又官廳ノ命令ヲ守ラナイ場合ニ於キマシテハ、其交付金ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ停止スルコトヲ得セシムルコトニ致シテアルノデアリマス

以上ガ大體本案ノ提案ノ理由デアリマスルガ、最後ニ一言申シテ置キタイコトハ、此交付金ヲ實施致スニ付キマシテ、必要ナル五千八百萬圓ノ財源ヲ如何ニスルカト云フコトデアアルノデアリマス、本案通過ノ曉ニ於キマシテハ、政府ハ適當ナル財源ヲ求メマシテ、之ヲ支辨スルガ宜シイノデアリマスルケレドモ、假ニ私ノ腹案ヲ簡單ニ申シテ見マスレバ、今日我國ノ直接國稅ノ中デアアルモノガアル、又課稅技術上不可能ナルモノガアリマス、例ヘバ第二種ノ所得稅デアアルトカ、資本利子稅デアアルトカ、相續稅デアアルトカ云フヤウナモノデアリマス、是等ノモノニ對シマシテハ、相當ニ増額ノ餘地ガアルト思フノデアリマス、尙ホ其他ニ非常利得ニ對スル適當ナル課稅ヲスルト云フヤウナ方法ヲ執リマスレバ、此五千八百萬圓ノ財源ヲ得ルコト必ズシモ難クナイト思フノデアリマス、斯様ニ申シマスレバ、此案ハ恰モ一種ノ増稅案デアアルガ如ク見エマスケレドモ、左様デハナイノデアリマス、即チ國稅ヲ若干増額スルト同時ニ、ソレト同シ金額ヲ地方稅カラ輕減致スノデアリマスカラ、國民全體ノ負擔トシマシテハ、一厘一毛ノ増加ヲ致サナイト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、以上本案提出ノ大體ノ理由デアリマス、御審議ノ上御贊成アラントヲ希望シマス(拍手)

○議長(秋田清君) 本案ニ對シ質疑ノ通告ハアリマセヌ——青木君、何カ御發言ハアリマセヌカ

○青木雷三郎君 本案ハ清瀬一郎君外四名提出、農村救済負擔均衡法案外一件ノ委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——是ヨリ質問ニ入りマス、本日ノ日程ニ掲ゲマシタ質問ノ一、政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシタ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス、質問二、風見章君提出、鬼怒川上流堰堤工事中止ニ關スル質問ヲ許可致シマス——提出者風見章君

二 鬼怒川上流堰堤工事中止ニ關スル質問(風見章君提出)

鬼怒川上流堰堤工事中止ニ關スル質問 主意書

右成規ニ據リ提出候也 昭和九年二月八日 提出者 風見 章

鬼怒川上流堰堤工事中止ニ關スル質問 主意書

完全ナル鬼怒川改修ハ茨城縣沿岸居民ノ等シク一日モ速ニ完成セムコトヲ切望スル所ナルカ昨年五月ニ至リ該改修工事ノ基本タル鬼怒川上流五十里堰堤工事ハ工事不能ノ故ヲ以テ突如トシテ之カ中止ヲ見ルニ至レリ而モ該工事ノ中止ハ鬼怒川改修ノ完壁ヲ期スルノ見地ヨリ茨城縣沿岸居民ヲシテ幾多疑惑ヲ抱カサルヲ得サラムシム依テ左ノ點ニ付政府ノ所信ヲ質サ

ムトス 當局最初ノ聲明ニ依レハ該堰堤工事計畫ハ利根川改修ノ竣工ニ依リ鬼怒川ノ最大洪水量ニ違算ヲ生シタルヲ以テ鬼怒川上流五十里ニ大堰堤ヲ築造シ鬼怒川洪水量ノ調節ヲ爲ス必要ニ基クテ言フニアリテ實ニソハ鬼怒川改修計畫ノ基本條件タル重要工事ナリ即チ該工事成ラヌハ鬼怒川改修工事ノ完壁ハ期スル能ハサルモノト言ハサルヲ得ス隨テ該工事中止ニ失敗シタル以上鬼怒川改修計畫ハ當然其ノ根本方針ヲ改メサルヘカラサルハ論ナク既成利根川改修モ亦大増補ヲ免レサルヘシ然ルニ政府ハ該工事中止後最初ノ改修計畫ニ依リ鬼怒川洪水量ノ測定ハ過大ニ失シタルヲ理由トシテ堰堤工事ナシトスルモ不安ナシト發表セリ併シ乍ラ從來洪水ノ爲ニ幾回カ慘害ヲ被リタル下流茨城縣沿岸居民ハ斯ノ如ク計畫杜撰ナリシ事實カ明ニサレタル今日容易ニ當局ノ不安ナシトスル發表ニ信賴シ難シ之ニ對スル政府ノ所信如何

右及質問候也 (風見章君登壇)

○風見章君 私ガ政府ニ問ハントスル所ハ、莫大ナル國費ニ依ツテ現在進行シツ、アル鬼怒川改修工事ニ關スル質問デアリマス、最初當局ノ説明ニ依リマスルト、利根川ノ改修工事ガ出來上ツテシマツタ、ソコデ其支流デアル鬼怒川ノ最大洪水量ニ自ラ變化ガ起ツテ來タ、隨テ此鬼怒川ノ最大洪水量ノ變化ニ依リ改修工事ヲ爲スニハ、實ハ何千万ト云フ莫大ナ經費ガ必要デアアル、然ルニ左様ナ莫大ナ費用ヲ掛ケナクテモ、茲ニ一ツ便法ガアル、ソレハ上流ニ「ダム」工事

ヲ施セバ、ソレニ依ツテ利根川改修ニ依ル鬼怒川最大洪水量ノ變化ニ應ズル改修工事ヲ、極メテ少イ經費ヲ仕上ゲルコトガ出來ルノダ、ダカラ鬼怒川ノ上流ニ「ダム」ヲ築造スルノダ、即チ此「ダム」ヲ築造スルト云フコトハ、鬼怒川工事ヲシテ、ヨリ少キ費用ヲ以テヨリ大ナル效果ヲ擧ゲシムルノダ、サウスルコトニ依ツテ鬼怒川ノ改修工事ハ始めテ完壁ヲ期スルコトガ出來ルノダ、是ガ鬼怒川改修工事ニ關シ、當局ガ最初ノ聲明シタ所デアアルノデアリマス、隨テ申スマデモナク此「ダム」築造工事ト云フモノハ、鬼怒川改修工事ノ基本條件デアツテ、其計畫ノ意義ノ、極メテ重大ナルハ申迄モナイ、所ガ其築造工事ガ、昨年五月突然中止サレテ其儘ニナツテ居ル、ソコデ私ガ茲ニ是非共當局ニ質シタイ疑問ガ起ツテ來ルノデアリマス

只今申上ゲタ如ク、鬼怒川上流ノ「ダム」改修工事ハ、利根川ノ改修工事ニ依ツテ變更シタル鬼怒川ノ最大洪水量ノ變化、之ニ匹敵スベキ鬼怒川改修工事ノ基本條件ナシタ、斯様ニ考ヘテ居ツタニ拘ラズ、其築造工事ガ失敗シテシマツテ、其儘ニナツテ居ル、斯ウ云フコトデアレバ、此「ダム」工事ノ失敗ニ終ツタ今日ニ於テハ、當局最初ノ聲明ヲ標準トシテ考ヘレバ、現在行ハレツ、アル計畫ハ甚ダ不完全ダ、是デハ完壁ヲ期スルコトハ出來ナイシタ、斯ウ云フ結論ニナリハシナイカ、又現在ノ「ダム」工事失敗ノ儘ニ繼續セントスル計畫ガ不完全デハナイ、斯ウ云フノデアアルナラバ、先ノ「ダム」ヲ必要トシタル築造工事計畫ハ、結局杜撰ダト云フコトニナルノデハナイカ、此點ニ關シテ當局ハ又斯ウ云フコトヲ言ツテ居ル、

「ダム」工事中止後、最初ノ改修計畫ニ於ケ

二 國境紛争處理共同委員會設置ニ關スル方針如何(不侵略條約締結ニ代ルベキモノ)

三 「ポーツマス」條約ニ依ル蘇聯領域内漁業、石油、森林其ノ他資源開發ニ對スル利權問題解決ノ具體の方策如何

四 「ロマノフ」王朝時代ヨリ引續キ存在セル對蘇債權請求權ノ發動ヲ計リ速ニ此ノ問題解決ノ爲交渉ヲ開始スルノ意思アリヤ否ヤ

五 蘇國ハ第三「インター・ナショナル」ヲ利用シテ日本並滿洲國、支那ニ赤化宣傳ヲ爲シツツアルト共ニ殊ニ支那ニ對シテハ既ニ外蒙及新疆ヲ其ノ勢力下ニ置イテ居ル如キ蘇聯邦ノ支那ニ對スル勢力ノ進展ハ延テハ支那領土ノ侵略トナリ又支那ノ分割問題ニ立至ルカラ日滿兩國ハ非常ナル影響ヲ受ケル故場合ニ依テハ適當ナル處置ヲ執ル必要ガアルガ政府ニ於テハ十分ナル考慮ヲ拂ハレテ居ルヤ否ヤ

六 蘇聯邦領域内河川航行問題解決ノ方策如何
右及質問候也
(畑桃作君登壇)

○畑桃作君 今議會始マツテ以來、貴衆兩院ニ於ケル政府當局ノ外交ニ關スル説明ヲ拜聴致シマシタガ、之ヲ綜合致シマスノニ、政府ハ所謂來ルベキ千九百三十六年ノ前後ニ於テ、豫想セラレル危機ニ對シマシテ、之ヲ豫防スル爲ニ、又此危機ヲ解消セシムル爲ニ、適切ナル外交工作ヲ以テ當ルト云フコトヲ申サレテ居ルノデアリマス、洵ニ方針ニ於テハ結構デアリマス、併ナガラ此内閣ノ外交ノ實際ニ打付カッタ所ヲ檢討致

シマス、其方針トハ實ガ伴ハナイノデアリマス、相手國ニ如何ニ翻弄サレマシテモ、籠絡サレテモ、又幾多ノ苦イ經驗ヲ嘗メサセラレテモ、我國ノ今ノ外交ト云フモノハ、免角其外交辭令ニ囚ハレテ居リマシテ、問題ノ本質ニ遠ザカリ、枝葉末節論ニ汲々トシテ居リマシテ、所謂事務的外交、官僚的外交ノ範圍ヲ出ナイノデアリマス、ドウシテ政府ハ斯ノ如ク常ニ消極的デアリカ、守勢的デアリカ、何故モト攻勢ニ轉ズルコトガ出來ナイノデアリカ、デアリマスカラ近時動トモスルト蘇聯邦トカ、或ハ英國ノ如ク、其國ノ内情ニ甚ダ不安ガアリ、甚ダ弱點ガアル所ノ國民の内情ヲ持ッテ居ル國カラサヘモ、日本ノ近頃ノ外交ト云フモノハ免角押サレ氣味デアリマス、是レ本員ノ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、殊ニ過般ノ對印商議ニ於キマシテ、政府ガ全ク屈辱的ニ終始致シ、外交ニ於テ失敗シタト云フヤウナ、斯ウ云フヤウナ手際ヲ見テモ、到底此内閣ノ外交ヲ以テシテハ、來ルベキ危機ヲ未然ニ豫防シ、之ヲ解消スルト云フヤウナコトハ私ハ出來ナイト思フ(拍手)

近代的外交ハ、先ヅ相手國ノ政府ト交渉ヲ進メルト同時ニ、一方ニ於テハ其國ノ國民ニ呼ビ掛ケナケレバ成功スルモノデアリマセヌ(拍手)前車覆轍ノ戒トナリマスカラシテ、今後ノ對露外交ヲ進メル上ニ付キ、對米外交ヲ進メル上ニ付キ、大切ナ戒ト思ヒマスカラシテ、一言茲ニ過般ノ對印外交ノ失敗ニ付テ要點ヲ擧ゲテ、政府ノ注意ヲ喚起シタイト思フノデアリマス、「シムラ」ニ於ケル對印協商ニ於キマシテハ、日本ノ政府ガ印度ノ三億ノ國民ニ對シテ呼ビ掛ケルコトヲ忘レマシテ、終始一貫、英國ノ手デアリマスル所ノ秘密外交ニ追隨シタカラ、斯ウ云フ結果ヲ生ンダノデアルト思フノデアリマス、即チ印度ノ棉作ニ從事シテ居リマスル所ノ農民ニ對シマシテハ、本年ノ三月、即チ今月迄此日印會商ヲ日本ガ頭張ツテ延期ヲシテ居リマシタナラバ、ドウ云フコトニナルカト云フト、丁度今月ハ印度ノ棉作業者ニ取ッテハ、一年中最モ大切ナル棉ノ收穫期デアリマス、此收穫期マデ日本ガアノ協商ヲ頑張ツテ、サウシテ印度ニ對シテ相當ニ手ヲ打ツナラバ、私ハ是ハ印度ノ内部ニ於テ、日本ノ大キナ味方ガ必ズ現ハレタト思フノデアリマス、即チ印度ノ農民ガ今月棉ヲ收穫シテ、之ヲ賣ルト云フ時ニ、日印會商ガ決裂スルダラウ、日本ハ棉ヲ買ハヌト云フコトニナッタラ、是ハ棉ノ値ハ暴落シテ零ニナツテシマフ、此點ニ對シテハ印度ノ農民ハ如何ニ惱シンダカ、是ハモウ明カデアリマス、而モ印度人ハ日本カラ安イ物ヲ買ハセラレナイデ、英國カラ高イ物ヲ買ハサレテ、彼等ハ日常ノ生活ニ於テ非常ニ苦シク居ル、ソコヘ持ッテ行ッテ、平生カラ排英運動ト云フモノニ對シテハ、彼等ハ相當ノ熱意ヲ有ッテ居ル、而モ自分ノ生活ガ零ニナル、而モ安イ物ヲ買ヘナイ、高イ物ヲ英國カラ買ハサレル、此將來ヲ考ヘル時ハ、印度農民ノ不安、國民ノ不安ト云フモノハ非常ナモノデアリマス、斯様ナ弱點ガ印度ノ内部ニアルカラ、英國ノ政府ハ、此協商ハ三月迄延バサナイヤウニ、延バサナイヤウニ、早ク之ヲ片付ケテシマフト云フノデ彼等ハ急イダ、是ハ彼等トシテハ無理ノナイコトデアアル、併ナガラ此點ハ彼等ニ對スル弱點デアアルガ、我國ニ取リマシ

テハ、是ハ大ナル味方デアリマス、之ヲヤルニハドウシタラ宜イカト言ヘバ、即チ日本ノ代表ガ印度ノ大衆ニ向ッテ呼ビ掛ケレバ宜カッタ、所ガ呼ビ掛ケナイデ、英國ノ秘密會議ニ追隨致シマシテ、殿様然トシテ、オ坊ツチヤン然トシテ、殆ド人形扱ヒニサレマシテ、サウシテア、云フ屈辱的ナ結末ヲ見タノデアリマス、成程「シムラ」ニ於キマシテハ、此會議ノ内容ガ外ハ漏洩スルト云フコトハ、英國トシテハ是ハ一大事デアリマスルカラ、英國トシテハ會議ノ内容ガ漏洩シナイヤウニ言論機關ニ警戒ヲ與ヘルコトハ、是ハ當然デアリマススケレドモ、「シムラ」デ都合ガ悪カッタナラバ、少クトモ我國トシテハ宣傳本部ヲ「ボンベイ」邊リニ持ッテ來テ、サウシテ言論機關ヲ總動員シテ印度ノ農民ニ呼掛ケル、呼掛ケラレタル印度ノ農民モ、亦日本ノ言フ事ヲ實行シタ方ガ自分ノ爲ニナルト云フコトハ分ッテ居ル、斯ウ云フ大事ナ外交戰術上ノ「ポイント」ヲ政府ハ忘レマシテ、サウシテ唯事務的ニ、官僚的ニヤツテ居ルト云フノデアリマスカラ、如何ニ廣田外務大臣ガ何ト申シマシテモ、是ハモウ英國ニ脅喝ヲサレ、翻弄サレテ、其儘モウ泣寝入ニナツテシマッタノダト言ハレテモ已ムヲ得ナイノデアアル

併シ吾々ハ今後はカラヤラナケレバナラヌ所ノ對露外交「ソツイエト」聯邦ノ首腦部ナド、云フモノハ、是ハ更ニモウ陰險惡辣ナコトハ決ッテ居ルト思フ、一筋繩ニ掛ラヌ所ノ連中ヲ相手ニ、日本ガ外交ヲ進メルニ方ッテ、日印商議ノ場合ノ如キ手抜カリヲシタナラバ、是ハモウ大變デアリマス、最近外務大臣ハ北鐵從業員ヲ滿洲國ガ釋放シタカラ、對露關係ハ幾ラカ好轉シタト云フヤ

ウナ言説ヲ新聞ガ掲載スル所ノ機會ヲ作り
マシタケレドモ、是ハモウ見當違ヒノ甚ダ
シイモノデアリマス(ヒヤ／＼)斷ジテ樂
觀ヲ許サナイノデアリマス、露西亞ノ國內
事情ニ於キマシテモ、印度ト性質ハ變ルガ、
同ジヤウナ力ガ動イテ居リマス、是ハ印度
ノ民衆ハ英國ノ商人ニ祇メラレテ居ル高イ
物ヲ買ハセラレテ、安イ物ヲ買ハセラレナ
イヤウニシテ、ソレデ搾取サレテ居ルガ、
露西亞ノ國內事情ハドウカト申シマスレ
バ、露西亞ノ二億ノ大衆ト云フモノハ、共
産黨ノ首腦部ニ依ッテ、有ユル場合ニ搾取サ
レテ居ル、殊ニ露西亞ノ一億五千万人ノ農
民ハ、露西亞ノ工業工作ノ爲ニ殆ドモウ犧
牲ニサレテ居ル、ソレガ爲ニ露西亞ノ農民
ハ暗黒ナル生活ノどん底ニ陥ッテ、喘イデ居
ルノデアリマス、ソレダカラ露西亞ノ内部
ニ於ケル反革命運動ト云フモノハ、是ハ如
何ニ「ソウイェト」首腦部ガ隠蔽致シマシテ
モ、鬱勃タル力ヲ以テ是ハ發展ヲシテ居
ル、詰リ露西亞政府ノ外交ノ、銃後ノ力ト
云フモノハ、印度以上ニ大ナル弱點ヲ有ッ
テ居ル、デアリマスカラ表面デハ「ソウイ
ェト」政府ガ如何ニ強イコトヲ申シマシテ
モ、日本ノ正義ノ外交ノ味方ト云フモノ
ハ、露西亞ノ内部ニ鬱勃トシテ居ルノデア
リマスカラ、此點ニ對シテモ十分今後外交
ノ局ニ當ル者ハ、大ニ注意シナケレバナラ
ナイト思フノデアリマス、對露懸案ノ解決
ト云フ大局カラ見マシタナラバ、是ハ一時
的ノ派生的問題デアリマスガ、最近突發セ
ル所ノ日本ノ關東軍ノ飛行機ヲ、「ソ」軍ガ
射撃シタト云フ事件デアリマス、ソレカラ
「ソ」聯邦ノ飛行機ガ、二月二十三日カラ五
日迄ノ間ニ、何回モ我ガ滿鮮國境ヘ飛來シ

タト云フ事實デアリマス、之ニ對スル真相
ノ經過ヲ政府カラ聽キタイト思ヒマス
ソコデ此問題ノ本質ニ入ッテ質問ヲ致シ
マスガ、日露關係ハ、結局ドウ云フ運命ニ
在ルカト申シマス、私ハ日露間ニ介在セ
ル懸案ガ解決出來マスナラバ、「ソウイェト」
ト大キク和スルコトガ出來ルト思ヒマス、
併シ此懸案ノ解決ニ當ッテ「ソ」國ニ誠意ガ
無カッタナラバ、其結果ト云フモノハ「結
局無誠意ナル露西亞ノ出様如何ニ依リマシ
テハ、或ハ一戰ヲ交ヘル餘儀ナキニ至ルカ
モ知レナイト思フノデアリマス(ヒヤ／＼)「
拍手」併ナガラ出來ルモノナラバ戰ハズシ
テ和シタイ、兩國ノ本當ノ最大限度ノ誠意
ノ披瀝ニ依リマシテ、戰ハズシテ解決シタ
イ、斯ウ云フ私ハ希望ヲ有ッテ居リマスカ
ラ、政府ニ此質問ヲ致シマス、然ラバドウ
云フ風ニシタラ此兩國間ノ懸案ヲ解決シ
テ、戰ハズシテ和スコトガ出來ルカト申シ
マスナラバ、今後私ハ御互ガ是ダケノコト
ヲ本當ニ氣ヲ付ケル必要ガアルト思フ、ソ
レハ第一ハ日露兩國ガ第三國ノ宣傳ニ乘ゼ
ラレナイヤウニスルコトガ一ツデアル、第
二ハ「ソウイェト」自身ガ、日本ニ對スル挑
戰的ナ言説行動ヲ慎ムコトデアル、第三ニ
ハ即チ兩國間ニ介在セル經濟的ノ諸懸案
ノ解決デアリマス、此三ツガ解決出來マ
スナラバ、戰ハズシテ兩國ガ和スコトガ
出來ルト思フガ、政府ヘドウ思ッテ居ルカ、
近時外國電報ハ、頻ニ日露ノ危機ガ近ヅイ
タトカ、日露開戰ノ機ガ近ヅイタト云フコ
トノ報道ヲシテ參ルノデアリマス、是ハ兩
國ノ爲ニ甚ダ遺憾トスル所ノ者デアリマ
ス、併シ日露ノ危機ガ近ヅイタトカ、日露
開戰ノ機ガ近ヅイタトカ云フヤウナ、此「デ

マ」ノ世界ニ於ケル發生地ハ何處デアルカ、
之ヲ能ク檢討シテ、兩國ハ警戒シナケレバ
ナラナイト思フノデアリマス、其策源地ハ
私ノ研究ニ依リマスレバニツアルノデアリ
マス、一ツハ何處デアルカト云フト、歐羅
巴ニ於キマシテ常ニ獨・佛・伊ヲ爭ハシメテ
漁夫ノ利ヲ得テ居ル所ノ國ガアリマス、又東
洋ニ於キマシテハ日支、日米、日露ヲ常ニ
爭ハシメテ、サウシテ漁夫ノ利ヲ得テ自分
ノ國際政局ニ於ケル優勢ナル地位ヲ維持シ
テ居ル所ノ、茲ニ老獪ナル國ガアリマス、
此國ハ過般ノ國際聯盟會議ニ於キマシテ
モ、彼方ヲ引立テ、此方ヲ引立テ、結局爭
ハシメテ結果、日本ニ熱湯ヲ吞マセテ國デ
アリマス、又「リットン」報告ノ作成ニ當ッテ
ハ、日本ト列國ト爭ハシメルヤウニ、其内
容ヲ記述シテ居ル所ノ國デアリマス、是ハ
何處ノ國デアルカ、是ハ日本ノ外務省ヨリ
モ、亞米利加人ノ方ガ能ク知ッテ居ルヤウ
デアリマス、最近亞米利加ノ電報デアリマ
スガ、下院議員「マックフアッデン」ト云フ
議員ガ、二十六日日米親善ノ必要ヲ説イテ
議會デ演説シテ居リマス、其演説ノ中ニ、
英國ハ日米戰爭ヲ念頭ニ描イテ、辛抱強ク
之ヲ待ツコト久シイ、ノミナラズ之ヲ促進
スルヤウナ宣傳ヲ色々圖ッテ居ル、何トナレ
バ日米兩國ハ、英吉利ニ取ッテハ通商上ニ於
テモ、海軍力ノ優越ニ於テモ、共ニ強敵デ
アルカラデアアル、自分ノ知ル限りニ於テサ
ハ、澤山ノ英吉利人ヤ英吉利ノ團體ガ、斯
ル戰爭ヲ實現サセルヤウニ、慎重周到ナ考
慮ヲ以テ努力シツ、アル、現ニ亞米利加國
内ニ於テ迄、斯ル運動ヲヤッテ居ル有様デア
ル、勿論斯ル戰爭ハ、日米國民ノ共ニ欲シ
ナイ所デアアル、併シ此運動コソ、現在ノ國

際政局ノ將棋盤ノ上デ動イテ居ル重大ナル
一ツノ力デアアル、矢張り此日露ヲ戰ハシメ
ルト云フヤウナ宣傳ニモ、此力ガ動イテ來
タト思フノデアリマス、之ニ對シテ日「ソ」
兩國ハ用心シテ掛ラナケレバナラナイト思
フ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル所見ヲ有ッテ
居ルカ
ソレカラ第二ハ露西亞自身デアアル、最近
露西亞ハ西歐諸國ト不侵略條約ヲ締結シ、更
ニ米支ト不可侵條約ヲ締結シタ、ソレデ其
方面ニ多少安全保障ヲ得タ、サウ云フヤウ
ナ外交ノ一時的成功ヲ過信シタ爲ニ、近頃
露西亞ハ増長シテ居ル(拍手)ソレデ獨裁官
「スターリン」氏ヲ初メ總理大臣「モロトフ」、
外務大臣「リトヴィノフ」或ハ軍民委員長ノ
「ウオロシノロフ」ニ至ルマデ、公開ノ席上
ニ於テモ引續キ對日挑戰的演説ヲシテ居リ
マス、或ハ日本ハ露西亞ヲ討ツ準備ヲシテ
居ルトカ、露西亞ニ於テハ十分ノ用意ガア
ルカラシテ、日本ガ來ルナラ何時デモ來イ、
負ケナイト云フ所ノ演説ヲヤッテ居ル、ソレ
ノミナラズ「ソウイェト」聯邦ノ飛行機ヲ以
テ、日滿ノ國境ヲ脅シテ居ル、或ハ漁區問
題デ、天降リ式ニ、王手飛車取リト來ル、
サウ云フヤウニ露西亞ガ増長シテ居ルト云
フコトソレ自身ガ、兩國間ノ危險ヲ作リツ
ツアルノデアリマス、私ハ此機會ニ日本ノ
政府ガ露西亞ニ對シテ、深ク反省ヲ要求ス
ルト同時ニ、露西亞ノ首腦部モ自ら反省考
慮サレンコトヲ希望スル者デアリマス

何故露西亞ガサウ云フ風ニ、日本ニ強ガ
リヲ言フカト言ヘバ、露西亞ハ日本ニ對ス
ル認識ヲ缺イテ居ル、即チ日米間ニ近ク危
機ガ發生スルドラウ、或ハ日本ノ國內ニハ
政治的鬭爭ガ盛デアルトカ、社會的不安ガ

「ソ」聯邦ノ飛行機ガ、二月二十三日カラ五
日迄ノ間ニ、何回モ我ガ滿鮮國境ヘ飛來シ

タト云フ事實デアリマス、之ニ對スル真相
ノ經過ヲ政府カラ聽キタイト思ヒマス

ソコデ此問題ノ本質ニ入ッテ質問ヲ致シ
マスガ、日露關係ハ、結局ドウ云フ運命ニ
在ルカト申シマス、私ハ日露間ニ介在セ
ル懸案ガ解決出來マスナラバ、「ソウイェト」

ト大キク和スルコトガ出來ルト思ヒマス、
併シ此懸案ノ解決ニ當ッテ「ソ」國ニ誠意ガ
無カッタナラバ、其結果ト云フモノハ「結
局無誠意ナル露西亞ノ出様如何ニ依リマシ
テハ、或ハ一戰ヲ交ヘル餘儀ナキニ至ルカ
モ知レナイト思フノデアリマス(ヒヤ／＼)「
拍手」併ナガラ出來ルモノナラバ戰ハズシ
テ和シタイ、兩國ノ本當ノ最大限度ノ誠意
ノ披瀝ニ依リマシテ、戰ハズシテ解決シタ
イ、斯ウ云フ私ハ希望ヲ有ッテ居リマスカ
ラ、政府ニ此質問ヲ致シマス、然ラバドウ
云フ風ニシタラ此兩國間ノ懸案ヲ解決シ
テ、戰ハズシテ和スコトガ出來ルカト申シ
マスナラバ、今後私ハ御互ガ是ダケノコト
ヲ本當ニ氣ヲ付ケル必要ガアルト思フ、ソ
レハ第一ハ日露兩國ガ第三國ノ宣傳ニ乘ゼ
ラレナイヤウニスルコトガ一ツデアル、第
二ハ「ソウイェト」自身ガ、日本ニ對スル挑
戰的ナ言説行動ヲ慎ムコトデアル、第三ニ
ハ即チ兩國間ニ介在セル經濟的ノ諸懸案
ノ解決デアリマス、此三ツガ解決出來マ
スナラバ、戰ハズシテ兩國ガ和スコトガ
出來ルト思フガ、政府ヘドウ思ッテ居ルカ、
近時外國電報ハ、頻ニ日露ノ危機ガ近ヅイ
タトカ、日露開戰ノ機ガ近ヅイタト云フコ
トノ報道ヲシテ參ルノデアリマス、是ハ兩
國ノ爲ニ甚ダ遺憾トスル所ノ者デアリマ
ス、併シ日露ノ危機ガ近ヅイタトカ、日露
開戰ノ機ガ近ヅイタトカ云フヤウナ、此「デ

マ」ノ世界ニ於ケル發生地ハ何處デアルカ、
之ヲ能ク檢討シテ、兩國ハ警戒シナケレバ
ナラナイト思フノデアリマス、其策源地ハ
私ノ研究ニ依リマスレバニツアルノデアリ
マス、一ツハ何處デアルカト云フト、歐羅
巴ニ於キマシテ常ニ獨・佛・伊ヲ爭ハシメテ
漁夫ノ利ヲ得テ居ル所ノ國ガアリマス、又東
洋ニ於キマシテハ日支、日米、日露ヲ常ニ
爭ハシメテ、サウシテ漁夫ノ利ヲ得テ自分
ノ國際政局ニ於ケル優勢ナル地位ヲ維持シ
テ居ル所ノ、茲ニ老獪ナル國ガアリマス、
此國ハ過般ノ國際聯盟會議ニ於キマシテ
モ、彼方ヲ引立テ、此方ヲ引立テ、結局爭
ハシメテ結果、日本ニ熱湯ヲ吞マセテ國デ
アリマス、又「リットン」報告ノ作成ニ當ッテ
ハ、日本ト列國ト爭ハシメルヤウニ、其内
容ヲ記述シテ居ル所ノ國デアリマス、是ハ
何處ノ國デアルカ、是ハ日本ノ外務省ヨリ
モ、亞米利加人ノ方ガ能ク知ッテ居ルヤウ
デアリマス、最近亞米利加ノ電報デアリマ
スガ、下院議員「マックフアッデン」ト云フ
議員ガ、二十六日日米親善ノ必要ヲ説イテ
議會デ演説シテ居リマス、其演説ノ中ニ、
英國ハ日米戰爭ヲ念頭ニ描イテ、辛抱強ク
之ヲ待ツコト久シイ、ノミナラズ之ヲ促進
スルヤウナ宣傳ヲ色々圖ッテ居ル、何トナレ
バ日米兩國ハ、英吉利ニ取ッテハ通商上ニ於
テモ、海軍力ノ優越ニ於テモ、共ニ強敵デ
アルカラデアアル、自分ノ知ル限りニ於テサ
ハ、澤山ノ英吉利人ヤ英吉利ノ團體ガ、斯
ル戰爭ヲ實現サセルヤウニ、慎重周到ナ考
慮ヲ以テ努力シツ、アル、現ニ亞米利加國
内ニ於テ迄、斯ル運動ヲヤッテ居ル有様デア
ル、勿論斯ル戰爭ハ、日米國民ノ共ニ欲シ
ナイ所デアアル、併シ此運動コソ、現在ノ國

際政局ノ將棋盤ノ上デ動イテ居ル重大ナル
一ツノ力デアアル、矢張り此日露ヲ戰ハシメ
ルト云フヤウナ宣傳ニモ、此力ガ動イテ來
タト思フノデアリマス、之ニ對シテ日「ソ」
兩國ハ用心シテ掛ラナケレバナラナイト思
フ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル所見ヲ有ッテ
居ルカ
ソレカラ第二ハ露西亞自身デアアル、最近
露西亞ハ西歐諸國ト不侵略條約ヲ締結シ、更
ニ米支ト不可侵條約ヲ締結シタ、ソレデ其
方面ニ多少安全保障ヲ得タ、サウ云フヤウ
ナ外交ノ一時的成功ヲ過信シタ爲ニ、近頃
露西亞ハ増長シテ居ル(拍手)ソレデ獨裁官
「スターリン」氏ヲ初メ總理大臣「モロトフ」、
外務大臣「リトヴィノフ」或ハ軍民委員長ノ
「ウオロシノロフ」ニ至ルマデ、公開ノ席上
ニ於テモ引續キ對日挑戰的演説ヲシテ居リ
マス、或ハ日本ハ露西亞ヲ討ツ準備ヲシテ
居ルトカ、露西亞ニ於テハ十分ノ用意ガア
ルカラシテ、日本ガ來ルナラ何時デモ來イ、
負ケナイト云フ所ノ演説ヲヤッテ居ル、ソレ
ノミナラズ「ソウイェト」聯邦ノ飛行機ヲ以
テ、日滿ノ國境ヲ脅シテ居ル、或ハ漁區問
題デ、天降リ式ニ、王手飛車取リト來ル、
サウ云フヤウニ露西亞ガ増長シテ居ルト云
フコトソレ自身ガ、兩國間ノ危險ヲ作リツ
ツアルノデアリマス、私ハ此機會ニ日本ノ
政府ガ露西亞ニ對シテ、深ク反省ヲ要求ス
ルト同時ニ、露西亞ノ首腦部モ自ら反省考
慮サレンコトヲ希望スル者デアリマス

何故露西亞ガサウ云フ風ニ、日本ニ強ガ
リヲ言フカト言ヘバ、露西亞ハ日本ニ對ス
ル認識ヲ缺イテ居ル、即チ日米間ニ近ク危
機ガ發生スルドラウ、或ハ日本ノ國內ニハ
政治的鬭爭ガ盛デアルトカ、社會的不安ガ

アル、經濟的不安ガアル、斯ウ云フ不安ガアルカラシテ、總テ日本内部ニ於テ自壞作用デモ起スカモ知レヌ、サウスレバ如何ニ強イコトヲ言フヤウナ、露西亞ノ外交ハ勝ツト云フヤウナ、錯覺ヲ有ツテ居ルト私ハ思フノデアリマス、我國ハ建國以來今日マデ、一君萬民ノ國體哲理ニ依ツテ國民ハ常ニ團結シテ居ル、縱ンバ經濟的不安、社會的不安、政治的不安ガ現在アルトシテモ、ソレハ國內ノコトデ、一朝事アレバ國民ハ團結シテ當ルト云フコトハ歴史ガ證明シテ居ル、日本ヲ抵メチヤイカヌ、此點ニ對シテ露西亞ハ非常ニ認識不足デアルト思フ、デスカラ他ノコトヲ言フヨリモ、露西亞ハ自分ノ國デ生活ノ暗黒ノ底ニ落チテ居ル農民ノ始末ヲ付ケタラ宜イ、反革命運動ノ始末ヲ付ケタラ宜イ、日本ノ内部ニ對シテ、彼等ガオセッカイナ解釋ハ要ラナイト思フノデアリマス(拍手)

第三ハ所謂懸案ノ解決デアアル、大凡國際間ノ問題ト云フモノハ、兩國ノ間ニ横ツテ居ル懸案ガ解決サヘ出来レバ、危機ト云フモノハ生ジナイノデアリマス、デアリマスカラ露西亞ガ如何ニ日露國境ニ兵隊ヲ集メヨウトモ、或ハ又亞米利加ガ大西洋ノ艦隊ヲ太平洋ニ廻サウトモ、是等ノ兵力集中問題ト云フモノハ、人ノ國ノ領土デ人ノ國ノ兵隊ヲ勝手ニ動カシテ居ルノデアルカラ、吾々ハ氣ニ病ム必要ハナイ、ソレヨリ其國ト國トノ間ニ介在シテ居ル懸案ヲ解決シテシマヘバ、其處ニ平和ガ來ル、兵力ノ問題ハ自ら解消シテシマフノデアリマスカラ、其懸案解決ニ向ツテ、本當ニ率直ニ突入ル必要ガアルト思フノデアリマス、然ラバ此日露ノ懸案ハ何デアルカ、先ヅ北鐵問題ニ

付テ質問ヲ致シマス、北鐵從業員ヲ釋放シタカラ、日露關係ガ明ルクナッタト云フヤウナ言説ヲ新聞ニ書イテ居ル、サウ云フ風ニ此間ノ答辯ニ依ツテ外務大臣ガ與ヘマシタ、ケレドモソノ簡單ナモノデアリマセヌ、是ハウツカリ樂觀論ヲヤツテ、其樂觀論ガ裏切ラレタ場合ニハ、全然豫測シナイ所ノ危機ガ私ハ早ク來ルモノデナイカト思フ、デアリマスカラ選舉ト同ジコトデ、投票ガ済ム最後ノ一分マデハ樂觀シタラ大變ダ、斷ジテ樂觀ヲ許サヌ、然ラバドウシタラ宜イカト言ヘバ、先ヅ此現實の基礎ニ立ツテ、之ヲ滿洲國ニ買ハシメル方法ヲ講ズルヨリ外ニ仕方ガナイ、現實の基礎ト云フノハドウ云フコトデアアルカト言ヘバ、此露西亞ノ北滿鐵道ト云フモノハ、經濟的ニ無價値ナ鐵道デアリマス、之ヲ能ク露西亞ニ呑込マセル必要ガアル、滿洲國デ今建設中デアリマスル所ノ諸鐵道ガ完成致シマスカラ、今數年經テバ、露西亞ノ持ツテ居ル北滿鐵道ト云フモノハ、乗手モナケレバ貨物モナクナル鐵道デアリマス、サウスレバ經濟的價值ガナクナルノデアルカラ、滿洲國側トシテハ貰ツテモ困ル鐵道デアアル、之ヲ能ク「ソ」ゾイエト「首腦部」ニ呑込マセル必要ガアル、併シサウ言ヘバ鐵道ハ只ト云フコトニナリマスカラ、又幾ラカ値打ノアル見方モアル、ソレハ何デアアルカト言ヘバ、此北滿鐵道ト云フモノハ「ロマノフ」王朝時代カラ今日ニ至ルマデ、露西亞ノ極東政策ノ中樞神經ヲ成シテ居ルノデアアル、此鐵道ガアルカラ極東問題モ起レバ、露西亞ガ一口割込ンデ來テ、文句ヲ言フテ居ル、サウ云フ事情デアリマスカラ、露西亞ノ極東政策ヲ、此際安ク買フト云フヤウナ意味ニ於テナラ、此鐵

道ハ幾ラカ値打ガアル、ソレデアアルカラ滿洲ニ買ハセルト云フ方針ヲ、日本政府モ採ツタラウト思フノデアアルガ、然ラバサウ云フ根本認識ニ先ヅ踏込ンデ、本當ノ交渉ヲ率直、大膽ニヤラナケレバナラヌト思ヒマス、之ニ對スル政府ノ方針如何ヲ御聽キシタイノデアリマス

更ニ漁業及ビ石油ノ企業ヲナス權利デアリマス、是ハ「ポーツマス」條約、及ビ「ソ」國トノ基本條約ニ依ツテ「ソ」國領域内ニ於テ漁業及ビ石油ノ企業ヲナス事ヲ承認セラレテ居リマスガ、「ソ」國側ハ此條約ヲ無視シテ、有ユル機會ニ於テ我國ニ妨害ヲシテ居リマス、此儘放任ヲシテ置キマスルナラバ、是ハ由々シイ問題ガ起ル、企業保護ノ爲ニ政府ハ適當ノ處置ヲ講ゼラル、御所存アリヤ否ヤト云フ點デアリマス

ソレカラ更ニ御尋スルノハ森林問題デアリマス、此露領内ニ於ケル森林伐採權ト云フモノハ、「ソ」基本條約第六條ニ依リマシテ「ソ」聯邦政府ハ天然資源ニ關スル日本國ノ需要ヲ考慮シテ「ソ」領内ニ於ケル鑛山、森林、其他ノ天然資源開發ニ關スル權利ヲ、日本國民或ハ會社、組合ニ許容スルノ意向アルコトヲ明ニシテ居ル、斯ウ云フコトガ明ニナツテ居ルノデアリマスカラ、政府ハ之ニ對シテ適當ナル保護ヲ加ヘタルヤ否ヤ、之ヲ御伺シタイ、本員ノ研究スル所ニ依レバ甚ダ怠慢デアアル

其次ハ對露債權ノ問題デアリマス、「ロマノフ」王朝時代ヨリ我國ハ現金ニシテモ約三億圓ノ貸ガアリマス、此貸ニ對スル債權執行ノ權利ハ我國ニアル、最近米露交渉ニ依リマシテ、舊債權問題ガ解決ニ向ツテ一歩ヲ進メラレテ居ルヤウナ報道ガアリマス

ケレドモ、我國ト致シマシテモ無論此權利ヲ放棄スル譯ニハ行カナイ、免ニ角借リタモノヲ濟サヌト云フヤウナ亂暴ナ宣言ヲ、革命政府ハヤツテ居ルノデアリマスカラシテ、詰リ此革命政府ガ、最近ハ幾ラカ外交ノ常道ニ還リツ、アル時デアリマスカラシテ、嚴重ニ此點ハヤル必要ガアル、殊ニ此問題ハ今後ドウ云フ問題ニ打突カリマシテモ、相當ノ是ハ切札ニナル、免ニ角利息ヲ入レ、バ大變ナモノデアリマス、此點尊重セシムルノ方法ヲ採ル意思ナキヤ否ヤ、之ヲ政府ニ御尋シタイト思ヒマス

其次ハ赤化宣傳ノ問題デアリマス、是ハ、「ソ」國ハ第三「インターナショナル」ノ勢力ヲ利用致シマシテ、日本、支那、滿洲ニ向ツテ赤化宣傳ヲ盛ニヤツテ居リマス、就中支那ニ對シテハ、外蒙カラ新疆ニ掛ケマシテハ、殆ド赤露ノ勢力下ニ置カレテ居リマス、此事態ヲ放任シテ置クト云フト、結局外蒙ハ赤露ノモノニナル、新疆モ亦赤露ノモノニナル、即チ「ソ」聯邦ト支那トノ間ニ、支那領土ノ分割問題ガ起リハシナイカト思フ、ソレハ我國及ビ滿洲國ニ影響スル所ハ非常ナモノガアリマス、之ニ對シテ政府ハ如何ナル方策ヲ以ツテ臨ムカ、此點ヲ御聽キシタイノデアリマス

其次ニ日露兩國ノ貿易關係デアリマス、是ハ露西亞ノ國內ガ非常ニ經濟的ニ疲弊ヲシテ居リマスカラシテ、露西亞ト日本トノ兩國間デ貿易ノ割當主義デ以テ進んで行クタナラバ、私ハ對露貿易ト云フモノハ有望ナリト思フノデアリマス、現ニ最近英國ト露西亞トガ倫敦ニ於テ協調致シマシタ所ノ、貿易ノ割當協商ガ調印サレタヤウデアリマスカラ、是ハ日本トシテハ露西亞ヘ

トノト商人ノ視察團ヲ作シテ視察ニ送リマシテ、サウシテ此疲弊セル露西亞ノ農民ニ物ヲ賣ル、其代リ向フカラ必要ナル石油ヤ其他ヲ買フト云フ割當主義ヲ進シダナラバ、私ハ日露貿易ハ將來有望デアルト思フノデアリマスルガ、政府ノ御所見ハドウデアルカ

又松方露油デアリマスガ、松方露油ハ今ノ所原則トシテ精製油ヲ持ッテ來テ居ル、ケレドモ將來ハ原油ヲ持ッテ來ルト云フコトト並行サセナケレバナラスト思ヒマス、之ニ對スル政府ノ考ハドウカ

最後ニ漁區問題デアリマス、此間外務大臣ガ此處ヲ答辯セラレマシテカラ、其後ノ經過ハドウデアルカ、即チ再入札問題デアルガ、向フハ之ヲ主張シ、此方ハ留換算率ニ於テ、獨自ノ見解ヲ持ッテ對立シテ居ル、其後ノ經過ハドウウナッテ居ルカ、是非常ナル大問題デアル、此留換算率ノ問題ト云フモノハ、今後露西亞ト日本ト金ノ取遣リヲスル有ユル場合ニ當ッテ適用サレル問題デアルカラ、非常ニ大切ナ問題デアル、留換算率ト云フモノヲ上ゲルヤウナコトニナレバ、露領ニ於ケル日本ノ權益ト云フモノハ零ニナッテシマウ、漁區デモ何デモ零ニナッテシマウ、留換算率ガ日本ノ主張通りデアリマスナラバ、算盤ハ探レマスガ、之ヲ上ゲラレマスナラバ、日本ノ權益ハ自然ニ價值ニ於テ消滅シテシマウ、是非非常ニ重大ナ事デアリマスカラ、政府ハ其後如何ナル對策ヲ進メテ居リマスカ、之ヲ御聽キ致シマシテ、私ノ質問ヲ終リト致シマス(拍手)

〔政府委員瀧正雄君登壇〕
○政府委員(瀧正雄君) 畑君ノ御質問ニ御答申シマス、過日黒龍江ト松花江トノ合流地點ノ同江ト云フ所ガアリマスガ、其近邊ヲ飛行シテ居ル飛行機ニ對シテ「ソ」聯邦ノ方面ヨリ射撃ヲシタト云フ事件ガ起リマシタガ、是ハ固ヨリ國境内ノ飛行中ノ飛行機ニ對スル事デアリマシタカラ、只今抗議ヲ申込シテ居リマス、其他ニ尙ホ朝鮮ノ國境近邊「ソ」聯邦ノ方ノ飛行機ガ飛行ヲシタト云フ情報ニ接シマシタノデ、其有無ヲ問合セ、尙ホ抗議ヲ申込シテ居ルノデアリマス

官報號外 昭和九年三月七日 衆議院議事速記第十九號 航空ニ關スル質問

次ニ懸案問題ニ付テ色々解決ニ關スル御話ガアリマシタガ、御存ジノ通りニ北滿鐵道ノ交渉ニ付キマシテハ、再開セラルベキ時機ニ於テハ、熱心ニ斡旋ヲスル積リテ居リマスカラ、御安心ヲ下サルヤウニ御願シタイト思ヒマス

又企業ノ問題ニ付テ、北洋漁業デアルトカ、或ハ森林ノ問題デアルトカ、其他御話ガアリマシタガ、色々是正スベキ點ニ付テハ、十分是正セシムル考デアリマス、森林ノ如キ、實ハ會社側ガ採算ガ取レナイト云フノ閉鎖ヲ致シマシタノハ、洵ニ遺憾デアリマスガ、將來當業者ガ或ル問題ヲ具體化スル場合ニ於テハ、十分援助シタイト考ヘテ居リマス、其他ノ天然資源ニ付テモ同様デアリマス、對露債權ニ付テハ、第三國トノ關係ヲ能ク考慮シマシテ、適當ノ機會ニ勿論請求シヨウト考ヘテ居リマス

赤化ノ問題ニ付テモ御話ガアツキヤウデアリマスガ、斯ウ云フ點ハ細心ノ注意ヲ拂ヒマシテ、萬違算ナキヲ期シタイト考ヘテ居リマス、其他開漏ラシタ點ガアルカ知レマセヌガ、大體之ヲ以テ御答ト致シマス(拍手)

〔政府委員瀧正雄君登壇〕
○議長(秋田清君) 宜シウゴザイマス
○畑桃作君 先程一ツ忘レタノデアリマスガ、國境紛争處理ノ爲ニ、日滿「ソ」三國共同委員會設置ノ意思ガ政府ニアルカ、又アリトスルナラバ、其後ドウ云フ經過ヲ執ラレトデアリマスカ

〔政府委員瀧正雄君登壇〕
○政府委員(瀧正雄君) 國境ノ問題ニ付キマシテハ、共同委員會ノ設置ニ付テ、雙方共ニ主義上同意ノ意ヲ表シテ居リマスカラ、早晚其運ビニ至リタイト考ヘテ居リマス(拍手)

○議長(秋田清君) 質問第四、航空ニ關スル質問——提出者永田良吉君
四 航空ニ關スル質問(永田良吉君提出)
航空ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和九年二月十五日
提出者 永田 良吉

航空ニ關スル質問主意書
一 日支定期航空開始ニ關スル政府ノ對策如何
二 內臺間定期航空開始ニ關スル政府ノ對策如何
三 北日本航空輸送開始ニ關スル政府ノ對策如何
四 夜間飛行實施ニ關スル政府ノ對策如何

何
五 民間飛行場、國產飛行機ニ對スル補助及民間飛行士養成優遇ニ關スル政府ノ意見如何
六 航空省設置ニ關スル政府ノ意見如何
七 民間航空ト國防トノ關係ニ付陸海當局ノ意見如何
八 航空法改正及航空旅客運賃割引方ニ關スル政府ノ意見如何
右及質問候也
(永田良吉君登壇)

○永田良吉君 航空ニ關スル問題ニ付キマシテハ、度々本議場デ政府當局ニ質問ヲ致シタ譯デアリマスルガ、多年ノ熱望ガ報ヒラレマシテ、本年ハ先ヅ陸海軍ノ方面ハ、特ニ此航空機ニ關スル方面ニハ、隨分ノ豫算モ提案サレマシタノデ、御五ハ我が國力ノ進展ノ爲ニ洵ニ慶賀ニ堪ヘヌ次第デアリマス、政府當局ノ勞ニ對シマシテ感謝ノ意ヲ表シマス、陸海ノ空軍ノ方ニ付キマシテハ、以上ノ如ク先ヅ平生ノ希望ハ達セラレマシタガ、唯此際私一ツ遺憾ニ堪ヘナイノハ、民間航空ノ方面デアリマス、御承知ノ通り民間航空ハ國防ノ上カラ見マシテモ、國防ノ豫備軍トシテ重要ナル使命ヲ有ッテ居ルノデアリマス、此我國ノ民間ノ航空ガ、未ダ他ノ方面ニ較ベマシテ、非常ニ貧弱ナ状態ニ在ルノデアリマス、私ハ此點ニ付キマシテ、甚ダ嫌ラヌ點ガアリマスノデ、本年モ改メテ此點ニ付テ數項ノ質問ヲ致シタ譯デアリマス、是カラ至極簡單ニ質問ノ趣旨ヲ説明シタイト思フノデアリマス

第一ニ日本ト中華民國間ノ飛行デアリマスルガ、私ハ此問題ニ付キマシテハ、政府當局モ從來福岡ト上海ノ間ニ計畫ヲ爲サレ

四三五

マシタケレドモ、是ガマダ不幸ニシテ實現ヲ見ナイ、日本ト中華民國トハ、全ク是ハ一衣帶水ノ間デアリマス、之ニ定時航空ヲ開キマシタナラバ、只今長崎上海間ガ十八時間、門司カラ行ッテモ一晝夜ヲ費スノデアリマスガ、此定時航空ヲ開カレタ際ニハ、僅カ四時間乃至五時間デアリマス、考ヘテモ、或ハ經濟其他ノ關係カラ最モ是ハ必要ナコト、思フノデアリマス、英吉利ガ歐洲ノ大陸ノ諸國ト定期飛行ヲ盛ニヤツテ居ルノデアリマスガ、我國ハ支那ト定期航空ヲ開クコトハ、何デモナイコト、思フノデアリマス、其簡單ナコトガ解決ガ付カナイ、是ハ從來ノ如ク我國ノ外交ガ腰抜ケ時代ニハ仕方ガナイケレドモ、近頃ハ隨分腰ガ強クナラレタノデアアル、尙又陸海軍ノ方モ斯ウ云フ方面ニハ、隨分民間航空ニ御助力ガアツテ然ルベキモノダト思フノデアリマス、當然過ギル當然ノコトヲヤラヌ、若シ向フノ中華民國ガ承知シナイナラバ、飛行機ヲ千臺デモ万臺デモ飛バシテ行ッテ、城下ノ誓ヲヤツテ付ケテシマヘバ宜イ、サウ云フ意氣ガチヨットモナイト云フコトヲ、私ハ悲ム一人デアリマス

次ニ日本ノ中デモ内地臺灣間ノ定期航空デアリマス、日本内地ト臺灣ノ間ニ定期航空ヲ開ク必要ガアルト云フコトハ、勿論ノコトデアリマス、是ガ而モ未ダニ實現ヲセラレテナイ、先頃新聞紙上デ承リマス、南洋群島問題トカ云フコトガ起リ、非常ニ暫ク世間ノ注目ニ値シタノデアリマスケレドモ、アレ等ニシテモ、又近クハ廈門デアルトカ、或ハ福州、支那ノ杭州ニハ、隨分

其國ノ手ガ延ビテ居ルヤウデアリマス、斯ウ云フ點カラ考ヘテモ、向フノ方ガ手ヲ延セバ、我國トシテモ國防ノ見地カラモ、亦航空上ノ見地カラモ、内地臺灣間ノ定期航空路ヲ開クコトハ、急務中ノ急務デアアルノデアリマス、是等ガ一向ニ實現ヲ見ナイコトハ、洵ニ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、之ニ對シテ私ハ毎年質問ヲスルケレドモ、一向當局ノハツキリシタ態度ヲ見ナイ、尙ホ是ガ豫算ノ上ニ現ハレテ來ヌノモ、頗ル私ハ遺憾ニ思フ一人デアリマス、其意味カラ質問シタ譯デアリマス

次ニハ北日本ノ航空ノ問題デアリマス、是ハ昨年時局ニ救費デ、仙臺ト青森 札幌ニ飛行場ガ三ツ出來マシタ、先ヅ喜バシイコト、思ウテ居タノデアリマス、所ガ吾吾百姓ガ既ヲ拵ヘタガ馬ガナイト同ジク、家ハ借リタガ嬢ガ來ナイト云フ状態ナンデアアル(拍手)即チ今年ノ豫算デ、最早東京カラ札幌迄ノ定期飛行ガ行ヘルモノト思ッタガ、田ヲ潰シ、畑ヲ潰シ、飛行場ヲ作ッタケレドモ、今年モ定期飛行ノ實施ヲ見ナイ、何ト意氣地ノナイ日本ノ民間飛行デハナイカ、ソナニ必要ガナイモノナラバ、昨年時局ニ救費デ造ル必要ハナカッタ、飛行場ハ造ッテモ遊バシテ居ル、何ト之ヲ當局ハ見ルノデアリマス、而モ一番大事ナ大阪ノ飛行場トカ、福岡ニモ、一向飛行場ニ修繕ノ工場ガ出來ナイ、民間飛行場ヲ打壞シテ居ル、斯ナ目ノ見エナイ無定見ノ遞信當局ハアッタモノデハナイ、先程ノ畑君ノ御演說ニモアッタ通り、何處カ朝鮮ノ方面ニモ「ソヴィエト」ノ飛行機ガ來ルノデアリマス、日本ノ北洋ニ定期航空ヲ開クト云フノハ、國防上ノ見地ニ於テモ、是ハ最モ急務中ノ

急務デアルト思フノデアリマス 第四ニハ夜間飛行ノ問題デアリマスガ、是ハ度々新聞紙上デハ喧マシク唱ヘラレテ居ッタシ、今朝ノ新聞ヲ見テモ、日本ノ田中何トカ云フ博士ガ行ッテ霧ヲ計ッテ居ル、此位滑稽ナコトハアリマセヌ、遞信當局ハ夜間飛行ハチヤント決心ヲシテ早クカラヤツテ居ル、近頃一人怪我ヲシタ——其前ニ故障モアリマシタガ、故障アリマシタラ尻餅ヲ搗イテシマフ、何ト是ハ意氣地ナイコトデアリマス、其夜間飛行ト云フノハ、今大事ナ滿洲國ト日本トノ間ニ於テ、必要ナル通信機關デアアルノデアリマス、是ガ故障ヲ起シタト云フコトハ、日本ノ國ニ取リマシテモ、日本ト滿洲國トノ間ニ於キマシテモ、非常ナル是ハ重大事デアアル、ソレヲ政府ガ一旦決心ヲシテヤツテ居ルナガラ、タツタ一人ノ民間飛行家ガ死ンダ、民間飛行家ニ對スル政府ノ待遇モ悪イコトト思フガ、併シ一旦決行シタコトヲ反古ニシテ止メテシマフ、私ハ斯ウ云フ意氣地ノナイコトハナイト思フ、戰爭ヲスル場合ニ、先ヅ戰地ニ行カズシテ、自分ノ玄關口デ怪我ヲシタヤウナモノデアアル、如何ニ當局ガ不明デアリ、不用意デアッタカ、是デ暴露サレタ譯デアリマス、斯ウ云フコトハ、私ハ嘸才隣リノ中華民國ノ連中ナドハ、日本ノ民間飛行ノ不甲斐ナイコトヲ笑ッテ居ルコトデアラウト思フノデアリマス(拍手)是ハ列國ノ物笑ヒデアアル、之ニ對シテ而モ大阪デハ飛行場ノ問題ガ喧シク言ハレテ居ル、アンナ可笑シナ飛行場ハナイ、民間飛行場トシテ世界ニ例ノナイ不便ナモノデアアル、ソレヲ今更氣流ヲ調ベテ居ル、是ハ三十年前ニ測ッテ居レバ宜イ、サウ云フ意

慢ナ、熱ノナイ政府ノ對策ニ向ッテ、洵ニ國家ノ爲ニ憤慨スル一人デアリマス(拍手)是等ニ對シテ政府當局ノヤリ口ガ甚ダ生温イノデアリマス、使ハ又飛行場ガアレバ、ソレヲ其方ニ使ヘバ宜イ、而モ大阪ヤ神戸ニハ日本ノ有力ナル實業家モ澤山居ラシヤル、又日本ノ大シタ資本ノ集中ヲヤツテ、大キナ工業モ其處ニ發達シテ居ル、日本ノ心臓デアアル、國防上ノ見地カラ見テモ、彼處ニハ飛行場ノ一ツヤニツ造ッテモ差支ナイ、金持モ澤山居ルカラ、五十万ヤ百万投出シテ造ッテモ宜イノニ、大阪神戸ニ飛行場ガ出來ナイト云フノハ、是ハ世界ノ物笑ヒデアアルト思フ、之ニ向ッテ今頃遞信當局ハ、大阪ノ市長ヲ喚出シテ、飛行場ガドウデアルトカ斯ウデアルトカ言ウテ居ル、ソナコトヲ言フ必要ハナイ、斷々乎トシテヤツテシマヘバ宜イ、其元氣ヲ私ハ政府當局ニ向ッテ要望スル譯デアリマス、之ニ對スル對策ヲ御尋シテ置キマス

次ニ私ハ民間飛行機ノ製作ノ問題デアルトカ、飛行機ノ問題、ソレカラ民間飛行士ノ養成ト優遇ニ付テ御尋シタイノデアリマス、是ハ毎年申上ケルコトデアリマス、今年ハ簡單ニ申上ゲテ置キマスガ、飛行機ノ補助位ハ當然ヤツテ然ルベキモノデアアル、又日本ノ國ニハ隨分近頃良イ飛行機ガ出來テ來マシタガ、輕飛行機モ實ハ國防上ノ見地カラ必要ナモノデアリマス、其方ノ賣行ハ惡ルイケレドモ、斯ウ云フモノニ向ッテハ政府ガ補助ヲシテ、輕飛行機ヲ獎勵スルコトガ必要デアルト思フノデアリマス、最後ニ一番大事ナコトハ、民間飛行士ノ養成デアリマス、是ハ卒ザト云フ場合ニ、ドウシテモ民間飛行士ヲ澤山作ッテ置

慢ナ、熱ノナイ政府ノ對策ニ向ッテ、洵ニ國家ノ爲ニ憤慨スル一人デアリマス(拍手)是等ニ對シテ政府當局ノヤリ口ガ甚ダ生温イノデアリマス、使ハ又飛行場ガアレバ、ソレヲ其方ニ使ヘバ宜イ、而モ大阪ヤ神戸ニハ日本ノ有力ナル實業家モ澤山居ラシヤル、又日本ノ大シタ資本ノ集中ヲヤツテ、大キナ工業モ其處ニ發達シテ居ル、日本ノ心臓デアアル、國防上ノ見地カラ見テモ、彼處ニハ飛行場ノ一ツヤニツ造ッテモ差支ナイ、金持モ澤山居ルカラ、五十万ヤ百万投出シテ造ッテモ宜イノニ、大阪神戸ニ飛行場ガ出來ナイト云フノハ、是ハ世界ノ物笑ヒデアアルト思フ、之ニ向ッテ今頃遞信當局ハ、大阪ノ市長ヲ喚出シテ、飛行場ガドウデアルトカ斯ウデアルトカ言ウテ居ル、ソナコトヲ言フ必要ハナイ、斷々乎トシテヤツテシマヘバ宜イ、其元氣ヲ私ハ政府當局ニ向ッテ要望スル譯デアリマス、之ニ對スル對策ヲ御尋シテ置キマス

慢ナ、熱ノナイ政府ノ對策ニ向ッテ、洵ニ國家ノ爲ニ憤慨スル一人デアリマス(拍手)是等ニ對シテ政府當局ノヤリ口ガ甚ダ生温イノデアリマス、使ハ又飛行場ガアレバ、ソレヲ其方ニ使ヘバ宜イ、而モ大阪ヤ神戸ニハ日本ノ有力ナル實業家モ澤山居ラシヤル、又日本ノ大シタ資本ノ集中ヲヤツテ、大キナ工業モ其處ニ發達シテ居ル、日本ノ心臓デアアル、國防上ノ見地カラ見テモ、彼處ニハ飛行場ノ一ツヤニツ造ッテモ差支ナイ、金持モ澤山居ルカラ、五十万ヤ百万投出シテ造ッテモ宜イノニ、大阪神戸ニ飛行場ガ出來ナイト云フノハ、是ハ世界ノ物笑ヒデアアルト思フ、之ニ向ッテ今頃遞信當局ハ、大阪ノ市長ヲ喚出シテ、飛行場ガドウデアルトカ斯ウデアルトカ言ウテ居ル、ソナコトヲ言フ必要ハナイ、斷々乎トシテヤツテシマヘバ宜イ、其元氣ヲ私ハ政府當局ニ向ッテ要望スル譯デアリマス、之ニ對スル對策ヲ御尋シテ置キマス

カナイト、私ハ陸海軍ノ飛行士バカリデハ
間ニ合ハナイト思フノデアリマス、之ニ向ッ
テ通信當局、文部省ナドノ、所謂民間飛行
關係ノ方ガ甚ダ熱ガナイ、一年ニ八人カ六
人位日本全國カラ集メテ、ソレヲ陸海軍ニ
頼ンデ養成シテ居ル、何トマア間ノ抜ケタ
ヤウナ仕事カト思フ、折角今年ハ陸海軍ガ
何億圓ノ豫算ヲ取ツテ、軍備ガ充實スルノデ
アリマスカラ、民間飛行機ハ國防ノ豫備ト
シテ、之ニ並行シテ進マナケレバナラヌト
思フノデアリマス（拍手）之ニ並行スルノ處
置ヲ誤ラタト云フノハ、洵ニ私ハ通信當局ノ
不明デアルト思フノデアリマス、近頃政府
當局ノ腰拔ケヲ彼レ言フ人モ澤山アリマ
ス、私ハ民間方面ニ向ッテ政府ガ怠ラシ
ハ、必ズ他日大キナ恐ロシイ結果トナッテ
現レハセヌカト云フコトヲ虞レルノデアリ
マス、此點ニ對スル當局ノ意見ヲ御伺シテ
置キマス

ソレカラ航空省或ハ航空院ノ設置デアリ
マス、是ハ現在通信省ノ航空局ト云フモノ
ハ洵ニ小サイモノデ、勢力ノナイモノデア
ル、アンナ勢力ノナイモノデアアルカラ、一
向大藏大臣デアルトカ、總理大臣ヲ動かシ
得ナイ、是ニハドウシテモ大臣級ノ者ヲ持ッ
テ來ナケレバナラヌ、其意味カラ、航空省
ノ獨立ガ出來ナケレバ、セメテ之ヲ次官
級ニスルトカ、若クハ航空院トシテ、民間
航空ノ發展ヲ圖リタイト思フ、之ニ對スル
政府ノ意見ヲ御聽キシタイノデアリマス

次ニ民間航空ト國防トノ關係ニ付キマシ
テ、是ハ陸海軍當局ノ方ニモ意見ヲ御聽キ
シタイノデアリマスガ、無論陸海軍當局ニ向ッ
テ私ハ何等ノ不平ハアリマセヌ、陸海軍當
局ノ腕ノ益、牙ヘマシタコトハ、洵ニ國民

トシテ意ヲ強ウスル次第アリマシテ、平
生陸海軍ノ方ガ、如何ニ國防上ニ於キマシ
テ、航空ノ方面ニ猛訓練ヲ致シテ居ラレル
カハ、永田ハ始終目撃致シテ、洵ニ涙ヲ以テ
感謝スル次第デアリマス、唯陸海軍ト致シ
マシテモ、豫備兵ヲ持タズシテ戰爭シテハ
不安デアリマスカラ、我ガ陸海軍ノ豫備兵
タル民間航空ノ達成ニ向ッテハ、モット
親切ニ御助力仰ギタイト云フ意味カラ、當
局ノ意見ヲ聽イタ譯デアリマス

次ニ私ハ極ク簡單ナ問題デアリマスガ、
現在行ハレテ居リマス航空法デアリマス、
航空法ノ改正ニ向ッテハ、度々提出シタノデ
アリマスケレドモ、何故カ通信當局ハ此改
正ヲ實施サレナイ、航空機ノ如キハ、洵ニ
一日々々進歩スルノデアリマスカラ、是等
ニ向ッテ十年前ヤ、昔ノ法令デハ迎モ
不便ノ點ガ多イ、是等ヲ改正スル意思ハナイ
カドウカ、又是ハ極ク尾籠ナコトヲ申シマ
スケレドモ、日本航空輸送會社ガ、吾々衆
議院議員ヤ貴族院議員、若クハ「パス」ヲ持ッ
テ居ル者ニハ、賃銀ノ割引ヲシナイ、是ハ
決シテ吾々根性カラ言フノデアリマセ
ヌ、航空宣傳ヲスルト云フ點カラ、理解ス
ルト云フ點カラモ必要デアルト思フ、何故
ナレバ、吾々ハ九州カラ東京ヘ來ルノデア
リマスガ、殆ド三十四時間モ掛ル、汽車ガ
安イカラ、貧乏代議士ハ仕方ナク汽車ニ乗ッ
テ來ル、若シ飛行機ノ「パス」ガアレバ、私
共ハ喜ンデ鹿児島カラ飛ンデ來ル、僅ニ六
時間ノ内ニ東京ニ來ラレル、ソレヲ日本航
空輸送會社ガ運賃ノ割引ヲシナイ、私ハ「パ
ス」トハ言ヒマセヌ、セメテ半額——即チ一
等ノ汽車賃ト同ジ位ニハ割引シテ然ルベキ
モノト思フ、是等ニ向ッテモ政府ハ、日本航

空輸送會社ハ補助デアアルカラト云フ意味
デ、始終逃ゲテ居ラシヤル、是等ハ航空宣
傳ノ上カラモ、航空ヲ理解セシムル意味カ
ラモ、非常ニ誤ラタル考デアルト思フ

官報號外 昭和九年三月七日 衆議院議事速記第十九號 航空ニ關スル質問

最後ニ申シマスガ、一體日本ノ政府當局
ノ中デ、上ニ居ラレル人ガ、航空ニ理解ガ
ナイ、即チ總理大臣モ、大藏大臣モ、皆オ
爺サンデアアル、飛行機ニ乗ルコトヲ怖ガル、
虎ヨリ怖ガシテ居ル、飛行機ニ乗ッテ見ナイ
カラ之ニ對スル熱ガナイ、同情ガナイ、隨
テ如何ニ通信當局ガ要求シテモ、大藏省ノ
方ハ目ヲ瞑ッテ考ヘナイ、斯ウ云フコトガア
ルカラ、將來日本ノ大臣ニハ若イ人ガナッ
テ、世界ヲ一廻リスルヤウナ元氣ガ必要ト
思ヒマス（拍手）此意味カラ簡單ニ質問シタ
譯デアリマスノデ、何卒政府當局ノ明答ヲ
要求スル次第デアリマス（拍手）

（政府委員牧野良三君登壇）
○政府委員（牧野良三君） 私ヨリ答辯致シ
マス、只今我國ノ航空ニ關シ、各種當面ノ
問題ニ付キマシテ、極メテ重要適切ナル御
質問ヲ受ケマシタ、永田君御指摘ノ點ハ、
我國ノ航空界ニ取リマシテ、總テ皆重大ナ
モノ、ミデアリマス、私ハ以下第一點ヨリ
第八點ニ至ル御質問ニ對シマシテ、逐次御
答致シタイト存ジマス

第一點ハ日本ト中華民國トノ間ニ定期航
空ヲ開始スルコト、之ヲ促進スルノ意思ハ
ナイカト云フ御質問デアリマシタ、御承知
ノ如ク我國ト中華民國トノ間ニ於ケル定期
航空ノ開設ニ付キマシテハ、議院ニ於テ長ク其
議ガ唱ヘラレマシタ結果トシテ、去ル昭和二年
ノ第五十五議會ニ於テ、昭和三年ヨリ昭和
十三年ニ至ル十一年ノ繼續ト致シマシテ、
總額千九百九十七萬圓、即チ約二千萬圓ニ

近キ豫算ガ議決セラレマシタ、然ルニ是ガ
實施ノ場合ニ至リマシテ、御承知ノ如ク遺憾
ナガラ日支兩國ノ關係ハ、是ガ豫算ノ實行
ヲ不能ナラシムルノ實狀ニ遭遇致シマシタ、
隨テ本件ハ一日支間親善回復ノ途ヲ促進
スルニアリマスノデ、此點ニ於キマシテハ、
最近朝野齊シク此點ニ思フ致シマシテ、協
力シテ理解ヲ進メテ居リマスカラ、熱心ナ
ル永田氏ノ御意見ヲ實現スル機會モ、サウ
遠クハナイコト、確信致シテ居リマス（拍
手）

第二點ハ内地臺灣間ニ、同ジク定期航空
路ヲ開設スルノ意思ナキヤトノ御質問デア
リマシタ、此點モ長ク議院ニ於テ主張セラ
レテ參ツ點デアリマスルガ、此必要ヲ認め
ルコトハ何人モ異論ハアリマセヌ、今議會
ニ於テ當局トシテハ具體案ヲ提示致シマシ
テ、協贊ヲ得タキ希望ヲ持ッテ居リマシタ
ガ、御承知ノ如キ財政上ノ關係ヨリ、其
希望ヲ茲ニ具體的ニスルコトノ機會ヲ得ル
コトガ出來マセヌデシタケレドモ、取敢ヘ
ズ是ガ基礎的工作ト致シマシテ、臺灣ニ於
テ約十八萬餘圓ノ豫算ヲ計上シ、内十二萬
圓ハ先ヅ臺灣ニ於キマスル所ノ飛行場ノ整
備ニ充テ、二萬圓ハ沿道ノ標識施設ヲ完備
スルノ費ニ充テ、残り五萬圓ヲ以テマシテ、
四月以降準備飛行ヲ決行スルノ費用ニ充テ
タイ、斯ノ如ク致シマシテ、徐々トシテ此
臺灣内地間ノ定期航空輸送事業ノ具體化シ
ツ、アルコトヲ喜ンデ戴キタイト存ジマス

第三ハ東京札幌間、即チ北日本航空輸送
開始ニ關スル政府ノ對策如何ト云フ御質問
デゴザイマシタ、本件開始ノ必要アルコト
モ、永田氏御所論ノ通り、併ナガラ此點ニ
付テ御諒解ヲ得タイコトハ、既ニ昨年仙臺

四三七

青森並ニ札幌ニ飛行場ヲ新設致シテ置キナガラ、何故今期議會ニ是方航空路開設ノ豫算ヲ提出シナイカト云フ御質問デアリマスガ、此三箇所ニ飛行場ヲ設置致シマシタノハ、航空路開設ノ爲メ飛行場ヲ設置シタルニ非ズシテ、時局匡救ノ爲メ致シタノデアリマス、而シテ幸ニモ此機會ニ於キマシテ、此處ニ定期航空路ヲ開キタイ希望ヲ實現セント致シテ、私ハ昨年ノ夏札幌飛行場竣工式ニ臨ミマシタル機會ニ於キマシテ、具サニ此航空路開設ニ關スル視察調査ヲ遂ゲマシタ、先ツ御參考ニ申シマスレバ、東京仙臺間ガ三百三十軒、仙臺青森間ガ同ジク三百三十軒、青森札幌間ガ二百八十五軒、之ヲ飛行シマスル所要時間ハ約六時間弱デアリマスガ、十二年間ノ繼續ト致シマシテ計畫致シマス、之ヲ實施スルニ約五百萬圓餘ヲ要シマス、ソレデ本年ハ財政上實施スルニ至リマセヌデシタケレドモ、熱心ナル議會ノ意思ハ遠カラズ之ヲ實現スルニ努メタイト存ジマス

第四ハ夜間飛行ニ關スル點デアリマシテ、御承知ノ如ク最近東京岡山間ニ夜間飛行ニ必要ナル照明ノ設備ガ整ヒマシタノデ、昨年十一月一日ヨリ取敢ヘズ東京大阪間ノ夜間飛行ヲ開始致シマシタ、然ルニ大阪ノ飛行場ニ、冬季殊ニ煙霧ガ發生致シマシテ不幸ナル事故ヲ起シマシタ、是ハ過去ニ於ケル調査ノ十分デナイト云フ責モアツクコトハ之ヲ認メマスケレドモ、近來大阪ノ都市ノ發達ガ急激ニ重大ナルモノヲ示シマシタ、其結果飛行場ノ近傍ニ煙突ガ増加致シマシタノト、煙霧ノ發生ガ特ニ此地方ニ著シクナツトデアリマシテ、最近遞信省ガ斯界ヲ權威ニ御依頼ヲ致シテ調査ヲ致シタノ

ハ、氣流其他——今更斯様ナ方面ノ調査ヲ新ニスルト云フ次第デハナク、飛行場ヲ適當ナル地ニ移轉致シマスルニ付テ、萬違算ナキヲ期スル爲ノ調査ニ外ナリマセヌ、ノミナラズ斯ル事故アリシコトニ依ッテ、夜間飛行ハ決シテ中止ハ致シマセヌ、皆様ノ御援助ニ依ッテ、益、其效果ヲ擧ゲルコトニ努メテ居リマス、此點モ御安心ヲ願ヒマス

第五ハ民間飛行場ニ關スル事項デアリマスルガ、是モ御希望ニ副フヤウニ當局トシテハ努力ヲ重ネマスル（「簡單ニヤレ」ト呼フ者アリ）暫ク御聽キテ願ヒマス、國產飛行機ニ關スル事項、飛行士養成ニ關スル事項、是等モ亦永田氏御所論ニ對シテ全然贊成デアリマシテ、御希望ニ副フヤウニ努メマス

次ハ航空省設置ニ關スル政府ノ所見デアリマスガ、此點ニ關シマシテ、航空行政機關ヲ統一致シマスルコトハ、行政機構全體ノコトヲ議シマスル際ニ、十分考究致シ機會ヲ得タイト存ジマス、第七點ハ軍部當局ニ對スル質問デアリマスノデ第八點ニ移リマス

第八點ハ航空法改正並ニ航空旅客運賃割引方ニ對スル政府ノ所見如何ト云フコトデアリマスガ、航空法ハ御承知ノ如ク去ル昭和二年六月ニ制定發布致シマシタルモノデ、是ガ實施ニ於ケル效果ニ對シテ、改正スベキモノニ對シテハ、只今種々調査中デアリマスル、改正スベキ點、加フベキ點ニ付キマシテハ、御熱心ナル永田氏ノ御説ヲモ參酌致シマシテ、御希望ニ副フコトニ努メマス、尙ホ議員ニ對シ航空輸送會社ガ割引券ヲ出シマスル點ニ付テ、是ハ航空思想普及ノ上

ニ於キマシテモ、頗ル有益ナルコトデアルト思ヒマスル、曩ニ既ニ議員數名ヨリモ此點ニ關スル注意ヲ喚起セラレマシタノデ、私自ラガ航空會社ニ申出デマシテ、適當ナ方法ヲ講セント致シテ居リマス、以上簡單ナガラ答辯ト致シマス（拍手）

〔政府委員石井三郎君登壇〕

○政府委員（石井三郎君） 民間航空ト國防トノ關係ニ付テ、陸海軍當局ノ意見ハドウデアアルカト云フ御質問デアリマス、陸軍ト致シマシテハ、民間航空事業ハ國防上極メテ重大ナル使命ヲ有シテ居ルノデアリマシテ、之ニ付キマシテハ保護助長ノ要緊切ナルハ言フ迄モナイノデアリマス、然ルニ我國航空界ノ現状ハ、之ヲ歐米諸國ニ比較致シマシテ、甚ダ遜色アルコトハ洵ニ遺憾トスル次第デアリマス、隨テ今後事業ノ發達ヲ促進スルガ爲ニ施設スベキ事項ハ多々アルノデアリマス、將來財政ノ許ス限り、成ベク速ニ諸施設ノ進捗ヲ圖ルハ、陸軍トシテ切望スル所デアリマス、左様御承知願ヒマス（拍手）

〔政府委員吉田善吾君登壇〕

○政府委員（吉田善吾君） 永田君ノ御質問ニ答ヘマス、海軍ト致シマシテハ、民間航空ノ人員並ニ器材ハ、第一線部隊ニ直チニ持ッテ行クト云フコトニハ困難デアリマスガ、併シ第二線ノ補充ノ意味ニ於キマシテ、非常ニ重要視シテ居リマス、目下第一線部隊ノ補充ニ主力ヲ注イデ居リマスガ、今日ノヤウナ貧弱ナル民間航空デハ、洵ニ心細イ次第デアリマスルカラ、今後トモ相當發達助成シナケレバナラスト考ヘテ居リマス、關係各省トモ連絡ヲ取りマシテ、今マデモヤツテ來タノデアリマスガ、將來トモ尙

ホ十分其方ニ向ッテ行キタイト考ヘテ居ル次第デアリマス（拍手）

○議長（秋田清君） 永田君、宜シウゴザイマスカ

○永田良吉君 宜シウゴザイマス

○議長（秋田清君） 質問五、武富濟君提出、漁業組合ト其ノ地先漁業ニ關スル質問ヲ許可致シマス——武富濟君

五 漁業組合ト其ノ地先漁業ニ關スル質問（武富濟君提出）

漁業組合ト其ノ地先漁業ニ關スル質問 主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和九年二月十五日

提出者 武富 濟

主意書 漁業組合ト其ノ地先漁業ニ關スル質問

全國數千ニ互ル漁業組合ノ地先ニ於ケル免許漁業ハ經濟上全國漁民生活ノ基礎ヲ爲スモノニシテ其ノ免許ノ適否ハ漁村興廢ノ岐ルル所ナリ而シテ又屢其ノ經濟上ノ價值大ナルモノアリテ權門勢家ハ其ノ勢力ヲ以テ地元漁業組合ノ興亡ヲ無視シ一人ニシテ專有セムトスル者アリ時ニ當局ニ於テ其ノ免許ヲ爲ス職權ヲ濫用シ或ハ愛憎ニ依リテ免許ヲ爲スカ如キコトアラハ漁民ノ生活ヲ脅威シ漁村ヲ滅亡セシムルコトナルヲ以テ國家ハ嚴密ナル法規ヲ設ケ假令免許ヲ爲ス職權ヲ有スル官吏ト雖法規ニ依ラス之ニ違反シテ免許ヲ爲シ得サルコトト爲セリ然ルニ近時水産當局ハ右ノ精神ニ反シ法律ヲ無視シ濫ニ漁業免許ヲ爲シ敢テ漁村ノ衰亡ヲ省ミサル風アリ今ニシテ之ヲ匡スニ非サレハ

法律無視ノ前例ヲ作り百弊忽チ生シ終ニ救済ノ途ナキニ至ルヘシ依テ具體的事實ヲ擧ケ之ニ基キテ政府ノ漁業組合ト其ノ地先漁業免許ニ關スル漁政上ノ具體的方針ヲ質サムトス先ツ質問ノ基礎タル事實ヲ擧クレハ

一 神奈川縣足柄下郡酒匂村小八幡部落民ハ古來其ノ地先海面ヲ漁場トシ漁業ニ從事シ其ノ生活ヲ維持シ來リタルモノナリ神奈川縣知事モ亦此ノ事實ヲ認メ明治三十六年三月十七日小八幡部落ヲ地域トセル漁業者百五十三名ノ申請ニ依ル漁業組合ノ設立ヲ認可シ以テ今日ニ至リタルモノナリ(漁業法第四十二條、昭和八年一月四日付右組合ヨリ農林大臣宛提出ノ陳第五號證參照)

二 國家ハ漁村維持ノ必要上漁民ヲシテ漁業組合ヲ組織セシメ之ヲ公法人タル人格ヲ附與シ漁業權若ハ入漁權等ノ權利ヲ取得セシムルコトト爲シ法律ノ明文ヲ以テ其ノ旨記載セルヲ以テ(漁業法第四十三條)右組合ハ右法律ノ目的ヲ達スル爲直ニ舊漁業法第五條ノ所謂慣行ニ依ル地先水面專用漁業ノ免許出願ヲ農商務大臣ニ爲シタル所當時ノ法律ニ依レハ一人モ亦之カ出願ヲ爲シ得タリシヲ以テ隣村ノ一人ハ川邊正之助モ亦同様ノ出願ヲ爲シタル所明治四十五年ノ漁業法改正ニ依リ爾後慣行ニ依ル漁業權ヲ認メス地先海面ハ漁業組合ノミカ專用シテ漁業ヲ爲シ得ルコトトナリタルヲ以テ組合ハ新法(現行法)ニ依リ新ニ出願ヲ爲スヘシトノ當局内示ノ下ニ前記出願ハ共ニ却下セラレタリ依テ組合ハ現行法ニ依ル地先海面專用

漁業ノ免許出願ヲ爲セルカ大正七年ニ至リ此ノ再度ノ出願モ亦却下セラレタルヲ以テ右組合ハ農商務大臣山本達雄氏ニ對シ大正八年第七號行政訴訟ヲ提起シタル所右訴訟進行中右組合ハ前記免許出願期間中神奈川縣知事ハ組合ノ適法ナル出願アリタルコトヲ知レルニ拘ラス農商務省ニ對スル先願ヲ無視シ漁業組合地先水面ニ於テ地元組合以外ノ者ニ對シ漁業免許ヲサムトスルトキハ豫メ其ノ地元組合ノ承諾ヲ得ヘキ慣例法規ニ背キ竊ニ右組合地先海面全部ニ互リ五箇ノ特別漁業小地曳網其ノ他ノ定置漁業(此等ハ實際張立ヲ爲サス)ヲ免許シ更ニ之ヲ基礎トシテ定置漁業大謀網及鱒、鯖大謀網ノ免許ヲ爲シ地元組合ノ地先海面ヲ其ノ保護區域ト爲シ組合ノ地先漁業ヲ禁止セルコトナレハ上級官廳タル農商務省モ右川邊ノ漁業權ヲ取消シタル以後ニ非サレハ右組合ニ對シ漁業免許ヲ爲スコトヲ得ス而シテ右訴訟ハ農商務大臣ヲ相手方トスルモノニシテ神奈川縣知事ヲ相手方トスルモノニ非サレハ右神奈川縣知事ノ違法處分ニ付テハ裁判上審判判決ノ目的トシテ争フコトヲ得ス又神奈川縣知事カ右違法處分ヲ爲セシヨリ數年ヲ經過シ居ルコトナレハ處分ノ時ヨリ六十日間内ニ提起ヲ必要トスル行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サリシヲ以テ右行政訴訟ノ進行中ニ發見セラレ而モ訴訟ニ於テハ審理判決ノ範圍外ニ屬スル事實ニ基キ右訴訟ハ全然別箇ノ原因ニ依リ大正九年七月十六日即チ右訴訟判決前農商務大臣山本達雄氏ニ對シ

(第一)地元漁業組合カ上級官廳タル農商務省ニ地先海面專用漁業出願中ナルコトヲ知レル下級官廳タル神奈川縣廳カ地元組合ノ同意ヲ得ヘキ免許ノ與フヘキ慣例法規ヲ無視シテ川邊ニ對シ爲シタル漁業免許ノ違法ナルコト(第二)而モ右違法免許ノ實務ニ關與セル神奈川縣水産技師品川雄太郎ハ免許後川邊正之助ヨリ高給(年俸二千五百圓)ヲ以テ其ノ支配人兼漁場長トシテ雇ハレ今日ニ及ヘルコトハ其ノ間不正ノ請託ノ行ハレタルコトヲ一見世人ヲシテ信セシムルニ十分ニシテ官ノ威信ヲ國民ニ失ハシムルモノナルコト(第三)右免許ハ國家カ漁村維持ノ必要上漁業法第四十二條、第四十三條ヲ設ケタル目的ニ反シ右法條ノ適用ヲ事實上阻害シ漁民ノ生活ヲ奪ヒ漁村ヲ滅亡セシムルモノナルコトノ事由ニ基キ公益上害アルヲ以テ漁業法第二十四條ニ依リ右川邊ノ漁業權ヲ取消シタル上地元漁業組合ニ其ノ地先海面ノ漁業ヲ免許セラレ度旨ノ請願ニ及ヒタル所山本農商務大臣ハ大ニ理由アリトセラレ之カ調査ヲ命セラレタルモ辭職セラレ其ノ後内閣ノ更迭頻繁ニシテ下意上達セス早速、町田兩農林大臣ノ時代ニ於テ神奈川縣廳ニ相當處置ヲ爲スヘキ旨命セラレタルモ川邊ニ示談和解ヲ爲スノ意思ナク終ニ何等ノ結果ヲ見ルニ至ラス

三 然ルニ大正十五年ニ至リ右川邊ノ五箇ノ小地曳網ハ免許期間ノ滿了ニ依リ當然消滅セル所神奈川縣知事ハ川邊ニ對シ更新免許ヲ爲シタル(六月二十二日)本來此ノ小地曳網ハ經濟上價值アルモノニ非ス又實際上張立ヲ爲スコト鮮シ然レ共過去二十年間(今日ヨリ見テ)毎年平均三十萬圓ノ漁獲アリシ右鱒大謀網ノ權利ヲ保護スルニ付要塞ノ如キ役目アルヲ以テ大謀網漁業權ノ存續期間滿了セス川邊ノ手中ニ存スル間ハ川邊ニ更新免許ヲ爲スハ一應當然ナルモ組合トシテハ右更新免許ニ對シ贊成スルモノニ非サルコトヲ公ノ記録ニ明確ニ爲シ置カサルニ於テハ大謀網ノ期間滿了シ消滅セル際暗黙ノ承諾ヲ與ヘタルモノナリトノ誤解ヲ受クル虞アルヲ以テ此ノ誤解ヲ避クル必要上神奈川縣知事池田宏氏ニ對シ大正十五年第二十七號行政訴訟ヲ提起セル所同氏ハ大正十五年十月十七日付答辯書ヲ以テ「右組合地先海面ニ於ケル最重要ナル定置漁業大謀網ハ大正二十一年(昭和七年ニ當ル)十一月十四日漁業期間滿了シ其ノ漁業權消滅スルヲ以テ此ノ時ニ於テ何等拘束ヲ受ケサル處分ヲ爲スコトヲ期シ本件地曳網ノ免許期間ヲ六年ト制限シタルモノニシテ地元組合ノ利益ヲ考慮セルモノナル旨」答辯シ行政裁判所ノ記録ニ明記セラレタルヲ以テ右組合ハ右答辯ニ依リ神奈川縣當局ヲ信賴シ以テ右鱒大謀網カ當然消滅スヘキ大正二十一年十一月十五日ニハ漁業法第四十三條「漁業組合ハ漁業權ヲ取得スルヲ以テ云々目的トス」トアル法文ノ精神ニ基キ同年ニハ地元組合ニ對シ其ノ地先海面ノ漁業免許ヲ爲スヘキコトヲ確信シ凡テノ苦難ヲ忍ビ時日ノ到來ヲ待ち居レリ(昭和七年十二月十六日陳情書及其ノ證據參照)

四 昭和六年中地元漁業組合ハ法律上ノ手續ヲ履ミ前記大謀網及五箇ノ小地曳網ノ存續期間滿了三箇月以前ニ於テ農林大臣ニ對シテハ地先海面專用漁業免許願、神奈川縣知事ニ對シテハ定置漁業大謀網五箇ノ特別漁業地曳網免許願ヲ提出シ置キタル所神奈川縣知事遠藤柳作氏ハ神奈川縣知事カ行政裁判所ニ於テ前項ノ如キ言質ヲ公文書ヲ以テ與ヘ居レル趣意ニ背キ而モ全國中一ノ前例ナキ更新免許ヲ大謀網ニアリテハ期ニ先ツコト實ニ六箇月十五日五箇ノ地曳網ニアリテハ期ニ先ツコト實ニ五十二日ニ該當スル昭和七年五月二日川邊家敏ニ對シテ與フルト同時ニ期間滿了ヲ前提トシテ爲セル地元漁業組合ノ出願ヲ何レモ期ニ先チテ拒否却下シタリ依テ右組合ハ前述セル理由ニ基キ管テ農商務大臣山本達雄氏以下歴代ノ大臣ニ提出セル陳情書ノ趣意ニ依リ右神奈川縣知事ノ爲セル更新免許ハ假令違法ニ非ストスルモ尙前述ノ理由ニ依リ漁業組合本來ノ目的(漁業法第四十三條)ニ背キ公益上害アルヲ以テ漁業法第二十四條ニ依リ之ヲ取消シタル上地元漁業組合ノ出願漁業ヲ免許セラレ度旨衆議院ニ請願セル所昭和七年六月十四日滿場一致ノカ採擇ヲ爲シ地元組合ハ右院議ニ基キ農林省ニ歎願セルモ農林省ハ衆議院ト見解ヲ異ニスト稱シ何等理由ヲ明示セスシテ院議ニ相當セル處分ヲ爲ササルヲ以テ昭和八年一月四日更ニ同一理由ニ依リ貴族院ニ請願セル所貴族院ハ直ニ委員ヲ設ケラレ微ニ入り細ニ及ヒ審議ヲ遂ケ昭和八

年二月十六日ノ本會議ニ於テ右神奈川縣知事遠藤柳作氏ノ處分ヲ不當トシテ地元漁業組合ノ請願ヲ採擇セラレタリ

五 然ルニ農林當局ノ一部ニ於テ右貴衆兩院ニ於テ採擇セル院議ニ對シ非難ヲ加フル者アリ

第一ノ非難ハ小八幡ハ漁村ニ非ス漁民僅ニ數名ニ過キス古來ノ貧村ナリ今日更メテ救済スルノ要ナシト謂フニアリ然レトモ第一項ニ述フルカ如ク地元漁業組合ヨリ農林大臣ニ提出セル證據物第五號證中小八幡漁業組合設置認可申請書ニ署名セル發起人五名其ノ同意書ニ署名セル漁業者百十七名明治三十六年三月一日ノ創立總會ニ出席セル漁業者百五十三名アルコトハ記錄上明白ニシテ時ノ神奈川縣知事周布公平氏カ漁業法第四十二條ニ依リ右百五十三名カ漁業者ナルヤ否ヤ其ノ他ノ要件ヲ審査シ漁業者タルコトヲ認定シ之ニ設立認可ヲ與ヘタルコトナレハ組合設立當時小八幡ハ百五十三戸ノ漁業者ヲ有シ漁業ニ依リ生活ヲ立テ居リシ漁村ナリシコト一點疑ノ餘地ナシ尙小八幡ハ舊來ノ住民一千五百一人ニ對シ田二十六町八段二十六步畑十二町二段一畝二十二步ニシテ其ノ他山林原野ナク一人當リ耕地僅ニ二畝步ニ過キス農村ニ非サルコト一見明白ナリ又商工遊覽地域ニモ屬セス而モ昔時富裕ノ部落ナリシコトハ皆知ル所ナリ此等ノ事情ト對比シ右神奈川縣知事周布公平氏ノ許可ハ誠ニ相當ナリ而シテ昭和八年十一月十三日右地元組合ヨリ農林大臣ニ提出セル陳情書ニ署名セル組合員ハ百三十五名ナリ

此ノ署名者ト前署名者ト其ノ氏名ヲ一照合スルニ大部分ハ同一人ニシテ僅少ノ部分ハ其ノ相續人ニシテ新規加入者アルコトナシ此ノ明白ナル事實ヨリ見テ組合員ハ全部漁民ニシテ二十數年ノ久シキ其ノ地先漁場ヲ奪ハレ漁業ヲ爲スニ極メテ困難ニシテ失業セシト雖漁民タル意思ヲ繼續シテ今日ニ至リタルコトヲ知ルヲ得ヘシ偶其ノ日其ノ日ノ糊口ヲ凌カムカ爲或ハ日傭人夫或ハ戸ニ付商フ漁商(ボテ振リ)ニ一時身ヲ落シタル表面ヲ見テ古來ノ窮民ト稱スルニ至リテハ人道ヲ解セサルノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス若商人ヨリ其ノ店舖ヲ奪ヒ農民ヨリ其ノ耕地ヲ奪ヒ職工ヲ工場ヨリ追ヒ汝等ハ農商工ニ非ス救済ノ要ナシト謂ハハ天下ノ政道全ク亡ヒ國家及民族共ニ自滅スルノ外ナシ農林當局ハ果シテ此ノ如キ思想ニ依リ國政ヲ處理セムトスルハ不當ナラスヤ村民カ二十餘年ノ久シキ困難ノ中ニモ離村セスシテ今日迄堪ヘ忍ブコトヲ得タリシハ昔時富裕ニシテ各自應分ノ蓄財アリシト地先海面回復ノ希望ヲ抱キ居リタレハナリ而モ政府當局ハ此ノ最後ノモノ迄ヲ奪ヒ盡サムトシテ此ノ如キ非難ヲ敢テセムトスルハ甚シキ失敗ナリト謂ハサルヘカラス

存在スル川邊ノ所謂既設漁業ト本組合ノ出願漁業ハ相容ルルヤ否ヤ相容ルルトセハ相容ルル範圍ニ於テハ漁業ノ價値アリヤ否ヤノ二點ニアリテ更ニ進ムテ神奈川縣知事カ爲シタル當初ノ右漁業免許カ適法ナリヤ否ヤノ點ニ付テハ前説明ノ如ク(第一)被告ハ農商務省ニシテ神奈川縣知事ニ非ス當事者ヲ異ニシ(第二)當時神奈川縣知事カ免許ヲ爲シタル日ヨリ六十日以上ヲ經過シ居ルコトナレハ行政裁判所ニテハ之カ審理判決ヲ爲シ得サリシ事項ニ付何等審理判決セラレサリシモノナリ又後ニ說明スル神奈川縣知事遠藤柳作氏カ昭和七年五月二日爲シタル免許ノ違法ハ新ニ發生セル問題ナレハ大正八九年ノ行政訴訟ニ於テ審理判決セラルヘキ管ナキコト事件ノ發生ト歲月ノ相違ニ依リ明ナリ然ルニ農林當局ノ一二人者カ右ノ如キ非難ヲ加フルハ諒解ニ苦シム所ナリ

第二ノ非難ハ本件漁業權問題ハ既ニ行政訴訟ニ依リテ落著セルモノニシテ貴衆兩院ノ容喙スヘキ事柄ニ非ストノ論ナリ是亦認識不足ノ甚シキモノナリ前説明セルカ如ク大正八年第七號訴訟事件ニ於テ爭點トナリタルハ當時形式上

六 貴衆兩院共神奈川縣知事ノ爲シタル更新免許ハ漁業免許ニ關スル根本法則ニ反シ法律力達成セムトスル目的ヲ阻害スルモノニシテ公益上害アルニ依リ漁業法第二十四條ニ依リ之ヲ地元漁業組合ニ免許スヘキモノナリトノ決議ヲ爲シタル事實ノ概略ハ前述セル所ノ如シ然ルニ農林省ニ於テハ前項ノ如キ口實ノ下ニ院議ニ對シ非難ヲ加フル者アリタルヲ以テ更ニ調査ヲ爲シタルニ右昭和七年五月二日神奈川縣知事ノ免許ハ違法ニシテ無効ナリ行政上ノ手續トシテハ行政官廳ニ於テ之ヲ取消スヘキ義務アリ之ヲ爲ササルハ刑事上ノ責任

此ノ署名者ト前署名者ト其ノ氏名ヲ一照合スルニ大部分ハ同一人ニシテ僅少ノ部分ハ其ノ相續人ニシテ新規加入者アルコトナシ此ノ明白ナル事實ヨリ見テ組合員ハ全部漁民ニシテ二十數年ノ久シキ其ノ地先漁場ヲ奪ハレ漁業ヲ爲スニ極メテ困難ニシテ失業セシト雖漁民タル意思ヲ繼續シテ今日ニ至リタルコトヲ知ルヲ得ヘシ偶其ノ日其ノ日ノ糊口ヲ凌カムカ爲或ハ日傭人夫或ハ戸ニ付商フ漁商(ボテ振リ)ニ一時身ヲ落シタル表面ヲ見テ古來ノ窮民ト稱スルニ至リテハ人道ヲ解セサルノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス若商人ヨリ其ノ店舖ヲ奪ヒ農民ヨリ其ノ耕地ヲ奪ヒ職工ヲ工場ヨリ追ヒ汝等ハ農商工ニ非ス救済ノ要ナシト謂ハハ天下ノ政道全ク亡ヒ國家及民族共ニ自滅スルノ外ナシ農林當局ハ果シテ此ノ如キ思想ニ依リ國政ヲ處理セムトスルハ不當ナラスヤ村民カ二十餘年ノ久シキ困難ノ中ニモ離村セスシテ今日迄堪ヘ忍ブコトヲ得タリシハ昔時富裕ニシテ各自應分ノ蓄財アリシト地先海面回復ノ希望ヲ抱キ居リタレハナリ而モ政府當局ハ此ノ最後ノモノ迄ヲ奪ヒ盡サムトシテ此ノ如キ非難ヲ敢テセムトスルハ甚シキ失敗ナリト謂ハサルヘカラス

六 貴衆兩院共神奈川縣知事ノ爲シタル更新免許ハ漁業免許ニ關スル根本法則ニ反シ法律力達成セムトスル目的ヲ阻害スルモノニシテ公益上害アルニ依リ漁業法第二十四條ニ依リ之ヲ地元漁業組合ニ免許スヘキモノナリトノ決議ヲ爲シタル事實ノ概略ハ前述セル所ノ如シ然ルニ農林省ニ於テハ前項ノ如キ口實ノ下ニ院議ニ對シ非難ヲ加フル者アリタルヲ以テ更ニ調査ヲ爲シタルニ右昭和七年五月二日神奈川縣知事ノ免許ハ違法ニシテ無効ナリ行政上ノ手續トシテハ行政官廳ニ於テ之ヲ取消スヘキ義務アリ之ヲ爲ササルハ刑事上ノ責任

ヲ發生スヘキモノナルコトヲ發見シタリ

七 漁業法第十六條ノ解釋ニ關シ大審院

ハ同院第一民事部大正十年十二月二十七日判決大正十年(オ)第七百三號免許漁業原簿登錄抹消請求事件ニ於テ

(一)漁業權ハ官ノ免許ヲ以テ存立ノ要件ト爲スモノナレハ存續期間ノ經過ニ因リ當然消滅ニ歸ス(二)漁業權者ノ申請ニ因リ漁業期間ヲ更新シタルトキハ從來ノ漁業權カ爾後延長シテ存續スルニアラスシテ新ナル別箇ノ漁業權カ發生スルモノナリ(判決彙報第三十三卷上四一六頁參照)トノ要旨ノ判決ヲ爲シ農林省亦右判旨ニ依リ漁業免許ヲ爲シ居レルモノナリ右判決ノ要旨ニ依リ考察スルニ

第一 官カ一旦漁業免許ヲ爲シタル以上

ハ其ノ免許ノ内容タル存續期間ハ官カ特ニ法律ニ基キ變更處分ヲ爲ス場合ノ外變更セラルコトナシ之レ漁業權カ官ノ免許ヲ以テ其ノ存立要件ト爲ス當然ノ歸結ナリ今本件ニ於テ川邊家敏ノ定置漁業罟大謀網ノ舊漁業權ハ大正元年十一月十五日ノ免許ニシテ大正二十一年即チ昭和七年十一月十四日存續期間満了ニ依リ當然消滅ニ歸スヘキモノナルト同時ニ存續期間中ハ官カ法律ニ基キ行政處分ニ依リ之ヲ變更シ又ハ取消スニ非サレハ期間満了迄ハ當然存續スヘキモノナリ而シテ本件ニ於テ官カ右漁業權ノ存續期間ノ變更ヲ爲シタルコトナク又爲シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ川邊ノ舊漁業權ハ昭和七年十一

月十四日ノ存續期間満了迄當然存續シ居レルモノナリ果シテ然ラハ舊漁業權存在スルニ拘ラス更ニ漁業免許ヲ爲シ同時ニ同一漁場ニ對シ二箇ノ同一種類ノ漁業權ヲ發生セシメタルコトトナル然レトモ此ノ如キ二重ノ權利發生ヲ許ササルハ自明ノ理ナルヲ以テ昭和七年五月二日神奈川縣知事遠藤柳作氏ノ爲シタル更新免許ハ違法ニシテ無効ナリ而シテ川邊ノ舊漁業權ハ昭和七年十一月十四日存續期間満了シ當然消滅ニシタルヲ以テ遠藤知事ノ昭和七年五月二日爲シタル違法免許ハ形式上存在スルモ何等其ノ效力ヲ發生スヘキ謂レナキヲ以テ法律上實質的ニハ小八幡地先海面ニハ何等ノ漁業權存在セス

第二 假ニ同一物ニ對シ同時ニ二箇以上ノ所有權又ハ同種ノ權利發生ヲ許スコトアリト假定スルモ漁業法第十六條ハ「漁業權ノ存續期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル」ト規定シ且民法第六百四條ノ如ク「若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス」ト規定ナキカ故ニ絶對ニ二十年ヲ超過スル免許ヲ許サス而シテ漁業權ハ官ノ免許ニ依リ發生シ免許ヲ存立要件ト爲スカ故ニ免許ノアリタル日ヨリ發生スルモノナルコト前記判決ノ要旨ニ依リ明ナリ而シテ此ノ說明ハ學說判例ノ一致セル所ナルノミナラス農林省モ亦此ノ見解ニ基キ右法條ニ反シ滿二十年ヲ超

過セル漁業免許ハ免許其ノモノカ無効ナリトシテ實際上ノ取扱ヲ爲シ居レルコト農商務省水產局長道家齊君序、同課長鈴木英雄君校閱、同事務官今村與作著、漁業登錄令早わかり第三節第三款三十二頁以下ニ詳細說明セル所ニ依リ明ナリ全國各府縣ノ實際上ノ事務取扱モ皆右著書ニ基キ爲シ居レルコト各府縣ニ照會ノ結果之ヲ知ルコトヲ得タリ果シテ然ラハ本件神奈川縣知事カ爲シタル更新免許ハ何レモ昭和七年五月二日ニシテ其ノ期間満了ハ定置漁業罟大謀網ニ依リテハ昭和二十七年十一月十四日ニシテ五箇ノ特別漁業小地曳網ニ依リテハ何レモ昭和二十七年六月二十二日ト神奈川縣漁業登錄原簿ニ記載アルヲ以テ前者ノ存續期間ハ滿二十年六月十五日、後者ノ存續期間ハ何レモ滿二十年五月二十二日ニ該當シ漁業法第十六條ノ規定ニ違反セル無効ノ免許ナリ若シ右法條ニ反スル更新免許ヲ許スコトトナレハ實際上四十年ニ近キ免許ヲ同時ニ爲スコトヲ得ルコトトナリ漁業法第十六條ノ規定ハ無用トナリ免許ノ規準ハ全然失ハレ官吏ハ如何ナル免許ヲ爲シ得ルコトトナリ漁政上ノ大紊亂ヲ來タスニ至ルヘシトハ右著書ニ說明スル所ニシテ至言ナリ

八

右ノ如ク神奈川縣知事カ爲シタル本件更新免許ハ法律上違法ナリ「無効ナル免許(行政處分)カ形式上免許(行政處分)トシテ存在スルモ其ノ免許(行政處分)ハ權限アル機關(農林省又ハ神奈

川縣廳)ノ取消宣言ヲ要セスシテ其ノ目的トセル處分(免許)ノ内容ニ適合セル法律的效果ヲ生スルコトナク從テ何人モ之ニ拘束ヲ受クルコトナク裁判所モ獨立ノ見解ニ依リテ其ノ無効ヲ判定スルコトヲ得ヘキモノナル(東京控訴院昭和五年(ネ)第一四八八號事件判決要旨、法律新報第二五九號所載)故ニ法律上

第一 小八幡漁業組合地先海面ニハ何

等ノ免許漁業ナキヲ以テ農林大臣ハ直ニ右組合ヨリ出願中ノ地先水面專用漁業權ヲ又神奈川縣知事ハ組合ニ於テ右違法ヲ發見セルニ依リ副申書ト共ニ出願セル罟大謀網及五箇ノ地曳網ニ對シ何レモ先ニ貴業兩院採擇請願ノ趣意ニ依リテ免許ヲ爲ササルヘカラサルコトトナル

第二 右組合地先海面ニ免許漁業ナキ

結果其ノ保護區域モ亦存在セサルヲ以テ地元組合員ハ右免許以前ト雖地先海面ニ於テ免許ヲ要セサル自由漁業ニ從事スルコトヲ得ルヲ以テ組合ヨリ其ノ旨神奈川縣知事ニ具申セル所神奈川縣內務部長ハ公文書ヲ以テ右自由漁業ヲ爲ス權利ノ行使ヲ阻止シタリ此ノ如キハ刑法第九十三條ニ所謂公務員其ノ職權ヲ濫用シ組合員ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害セルコトトナル第三 川邊ハ免許ニ依ラスシテ免許漁業ヲ爲シ居レルコトトナル加之漁業登錄原簿ニ依レハ罟大謀網ノ漁期ハ毎年一月一日ヨリ五月三十一日迄トナリ居レルニ川邊ハ各前年十二月五

六日ヨリ張立ヲ爲シ縣ハ之ヲ知レルモ禁止セズ依テ川邊ハ漁業法第五十八條第一項第一號ニ依リ處罰セラルヘキコト明ナリ(大審院第二刑事部昭和四年五月二日判決昭和三年(九)第三三二號漁業法違反被告事件)官吏右犯罪ヲ知り之ヲ禁止スヘキ義務アルニ之カ禁止ヲ爲サス却テ之ヲ保護シタル場合刑事上同一責任ヲ負フヘキコト明ナリ

九 第三項記載ノ如ク大正十五年六月二十二日ノ小地曳網存續期間更新期ニ於テ神奈川縣知事カ特ニ存續期間ヲ六箇年ニ制限シ期間滿了ヲ大正二十一年六月二十二日ト定メタルハ定置漁業大謀網ノ期間滿了スル昭和七年十一月十四日以前小地曳網漁業權ヲ消滅セシメ大謀網ノ更新期ニ際シテハ小八幡組合地先海面ニ何等ノ漁業權存在セザルコトナリ神奈川縣知事ハ何等拘束ヲ受クルコトナク漁業法第四十三條ノ目的ニ適フ様公平ナル處置ヲ爲サム爲ナルコトハ神奈川縣知事ノ公文書ヲ以テ答辯セル所ナルヲ以テ川邊側ニテハ舊漁業權ノ存續期間滿了ニ依リ漁業權ノ消滅ヲ待ツトキハ神奈川縣知事ニ於テ右言明セル方針ニ基キ所謂公平ナル措置ヲ爲シ小八幡組合ニ免許スヘキ情勢明トナリタルヲ以テ更新期ニ先チ同組合ノ知ラサル間ニ不意ニ免許ヲ受クルニ如カスト爲シ猛運動ヲ開始シ其ノ違法トナルヤ否ヤヲ顧慮スル暇ナク更新期ニ先ツコト六箇月十五日ト謂フ全國前例ナキ免許ヲ爲サシメタルモノナルコトハ之ヲ推知スルニ十分ナリ而シテ右違法

免許カ或ハ所謂天降リ式ニシテ實務官吏ノ具申ニ基クモノニ非サルヘキコトハ右違法免許カ甚シク實際ノ事務取扱慣例ニ反シ事務當局トシテ有り得ヘカラサル過誤ニ屬スルカ如ク一見漁業免許ニ付テハ専門家ニ非サル上級首腦部カ其ノ權利ヲ濫用セル形跡顯著ナリト疑フ者アルノミナラス右組合理事其ノ他組合員百餘名神奈川縣廳ニ出頭シ仙川技師ニ對シ何故ニ大正十五年ノ言質ニ反シ川邊ニ免許セルヤト質シタルニ自分ノ知ラサル所ナリト明言セル事實ニ徴スレハ蓋思ヒ半ニ過クルモノアラム乎右違法免許ニ關シ不正ノ行ハレタリトノ世評甚ク喧シ
以上ノ事實ニ基キ左記各項ニ對シ詳細懇切ナル答辯アラムコトヲ望ム
一 前掲事實各項目ニ對シ事實、法文、判例ニ基キ政府ノ詳細ナル意見ノ開陳ヲ求ム
二 漁業組合ノ設置シアル漁村地先水面ノ漁業權ハ之ヲ其ノ地元組合ニ免許スルヲ本則トシ若地元漁業組合以外ノ者ニ免許セムトスル場合ハ地元組合ノ同意ヲ要スル慣例アリトハ農林當局ニ於テ大正八年第七號事件ニ於テ行政裁判所ニテ明言セル所ナルカ其ノ後漁業免許ニ關スル右漁政上ノ方針慣習ハ變更セラレタリヤ否ヤ變更セラレタリトスレハ其ノ理由如何
三 貴衆兩院ハ大體前記事由ヲ正當ナリトシテ前年既ニ請願ヲ採擇シタルモノナルカ若政府カ其ノ意見ヲ誤ナリト謂ハハ其ノ理由ヲ事實及法規ニ基キ詳説セラレタシ

四 農林省從來ノ取扱上及法文判例ヨリ見テ昭和七年五月二日神奈川縣知事ノ爲シタル更新免許ハ明ニ違法ナルカ政府力飽迄右違法處分ヲ固守セムトスルハ爾後漁業免許ニ對シテ漁政上ノ從來ノ方針ヲ一變シ右神奈川縣知事ノ爲シタル免許ヲ前例ト爲サムトスルカ爲ナルカ竝各府縣ニ於テ之ヲ前例ト爲スモアラハ是認セムトスルカ爲ナルカ政府ノ所見如何
五 違法處分ノ結果前示判例ノ如ク官民共ニ刑事上ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルコトトナルカ政府ハ斯ル責任ヲ負擔シテ迄モ地元漁業組合ニ其ノ地先海面ノ各種漁業ヲ免許セシメ一人ノ私利權ヲ保護セザルヘカラサル理由並事情詳細如何
六 事實第九項ノ如ク本件違法免許ニ關シ其ノ間不正ノ行ハレタルコトアリシヤ否ヤニ付現政府ハ其ノ調査ヲ爲シタルコトアリヤ否ヤ竝今後之カ調査ヲ爲スノ意思アリヤ否ヤ右及質問候也
(武富濟君登壇)

○武富濟君 農林當局ニ對シテ、漁業組合ト其地先專用漁業免許ノ件ニ關シテ簡單ニ質問ヲ致シマス、此問題ハ形ガ甚ダ小サイノデアリマスガ、日本全國ノ漁業家、漁民ニ及ボス影響ハ頗ル重大ナルモノデアリマス、影響スル所ガ甚ダ重大デアリマスル爲ニ、一地方ニ限ラレタル事案ノヤウデアリマスガ、内容ハ餘程重要性ヲ帯ビテ居リマスルカラ、農林當局ハ本員ノ質問ノ要項ヲ十分ニ御擱ミ下サイマシテ、無責任ナル答辯ヲナスコトナク、牧野遞信政務次官同様、詳細ナル御答辯ヲ煩シタイノデアリマス(笑聲、拍手)本件質問ノ詳細ハ、主意書ニ記載サレテアリマスルカラ、之ヲ努メテ省略ヲ致シマシテ、唯其要點ガケテ辯明致シマスルト、農林省ハ曩ニ神奈川縣知事ガ法規慣例竝ニ大審院ノ判例ノ趣旨ニ背イテ、不當不法ナル漁業免許ヲナシテ、或ル一人ニ多大ナル利益ヲ與ヘテ、漁業權ノ實益ヲ壟斷セシメテ、多數ノ地元組合員ヲ窮地ニ陥ラシメテ、其生活ヲ脅シタ不當ノ事實ガアルガ、之ヲ默過シテ、其一個人ノ免許處分ノ取消ヲナスコトナク、又今日ニ至ル迄善後處置ヲ執ラザル所ノ事實アリト認メマシテ、此質問ヲ致シタノデアリマス
神奈川縣知事ノ遠藤柳作氏ガ、昭和七年ノ五月二日、足柄下郡小八幡ノ百十數名ノ漁業組合員ノ正當ナル免許出願ヲ許スコトナク、其漁業權ノ實際ノ利益ヲ全ク横取りスルヤウナ形ノ結果ヲ產出スヤウニ、或ル一人ノ川邊家敏ト申ス、當時確カ十三歳ノ少年デス、此少年ニ不當不法ニ漁業ヲ免許シテ、漁獲高ノ年額約三十萬圓アリト稱セラレテ居ル大謀網、及ビ五ツノ小地曳網漁業ヲ免許シタト云フ事實ガアリマス、私共ハ此免許ガ不當デアツテ、不法デアルト信ジテ居リマス、若シ其吾々ノ確信ガ間違テ居ルノデアアルナラバ幸ヒデアリマス、諒解ヲ得ルヤウニ御説明ガ願ヘレバ甚ダ仕合セデアリマス
先ヅ此免許ガ不當ニシテ不法デアルト信ズベキ理由ヲ數項舉示致シマスルガ、漁業法第五條ニ依リマスルト、地先水面ノ專用漁業權ハ、漁業組合ナルモノニ限ツテ免許サル、コトニ規定サレテ居ル、又一面多年ノ慣例ハ、組合以外ノ者ニ許可スル場合ニ

ハ、其地元組合ノ同意ヲ要スベキモノト相成ツテ居ルノデアリマス、現ニ是ハ農林當局ニ於テ、大正八年行政裁判所ニ對シテ其様ナ慣例ガアルノダ、地元組合ノ同意ヲ求めルコトナクシテ免許ハスベキモノデナイト云フコトヲ明言シテ居ラレル所デアアルノミナラス、以前モ今日モ其通りニ慣例ガ行ハレテ居ル事實ハ争フベクモアリマセズ、神奈川縣知事ガ此法規ト慣例ノ精神ニ背キマシテ、漁業組合ニ其出願ヲ免許セズニ、川邊少年ニ是ト同一ノ利益ノアル所ノ免許ヲナシタト云フコトハ不法デアルト考ヘマス、農林省ハソレハ川邊ニ許シタノハ、地先ノ専用漁業權デハナイデハナイカ、鱒ノ大謀網ノ漁業デアリ、地曳網デアアルカラ、少シモ法律違反デハナイト辯明スルデアリマセウガ、是ハ形式的ノ遁辭デアアル、實質ニハ正ニ地先水面漁業權ト全然同一ノモノニナツテ居ル、ソレハ五ツノ地曳網ノ權利ト云フモノヲ合算シテ見マスト、丁度地先水面専用漁業權ノ地域ト全然符合シテ居ル、加之其處ニ二ツノ大謀網ヲ免許シテ居リマスルノデ、此地先海面ヲ保護區域トナシタ結果ト致シマシテ、地元漁民ノ漁業ト云フモノハ完全ニ禁止サレ終ツタ、自由ニ漁業スルコトガ出來ナイ、舟一艘其處ヲ漕廻ルコトガ出來ナイ、全ク排他的ノ、獨占的ノ漁業權ト云フモノヲ、或ル一個人ガ贏チ得タモノデアリマシテ、百數十名ノ組合員ハ、漁業ニ從事スルコトガ出來ナイヤウナ結果ニナツテ居ル、ソコデアアルカラ地先海面専用漁業權デハナイト云フ口實ハ立チマスケレドモ、實質ニ於テ之ヲ禁止シタルト同様ノ結果ニ相成リマスルノデ、地先専用漁業ノ名目ヲ巧ミニ避ケテ、特別漁業デアルト云

フコトニ藉口シテ、脫法行爲ヲ敢テシタモノデアルト認メザルヲ得ヌノデアリマス、是レ不法ナルノ第一、第二點ハ、神奈川縣知事ガ一人ノ川邊ナル者ヲ庇護致シマシテ、之ニ免許ヲナシ、漁業組合員多數ノ生活ヲ顧ミナイト云フコトハ、明ニ公益上害ノアルコトデアツテ、不當ト吾々ハ考ヘマス、然ラバ漁業法ノ二十四條ニ依ツテ「公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得」ト明ニ定メラレテアリマスルカラ、此漁業法二十四條ノ精神ニ依ツテ、先ニ許シタル免許ヲ取消スガ當然デアルト考ヘマスルガ、今日マデ其取消ノナカッタコトハ不當デアルト信ジテ居ルノデアリマス、第三ノ不法ナル點ハ、本件ノ免許ハ同一ノ漁業ニ同時ニ同一種類ノ漁業權ヲ發生セシメテ居ル、二重ニ權利ト云フモノガ與ヘラレタ形ニナツテ居ツテ、明ニ法律一般ノ原則ニ反シテ無効デアルト信ジマス、此免許ハ更新免許デアリマスガ、川邊ノ舊權利デアアル所ノ五ツノ地曳網ノ權利ト云フモノハ、期間ガ昭和七年ノ六月二十二日迄シカナカッタデアリマス、鱒ノ大謀網ノ方ハ、七年ノ十一月十四日迄アルノデアリマス、共ニ七年ノ中ニ其權利ト云フモノガ消滅シ終ルコトニナツテ居ル、ソレマデシカ存續ガ出來ヌノデアリマス、然ルニ其期間ノ滿了ノ前七年ノ五月二日ニ、突如此更新免許ト云フモノガ行ハレタノデアリマシテ、地曳網ニ付テハ其期間ニ先立ツコト五十二日、大謀網ニ付テハ、驚クベシ六箇月ト十五日間ニ免許ガ更新サレタノデアリマス、私寔聞ニシテ斯様ナル滿了期間前半年以前ニ、更新サレルト云フヤウナ實例

ノアルコトヲ、最近ニ於テハ聞イテ居リマセヌ、サウ云フ實例ガアルナラバ御示シテ願ヒタイ、古イ以前ニ於テハ、法規ノ不備、或ハ事務當局ノ取扱粗漏ノ結果アツタカモ分リマセヌケレドモ、最近ニ於テハアリ得ナイ、殆ド日本全國中唯一ツノ例ガ是デアルト云フ程ノ極端ナル、期間滿了前半年以上ノ時期ニ於テ更新免許ヲシタ、其爲ニ未ダ古イ權利ガ存續シテ居ル所へ、新シイ權利ガ更新免許サレタト云フ結果カラ見マスト云フト、二重ノ權利ガ同時ニ存在スルト云フコトニナル、即チ更新免許ハ違法デアツテ、無効デアルト申サナケレバナラス、古イ方ノ權利ハ七年十一月十四日ニ期間滿了シテシマヒマシタカラ、其權利ハ其時ニ消滅シテ、今日デハ無い、新シイ更新免許ノ方ハ違法ニシテ無効デアアル、古イ所ノ權利ハ一ハ六月中ニ、一ハ十一月中ニ期間ガ滿了致シマシタカラ、今デハ全ク權利ト云フモノガナイ、絶無ニ歸シテ居ルモノデアルト吾々ハ認メマスガ、農林當局ハ何ト御考ニナリマスカ

不法ト認ムベキ第四點、同時ニ二ツ以上ノ權利ノ存在ガ假ニ有效デアルト致シマセウ、所ガ本件ノ免許ハ二十年以上ノ期間ヲ定メタルモノデアリマシテ、無効デアリマス、神奈川縣ノ漁業登錄簿ヲ見マスト云フト、川邊ノ大謀網ハ昭和二十七年十一月十四日ガ滿了ト相成ツテ居ル、初カラ計算致シマスルト云フト、實ニ二十年ト六箇月十五日間ノ免許權デアリマス、小地曳網ノ方ハ、期限ガ二十七年六箇月二十二日デアリマスカラ、一ハ二十年ト五十二日間ニ相成リ、何レモ二十年以上ニナツテ居リマス、漁業法ノ第十六條ニ依レバ「漁業權ノ存續期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル」トアリマス、漁業法ノ十六條ハ明ニ漁業權ヲ二十年未滿トシテアル、然ルニ遠藤柳作知事ノ與ヘタ權利ハ、一ハ二十年ト五十二日、一ハ二十年ト六箇月十五日デアアル、不法ニ非ズシテ何ゾヤデアアル、是ガ有效ナルモノデアリ、正當ナルモノデアルト云フナラバ、政府委員ノ詳細ナル説明ヲ承ラナケレバ吾々ハ承服ガ出來兼ネマス此第三ノ不法ナル點、第四ノ不法ナル點ニ付テハ、大審院ノ第一民事部、大正十二年十二月二十七日ノ判例ガアリマス、判例ノ要旨ハ斯様ニ相成ツテ居ル「漁業權ハ官ノ免許ヲ以テ存立ノ要件トナスモノナレバ存續期間ノ經過ニ依リ當然消滅ニ歸ス」次ニ又「漁業權者ノ申請ニ依リ漁業期間ヲ更新シタルトキハ從來ノ漁業權ハ爾後延長シテ存續スルニアラズシテ新タナル別個ノ漁業權ガ發生スルモノナリ」トアル、農林省ハ常ニ判例ノ趣旨ヲ認メラレマシテ、其趣旨ニ從ツテ免許ノ許否ヲ決定シテ御出デニナル事實ガアル、イヤ大審院ノ判例ハ、不當ト云フ御意見ガ若シアリトスルナラバ、其不當ナル理由ヲ此席ニ於テ詳細ニ御説明ヲ得タイト思ヒマス、此大審院ノ判例ガ正當デアルト御認メニナルナラバ、遠藤柳作知事ノ免許ハ當然不當デアルト御認メニナラナケレバナラヌデアリマセウ、二者何レデアアルカ、責任アル御答辯ヲ求メマス

又農林省ノ水産局ノ御役人ガ、私共ノ言フ通りノ説ヲ唱ヘテ居ル、ソレハ事務官ノ今村與作ト云フ人デアリマシテ、水産ニ付テハ一權威、此人ノ「漁業登錄令早分り」ト云フ著書ガアル、是ガ日本全國ノ各府縣廳ニ配付サレテ居リマシテ、水産ニ關シテハ

此今村君ノ著書ト云フモノガ權威ヲ持ッテ
 參考ニ供サレテ、日本全國此說ノ通りニ行
 ハレテ居ルト云フ實情ガアリマス、此今村
 君ノ說ハ、私共ノ說ヲ明瞭ニ裏書シテ居
 ル、即チ農林當局ガ吾々ノ主張ヲ肯定シテ
 居ル、若シ私共ノ說ガ正シクナイトシテ、
 漁業法十六條ニ反スル免許、即チ二十年以
 上ノ期間ヲ定メタル免許ガ有效ダ、斯ウ致
 シマスト、茲ニ容易ナラザル問題ガ起ッテ來
 ル、漁政紊亂ノ大問題ガ起リマス、ソレハ
 今日漁業ヲ免許スル、一箇月後ニ又免許ス
 ルトスル、其初メノ免許ガ有效ニ續ケバ二
 十年アリマセウ、一箇月後ニ許シテ免許ガ
 又二十年アルトスレバ合計三十九年十箇月
 ト云フモノガ有效ナル期間トシテ繼續スル
 ト云フコトニ相成リマシテ、由々シキ問題
 ヲ惹起スノデアリマシテ、到底吾々ノ說ヲ
 覆ヘス論據ハナカラウト考ヘマス

不當ナル處分デアルト云フ第五點、是ガ
 質問ノ中心ニ相成リマス、本件ノ免許ガ假
 ヌ數百步譲リマシテ、法律上ハ不法デナイ
 ト致シマシタ所、此處分ト云フモノハ沿革
 ト歴史ヲ無視シテ、大正十五年中ニ神奈川
 縣知事池田宏氏ガ責任ヲ以テ公約シタル所
 ニ背イタ不徳背任ノ處分デアルト云フ事實
 ガアリマス、抑、此小八幡漁業組合ナルモ
 ノハ、明治三十五年ニ舊漁業法ガ制定セラ
 レマシタ其翌年、早クモ百何十名ノ組合
 員ヲ集メマシテ、完全ナル漁業組合ヲ作ッテ
 其認可申請ヲ致シ、時ノ縣知事周布公平氏
 ガ能ク調査シタ後ニ之ニ認可ヲ與ヘテ居ル
 ノデアリマス、明治三十六年以來昭和九年
 ノ今日今日マテ連續トシテ續イテ居ル立派
 ナル漁業組合デアアルノデアリマス、古イ歴
 史沿革ヲ有ッテ居ル、サウシテ三十六年以來

永年開引續イテ、地先水面專用漁業權免許
 ヲ得タイト云フノデ、必死ノ努力ヲ拂ヒナ
 ガラ出願又出願、却下又却下、血ミドロニ
 ナッテ其免許ヲ得ベク努力ヲ致シテ居ッタノ
 デアリマスケレドモ、何故カ其間神奈川縣
 知事ハ、多數組合員ノ生活ヲ顧ルコトヲ致
 シマセズ、一私人タル當主ノ先代、先々起
 川邊正之助ナル者ニ對シテ地曳網ヲ免許
 シ、續イテ組合ノ同意ヲ得ルコトナク、一
 般ノ慣例ニ背イテ大謀網ヲ免許シ、地元漁
 民ノ生活ヲ奪ッテ之ヲ窮地ニ陥レ、其結果紛
 争ガ常ニ絶エマセズ、平和ハ全ク攪亂サレ
 マシテ、抗爭絶ユル暇ガナイ、遂ニ大正八
 年組合ハ農林大臣ニ對シテ行政訴訟ヲ提起
 致シマシタ、其後大正十五年ニ至リマシテ、
 川邊ノ地曳網ノ期間ガ滿了致シマシテ權利
 ガ消滅シタカラ、時機到來ト云フノデ組合
 ハ喜ンデ免許出願ヲ致シマシタ所ガ、川邊
 ガ又競願者トナリ、此時モ亦川邊ニ有利ニ
 事件ガ進展致シマシテ、六年ノ期間ヲ定メ
 ラレテ川邊ニ許可ニ相成ッタ、ソコデ組合ハ
 大ニ憤慨シテ、縣知事ニ同ッテ行政訴訟ヲ
 提起致シタノデアリマス

斯ノ如クニ、明治三十六年以來二十有餘
 年ノ間、揉ミニ揉ミシテ争デアリマスルノ
 デ、流石ニ其當時ノ池田宏縣知事モ、一個
 人ニ利益ヲ與ヘンガ爲ニ何百名ノ多數ヲ犧
 牲ニ供スルノハ不可デアルト云フ點ニ氣ガ
 付キマシテ、當時行政裁判所ニ對シテ答辯
 書ヲ以テ斯様ニ明言致シタノデアリマス、
 行政裁判所ノ記録ニ明瞭ニ載ッテ居リマス、
 鱒大謀網ハ大正二十一年、即チ昭和七年ニ
 ナリマス、大正二十一年ノ十一月十四日ニ
 期間ガ滿了シテ、川邊ノ權利ハ消滅スル、
 尙ホ之ト前後シテ地曳網ノ權利モ消滅シテ

シマツテ、川邊ノ權利ハ全然ナクナリ了ルカ
 ラ、其時ニ於テ初メテ何等拘束ヲ受ケザル
 處分ヲナスコトガ出來マスカラ、地元組合
 ノ利益ハ十分ニ考慮致シマセウ、斯ウ云フ
 答辯書ヲ出シテ居ルノデアリマス、即チ
 川邊ノ權利消滅後ハ、組合ニ免許スベキ
 意圖ガアルト云フコトヲ明ニ公約ヲシテ異
 レタノデアリマス、池田知事ガ漁業法ノ精
 神ヲ尊ンデ、地元漁民ノ生活安定ヲ圖ルト
 共ニ、行政上ノ適正ナル處分ヲシテ、地方
 問題紛争ノ根本的解決ヲ遂ゲヨウト致シマ
 シタノハ蓋シ當然ノ態度デアッタノデアリ
 マス、ソコデ組合員一同ハ愁眉ヲ開キマシ
 テ、知事ノ公約ヲ信ジテ大イニ喜ビ、鶴首
 シテ其時機ノ到來ヲ待ッタノデアリマス、六
 年間ノ永イ間、隱忍苦難ニ堪ヘ來マシテ、
 愈、六年後ニハ吾等組合一同ニ免許ガ來ル
 ゾ、生活ノ安定ガ得ラレルゾ、始メテ天日
 ヲ仰グコトガ出來ルゾト期待シタノデアリ
 マシタガ、驚クベシ、農林省並ニ神奈川縣
 知事ハ、亂暴ニモ此沿革ト歴史トヲ顧ルコ
 トナク、其期間滿了前、前述ノ如ク半年モ
 先ニ、突如トシテ昭和七年五月二日川邊少
 年ニ免許ヲ與ヘ、多數ノ組合員ノ期待ヲ裏
 切ッテ、其利益ヲ蹂躪シテ顧ミマセズ、甚ダ
 無情デ殘酷、不徳ニシテ背信デアルト申サ
 ナケレバナラヌ、ドウ云フ譯デスウ云フ亂
 暴ナ處分ガ出來タカト私共ハ疑ハザルヲ得
 マセヌ、如何ニ考ヘテモ其理由ノ發見ニ苦
 シムノデアリマス、近來ハ農林當局ニ於テ
 モ、銳意漁政ノ統一ヲ圖ッテ居ラレ、其整備
 ニ努力シテ居ラレルラシイ、純理ト實狀ニ
 從ッテ、穩健妥當ノ處分ヲ爲シテ、著々其成
 果ヲ擧ゲツ、アラレバヤウニ見受ケラる、
 時ニ當リマシテ、獨リ此小八幡ノ漁業組合

ニ付テノミ、例外的ノ處分ガ突如トシテ
 下ッタト云フコトハ一體ドウ云フ譯デア
 ルカ、吾々ニハ解スルコトガ出來ヌノデア
 リマス、其理由ガアレバ詳細ニ承リタイ、又
 其理由ヲ詳細ニ説明スル義務ガ農林當局ニ
 ハアル

以上申述ベマシタル第一點乃至第五點ノ
 法律上ノ不法ト、行政上不當ナル所ノ遠藤
 神奈川縣知事ノ漁業免許處分ト云フモノ
 ハ、正當デアルト御認めニナルカ、不當デ
 アルト御認めニナルカ、正當デアルトシタ
 ナラバ、吾々ノ諒解スル程度ニ十分ノ御説
 明ガナクテハ相成ラスノデアリマス、小八
 幡組合ニ於キマシテハ、曩ニ衆議院並ニ貴
 族院ニ請願ヲ致シテ、本件ノ免許ハ公益上
 ニ害ガアルカラ、漁業法ノ成文ニ從ッテ之
 ヲ取消シテ、地元漁業組合多數ノ者ニ出願
 漁業ノ免許アリタキモノデアルト云フ請願
 デアリマス、衆議院ニ於テハ昭和七年六月
 十四日、貴族院ニ於テハ三室戶敬光子爵ガ
 紹介議員トナラレマシテ、昭和八年ノ二月
 二十六日何レモ滿場一致ヲ以テ採擇サレテ
 居ルノデアリマス、然ルニ農林省ハマダ反
 省ヲシナイ、兩院ノ院議ヲ無視シテ、依然
 トシテ今日ニ至ルマデ此不法處分ヲ看過シ
 テ居ル理由ガ一體何處ニアルノデアリマ
 ス、甚ダ其意ヲ得マセヌ、法律ノ解釋ヲ正
 當ニ致シテ居ラス、從來ノ慣行ヲ無視シテ
 居ル、一私人ニ利益ヲ與ヘテ、多數漁民ヲ
 窮地ニ泣カシメテ居ル、貴衆兩院ノ請願採
 擇、滿場一致ノ議決ヲ無視シテ居ル、何等
 是ノ救済ノ方策ヲ樹テヨウトシナイ、何ノ
 故デアルカ、甚ダ吾々ハ分り兼ねルノデア
 リマス、茲ニ於テ地元ノ漁民並ニ其家族多
 數ノ者及ビ之ニ關係シテ居ル人々ニ於テ

以上申述ベマシタル第一點乃至第五點ノ
 法律上ノ不法ト、行政上不當ナル所ノ遠藤
 神奈川縣知事ノ漁業免許處分ト云フモノ
 ハ、正當デアルト御認めニナルカ、不當デ
 アルト御認めニナルカ、正當デアルトシタ
 ナラバ、吾々ノ諒解スル程度ニ十分ノ御説
 明ガナクテハ相成ラスノデアリマス、小八
 幡組合ニ於キマシテハ、曩ニ衆議院並ニ貴
 族院ニ請願ヲ致シテ、本件ノ免許ハ公益上
 ニ害ガアルカラ、漁業法ノ成文ニ從ッテ之
 ヲ取消シテ、地元漁業組合多數ノ者ニ出願
 漁業ノ免許アリタキモノデアルト云フ請願
 デアリマス、衆議院ニ於テハ昭和七年六月
 十四日、貴族院ニ於テハ三室戶敬光子爵ガ
 紹介議員トナラレマシテ、昭和八年ノ二月
 二十六日何レモ滿場一致ヲ以テ採擇サレテ
 居ルノデアリマス、然ルニ農林省ハマダ反
 省ヲシナイ、兩院ノ院議ヲ無視シテ、依然
 トシテ今日ニ至ルマデ此不法處分ヲ看過シ
 テ居ル理由ガ一體何處ニアルノデアリマ
 ス、甚ダ其意ヲ得マセヌ、法律ノ解釋ヲ正
 當ニ致シテ居ラス、從來ノ慣行ヲ無視シテ
 居ル、一私人ニ利益ヲ與ヘテ、多數漁民ヲ
 窮地ニ泣カシメテ居ル、貴衆兩院ノ請願採
 擇、滿場一致ノ議決ヲ無視シテ居ル、何等
 是ノ救済ノ方策ヲ樹テヨウトシナイ、何ノ
 故デアルカ、甚ダ吾々ハ分り兼ねルノデア
 リマス、茲ニ於テ地元ノ漁民並ニ其家族多
 數ノ者及ビ之ニ關係シテ居ル人々ニ於テ

ハ、頗ル揣摩臆測ガ行ハレテ居リマス、流言蜚語ガ甚ダ盛デアリマス、私共ハ安ニ之ヲ信ジマセヌ、又サウ云フコトハアリ得ヌト認メテ居リマスケレドモ、此組合員多數ノ者並ニ關係者多數ト云フ者ハ、疑惑ノ眼ヲ以テ免ニ角之ヲ見テ居ルト云フ事實ハ蔽フベクモアリマセヌ、抑、此漁場ト云フモノハ漁獲高ガ一年ニ三十万圓アルト謂ハレテ居ル、經營費十萬圓、生活費、雜費十萬圓ト見マシテモ、純益ガ一年ニ十萬圓殘ルトセラレテ居リマス、スルト二十年間ノ期限デアリマスカラ、此二十年ノ純益ト云フモノハ二百萬圓ト云フコトニナツテ、一地方トシテハ相當大キナ利權デアルト申サナケレバナラス、ソコデアリマスカラ揣摩臆測、流言蜚語ノ飛ブ所ハ、是ハ川邊家ノ死活ノ岐ル、問題デアツテ、是ダケノ大キナ利權ト云フモノガ消エテナクナツテハ、事容易ナラズト云フノデ、手段ヲ選バザル必死ノ猛運動ヲ爲シタモノデハナイカ、ドウデアラウカト云フ疑デアリマス、先代川邊正之助時代ヨリ、農林當局トハ親善ナル關係ガアツトサヘ傳ヘテ居ル者ガアル、現ニ川邊少年ノ近親者デアツテ、其親族會員ノ一人デアル者ガ、農林省ノ有力ナル地位ニ現ニ勤メツツアルト云フノハ事實デアリマス(拍手)其事實ガアルカラ疑ヲ有ツ譯デアリマセヌガ、サウ云フ事實ガアルカラ、流言蜚語モ起リ、揣摩臆測モ起ルノハ已ムヲ得ナイノデアリマス、先ノ某々大官ハ、川邊家ト懇親デアツトカナイトカ、或ハ年忌佛事ノ時ニハ花環ヲ贈ツトカ贈ラナカッタカ、色々ノ問題ト云フモノガ起ツテ居リマシテ、此地方ニ於テハ免ニモ角ニモ容易ナラザル疑問ト云フモノガ流レテ居ルト云フコトハ事實

デアリマス、ソコデアリマシテ戸田水産局長ハ確カ七年ノ三月三十一日ニ水産局長ニナツテ居ラレル、遠藤神奈川縣知事ガ免許ヲ與ヘタノハ、其三十一日後ノ五月ノ二日デアリマス、隨テ局長ニ於テハ詳細ナル事情ハ御熟知モナカッタノデアリマセウ、御熟知ナカッタト云フコトガ即チ同君ノ利益デアルト共ニ、又一面地元ノ者カラ言ハスレバ、此事情ヲ知ラヌ局長ガ來タノデアルカラ、是ハ或ハ天下下リ式ノ免許デアリマセウカト云フヤウナコトヲ言フ者モアルサウデアリマス、斯ウ云フ疑惑ガアリトスレバ、農林當局ハ是非其疑惑ヲ解イテ戴カナケレバ、地元民ハ承服ハ出來ヌノデアリマス一體此一人ノ川邊少年ニ此様ナ利權ヲ與ヘテ、多數ノ組合員ヲ有ツテ居ル此組合ニ與ヘズニ、其生活ノ基礎ヲ奪ツテ居ルト云フノハ一體ドウ云フ理由ナンデス、法律上ノ精神ヲ無視シテ居ル、又行政上不當ナル處分デアツテ、恐ルベキ惡例ヲ是レ一ツガ天下ニ貽スノデハナカラウカト思フ、漁業權ノ基礎ハ動搖スルノデハナイデセウカ、日本全體ノ漁民ハ何ト考ヘマセウ、或ル有力ナ資産家ガ猛運動ヲ起セバ、一朝ニシテ自分達ノ權利ト云フモノハ、其一人ノ手ニ歸シテ、將來生活ノ不安ニ怯エナケレバナラスト云フコトヲ、日本中ノ漁業家、漁民ガ考ヘルト云フコトハ、容易ナラヌコトデアルト思フ(拍手)漁政ノ紊亂ヲ來ス虞レガアリマス、其統一ヲ妨ゲマス、漁政百弊ノ端方此處ニ發スルノデハナイカトサヘ恐ル、者デアルノハ事實デアリマス、質問ハ簡單ニ要約セラレマス、質問主意書記載ノ通り第一項乃至第六項、第一ニ付テハ質問主意書記載ニ譲リマス、之ニ付テ事實、法

文、判例ニ基イテ御意見ヲ求メマス
第二項ハ漁村地先水面ノ漁業權ハ之ヲ其地元組合ニ免許スルヲ本則トシ、若シ地元漁業組合以外ノ者ニ免許セントスル場合ハ、其同意ヲ要スル慣例ガアルノデアルガ、其慣例ハ今モ御採リニナツテ居ルカ、尊重シテ御出デニナツテ居ルカ、此漁政上ノ方針ト慣例ヲ變更セラレタノデアルカ、變更セラレタトスルナラバ、其理由如何ト云フノデアリマス
第三項ハ貴業兩院ガ請願委員會ニ於テ滿場一致採擇シタ其院議ヲ尊重セザルノハ果シテ如何ナル理由デアルカ、其兩院ノ採擇ノ理由ガ誤リナリト云フナラバ、其理由ヲ此壇上ニ於テ説明ヲセラレタイ、更ニ進ンデ此不當ナル免許ヲ取消シテ、一般漁業組合ニ之ヲ認可スルノ措置ヲ執ル御考ガアルカナイカ
第四項、神奈川縣知事ノ爲シタル更新免許ハ、先ニ申述ベマシタ通りニ明ニ違法デアリ、無効デアルソレヲ日本中ノ各府縣ガ之ヲ前例トシテ、此例ニ從フ道府縣知事ガアツタナラバ、是ハ御許シニナルノデアルカ、是認スルノデアルカ、ソレヲ阻止サレルノデアルカドウデアルカ、前例ヲ正ス意思アリヤ否ヤ、之ニ做ウタモノガアツタ時ニハ之ヲ承認スル態度ヲ執ルヤ否ヤ
第五項、一體多數ノ人間、何百人ノ生活ニ影響ヲ及ボスヤウナ問題ヲ、一人ノミニ繼續シテ二三十年ノ間權利ヲ與ヘテ、之ヲ保護シナケレバナラスト云フ理由ト事情ガアレバ承リタイノデアリマス
第六項ト致シマシテハ、世間傳フルガ如ク、此間ニ不正ナ事ガアツタデハナイカト言フ者ガアル、農林當局此點ニ御氣ガ付イタ

コトガアルノデスカ、ナイノデスカ、不正ノ所爲アリト未ダ曾テ氣ガ付カナカッタ云フナラバ、將來改メテ之ヲ取調ベテ見ヤウト云フ意思ガオアリニナリマスカドウカ、過去ニ於テ不正ナル事實ナシ、現在ニ於テハ取調ベテ居ラス、將來モ之ヲ取調ベナイト云フノデアルカ、今御説ヲ承レバ、是ハ驚キ入ッタルコトデアルトシテ、新ニ調査ヲナサル所ノ態度ヲ御執リニナルカ、明快ナル御答辯ヲ得マシテ、然ル後ニ更ニ再質問ヲ致スデアリマセウ(拍手)
(政府委員子爵織田信恒君登壇)
○政府委員(子爵織田信恒君) 只今武富君カラ御熱心ナル地元ノ漁民ノ生活ノ爲ニ御質問ガゴザイマシタ、武富君ハ其専門家デモアラレマスシ、詳細ノ點ハ私ト致シマシテハ、書面ヲ以テ御答辯申上ゲタ方適當デアラウト思ツテ居リマス、唯一言申上ゲテ置キタイノハ、是ハ明治三十五年以來ノ問題デゴザイマシテ、既ニ行政訴訟ニ依テ確定シタ點ガアルノデアリマス、農林當局ト致シマシテハ、違法ノ行爲ハナイト思ツテ居ル次第デアリマシテ、免許ヲ取消スト云フヤウナコトハ只今考ヘテ居ラナイ次第デアリマス、簡單デアリマスガ御答致シマス
○武富君 簡單デアリマスカラ自席カラ御許ヲ願ヒマス
○議長(秋田清君) 極メテ簡單ニ願ヒマス
○武富君 極メテ簡單デアリマス、只今農林政務次官ハ、行政訴訟ニ依テ確定ヲシテ居ル旨ノ御答辯ガアリマシタガ、ソレハ古イ事柄ニ付テ行政訴訟片ガ付イテ居ルノデアリマス、私ノ伺ツテ居ルノハ、一昨年ノ五月二日神奈川縣知事ノ爲シタル處置

ハ不當デアルト認メテ、ソレヲ取消スカ取消サスカヲ質問シテ居ルノデアリマシテ、只今ノハ質問ノ御答ニナッテ居リマセヌ、改メテモウ一回御答辯ヲ煩ハシマス

〔政府委員戸田保忠君登壇〕

○政府委員(戸田保忠君) 只今申上ゲマシタト同ジコトヲ申上ゲルノデアリマスルガ、定置漁業竝ニ特別漁業ノ免許出願ニ付キマシテハ、既ニ行政訴訟ニ依リマシテ確定セラレタノデアリマシテ、其後ノ事情ニ變化ナキ限りハソレヲ今取消ス意思ハナイノデアリマス

〔發言スル者アリ〕

○議長(秋田清君) 靜肅ニ——靜肅ニ、質問ハ終局致シマシタ、只今鷺澤與四二君ヨリ議事進行ニ關スル發言ノ通告ニ接シテ居リマス、質問ニ對スル政府ノ答辯ニ關スル件トノコトデアリマス、此場合之ヲ許シマス——鷺澤與四二君

○鷺澤與四二君 極メテ簡單デアリマスカラ自席カラ御許シテ願ヒマス

○議長(秋田清君) 許可致シマス

○鷺澤與四二君 今月三日日本員ヨリ日英會商ニ關スル質問書ヲ提出致シ、政府ヨリ至急書面ヲ以テ御答ヲ願フヤウニ致シテ居タノデアリマスガ、今日ニ至ルマデ何等ノ御答ガナイノデアリマス、甚ダ遺憾ニ存ズル次第デアリマス、質問ノ要旨ハ、第一ハ日英綿業協會ニ於テ、英國綿業代表者ハ第三國市場モ協議内ニ含メルト云フ要求ヲ致シテ、之ヲ強硬ニ要求ヲ致シ、撤回ノ望ミガナイト云フ報道ガアルガ、此報道ニ關スル事實如何、是ガ第一デアリマス、第二ハ日英會商前ニ於テ、帝國政府ハ何等カノ形式ニ於テ、第三國市場ヲ除外スル意思表示

ヲシテ居ッタノカ居ラナイノカ、第三ハ我國ノ民間綿業代表者ハ、日本出發以前ニ於テハ、第三國市場問題ヲ除外スルト云フコトヲ前提ト致シテ、會議ニ出席致シタル理由ニ依リマシテ、若シ英國綿業代表者ガ前提ノ要求ヲ撤回セザルニ於テハ、三月七日即チ明日デアリマス、三月七日カ或ハ其以前ニ倫敦ヲ引揚ゲテ、歸國ヲ致スコト、云フ報道ガアルノデアリマスガ、其間ニ於ケル事實如何、第四ハ右ニ對シテ日本政府ハ此儘民間協會ヲ繼續スルニ於テハ、日英會商ノ覆滅ヲ見ルノハ當然デアアルノニ鑑ミ、民間協會ヲ打切ッテ、日英兩國政府間ノ外交ニ涉ニ移ス方針デアアルト云フ報道ガアルノデアリマスガ、是ガ事實ナリヤ如何、第五ニハ……

○議長(秋田清君) 鷺澤君——鷺澤君、ア

ナタニハ議事進行ニ關スル發言トシテ御許シタノデスガ、何カ質問ヲ爲サツテ居ルヤウデアリマスガ……

○鷺澤與四二君 質問ノ要項ヲ申シテ居ルノデアリマス

○議長(秋田清君) 議事進行ニ關スル發言ヲ……

○鷺澤與四二君 モウ少シデアリマス、第五ハ日印「シムラ」會商ニ於テ帝國政府ノ執ツタ態度、現在ノ日英會商……〔發言スル者アリ聽取スル能ハス〕件、第六ハ日本政府ハ第三國……〔發言スル者多ク聽取スル能ハス〕セシメナイト云フ點ニ付テハ、當初ノ方針通り之ヲ御貫徹ニナルヤ否ヤト云フ此六項デアリマス、此點ヲ詳細ニ書面ヲ以テ報告ヲ願ヒタイノデアリマス、而モ七日ト言ヘバ明日デアリマス、而モ報道ハ、最早ヤ決裂ノ外ナシト報道ヲ致シテ居ルノデアリ

マス、而シテ協議ノ内容ニ關スル決裂デアアルナラバ、國際外交上ニ於テアリ得ルコトデアリマスガ、殆ド豫見セザル諒解セザル第三國ヲ……

○議長(秋田清君) 鷺澤君——鷺澤君、御發言中デアリマスガ、簡單ニ發言スルト云フ御約束ニ背キ、且ツ違式ノ發言デアリマスカラ發言ヲ中止致シマス

○青木雷三郎君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會

午後五時三十七分散會

衆議院議事速記録第十七號中正誤

頁段 行 誤 正

三五二 三 二九 二二四 二四四

衆議院議事速記録第十八號中正誤

頁段 行 誤 正

三九三 四 三四 赤字ノ

四〇三 四 一〇 赤字公債ノ

四〇四 四 一二 滯解

四一三 三 二六 濱野

四一四 一 一四 國松君

四一四 一 一四 議長ノ

アリマセヌカ